

年 報 27

2010年度
(平成22年度)

2012. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 27

2010年度
(平成22年度)

2012. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

本書は、平成22年度（2010）に当センターで実施した発掘調査（7件）及び試掘調査や立会調査（57件）と、遺跡確認踏査（1件）などの概要と、整備事業に伴う調査（2件）や県内山岳信仰遺跡分布調査、遺跡発表会等の普及事業内容を報告するものです。

記録保存のための発掘調査は次のものがあります。県庁舎耐震化等整備事業に伴う発掘調査では、山梨県庁舎第1南別館跡地やその周辺で行われました。この箇所は、旧甲府城内の楽屋曲輪等とされ、甲府城関連の遺構が存在する可能性が高いとされていました。その結果、調査区の西側には東西方向に長さ約27.0m、現存高約1.5～4.0mで約60度の角度で積まれる築城当時の石垣が認められ、その下部には、胴木等も検出されました。また、大手門に関連する石垣や、石列や暗渠跡等も検出されました。他の遺構として、調査区はぼ中央に瓦廃棄跡や木製品廃棄跡等が確認されています。

リニア実験線建設に伴う発掘調査において、三光遺跡（笛吹市御坂町）は2カ年に渡り行われ、今年度は、集石土坑や縄文時代中期～後期の土器、石器が検出されました。中丸東遺跡（笛吹市境川町）では、縄文時代前期の土坑や遺物包含層、古墳時代前期の包含層が確認され、該期の遺物が確認されました。御坂中丸遺跡（笛吹市御坂町）は、縄文時代早期～前期にかけての集石土坑2基等、該期の土器や石器が検出されています。土器片の中には、野生ダイズであるツルマメの圧痕が確認できるものがあり、注目されます。

都留バイパス建設に伴う美通遺跡（都留市）は三年目となり、縄文時代中期の住居跡3軒や、土坑23基の中には弥生時代のものも含まれ、このほか溝状遺構12条、集石・集石土坑等と共に、遺物も確認されています。

甲府法務総合庁舎建設工事に伴う甲府城下町遺跡では、土坑や井戸跡、溝状遺構が検出され、中世のカワラケや中・近世の陶磁器片、瓦片が確認されました。

中部横断自動車道建設事業に伴って行われた町屋口遺跡（富士川町）では、甲州三河岸の一つである青柳河岸へと続く江戸～明治期の道や、江戸末期の水路や水田跡が確認され、該期の陶磁器や古銭、船の板材や舟釘などが確認されました。

整備事業に伴う調査としては、県史跡甲府城跡においての石垣修繕工事を継続的に実施しており、今年度は稲荷曲輪北面東側および西面の石垣修繕工事を実施し、整備された石垣をみる事ができます。

また、本年度からは県指定史跡甲府城跡において、鉄門復元整備が始まりました。鉄門は2階建ての櫓門として、本丸の南側に建築され、明治初年まで存在していたことが歴史史料などでも確認されています。これらの史料を基に整備を行うこととし、今年度は、基礎・架設工事を中心に、平成24年の完成を目指しております。

本年度で2年目となる「山梨県内山岳信仰遺跡分布調査事業」では、富士山中で最古の神社と伝えられる、富士山二合目の「富士御室浅間神社本宮」と「里宮」、富士山の登り口にかつてあったと伝わる小堂の跡、富士山五合目にあったとされる山小屋群の跡、富士山二合目にあった定善（禪）院跡等の試掘調査を行いました。これらの時期は中世～江戸期とされます。また、北口本宮富士浅間神社と河口浅間神社の境内地の地中レーダー探査を実施しています。

今年度で23回目となる市町村埋蔵文化財専門職員研修会は、文化庁記念物課文化財調査官 水ノ江和同氏をお迎えして、文化庁が刊行した「発掘調査のてびき」をもとに、大きな転換期を迎えている埋蔵文化財行政の現状や、標準的な発掘調査のあり方等について、全国的な調査事例を踏まえ講演を頂きました。

資料普及事業の内容や対象者は次の人数になります。山前支援事業830人、発掘体験セミナー510人、講座講演会2,316人、資料貸出516人、職場体験23人でありました。

当センターでは、今まで以上に埋蔵文化財の調査研究、保存と保護に努力し、その貴重な資料を幅広く活用するとともに、学校教育や社会教育への普及活動に励んでいきたいと考えていますので、今後ともなお一層ご理解とご支援をお願い申し上げます。

2012年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 平賀孝雄

目 次

序

凡例・職員組織

第Ⅰ章 2010年度の事業概要

1	発掘調査等	1
2	整理作業	1
3	資料普及事業	2
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧	4
5	第23回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	7
6	遺跡調査発表会	7
7	埋蔵文化財シンポジウム	8
8	山梨の遺跡展2011	9
9	広報誌『埋文やまなし』	10
10	県指定史跡甲府城跡活用事業	10
11	遺跡データ管理（GIS）	12
12	発掘調査・整理作業の標準化に関する検討	13
13	寄贈・購入図書	13

第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

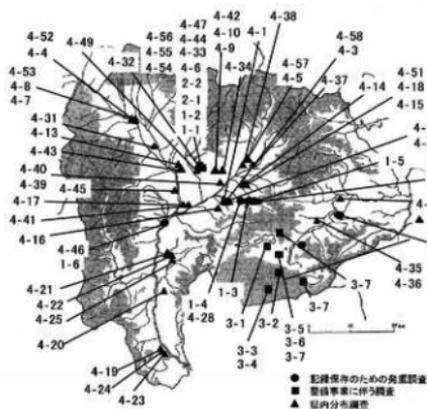
1	記録保存のための発掘調査	
1-1	甲府城跡	14
1-2	甲府城下町遺跡	17
1-3	三光遺跡（第二次）	19
1-4	中丸東遺跡	21
1-5	御坂中丸遺跡	23
1-6	町屋I遺跡	25
1-7	美通遺跡（B4区）	27
2	整備事業に伴う調査	
2-1	県指定史跡甲府城跡（石垣整備事業）	29
2-2	県指定史跡甲府城跡（鉄門復元整備事業）	31
3	分布調査	
	山梨県内山岳信仰遺跡分布調査	33
4	県内分布調査	37

第Ⅲ章 県内の概況

1	届出件数と内容	72
2	発掘調査	72
3	指定有形文化財（考古資料）及び指定史跡	72
4	発掘調査の成果と保存整備事業	72
5	発掘調査体制	73

届出件数・発掘調査件数の推移・2010年度県内発掘調査一覧 74～83

凡例



2010年度 発掘調査等遺跡位置図

- 1 本書は、2010年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 2 本書の編集は、高野玄明が行った。
- 3 2010年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2011年3月末日現在で集計したものである。
- 4 第2章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の()内は、調査対象面積である。
- 5 左記の地図は、2010年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1頁の発掘調査の表に対応している。

2010(平成22)年度 職員組織

所長	小野正文
次長(兼)	平賀孝雄
総務課長(兼)	平賀孝雄
調査研究/資料普及課長	出月洋文

総務課	
主査	小林洋一
主任	松尾秀樹
主事	下野由香

調査研究課 調査第一担当	
副主幹・文化財主事	高野玄明
主査・文化財主事	野代幸和
副主査・文化財主事	宮里学
非常勤嘱託	長田隆志
非常勤嘱託	古川明日香

資料普及課 資料第一担当	
主査・文化財主事	小林健二
副主査・文化財主事	小林万里子
主任・文化財主事	依田幸浩
主任(事)(兼)	中山尚行

調査研究課 調査第二担当	
副主幹・文化財主事	山本茂樹
主査・文化財主事	三田村美彦
副主査・文化財主事	石井明
非常勤嘱託	加々美結実

資料普及課 資料第二担当	
主査・文化財主事	保坂和博
主任・文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	小澤美和子
非常勤嘱託	古郡雅子

調査研究課 調査第三担当	
主査・文化財主事	吉岡弘樹
主査・文化財主事	皆川賢司
副主査・文化財主事	笠原みゆき
主任・文化財主事	堀込紀行
臨時職員	塩谷風季

※7/31退職

第 I 章 2010年度の事業概要

1 発掘調査等

2010年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第 II 章で述べることにする。

1) 記録保存のための発掘調査

番号	調査名	番号	調査名
1-1	甲府城跡(黒川合戦関連発掘調査)	1-5	旧府中公園跡(山梨県リニア実験施設建設)
1-2	甲府城跡(黒川合戦関連発掘調査)	1-6	有賀川遺跡(中野市山梨県立総合資料館)
1-3	二木遺跡(山梨県リニア実験施設建設)	1-7	美濃河原34区(旧県立総合資料館)
1-4	中丸遺跡(山梨県リニア実験施設建設)		

2) 整備事業に伴う調査

番号	調査名	番号	調査名
2-1	県庁史跡甲府城跡(石門地区整備)	3-1～7	山梨県内11箇所発掘調査
2-2	県庁史跡甲府城跡(石門地区整備)		

3) 分布調査

4) 県内分布調査

番号	調査名(試掘調査)	番号	調査名(立合調査)
4-1	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(中丸遺跡)	4-20	山梨県リニア実験施設建設事業(黒野町遺跡)に伴う立合調査(黒野町遺跡)
4-2	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(中丸遺跡)	4-21	旧遺跡141発掘調査(改修事業に伴う立合調査(黒野町遺跡))
4-3	山梨県リニア実験施設建設事業(工業部遺跡)に伴う試掘調査(赤坂町6区(未発掘))	4-22	県庁史跡甲府城跡(石門地区)に伴う立合調査(黒野町遺跡)
4-4	新町農機具倉庫建設に伴う試掘調査(新町農機具倉庫遺跡)	4-23	甲府市総合資料館建設に伴う立合調査(石門地区)
4-5	西野農機具倉庫建設に伴う試掘調査(山梨県庁史跡)	4-24	長久保川(川口)建設に伴う立合調査(大井遺跡)
4-6	県庁史跡甲府城跡(石門地区)に伴う試掘調査(甲府城跡)	4-25	長久保川(川口)建設に伴う立合調査(大井遺跡)
4-7	県庁史跡甲府城跡(石門地区)に伴う試掘調査(甲府城跡)	4-26	長久保川(川口)建設に伴う立合調査(大井遺跡)
4-8	県庁史跡甲府城跡(石門地区)に伴う試掘調査(甲府城跡)	4-27	長久保川(川口)建設に伴う立合調査(大井遺跡)
4-9	県庁史跡甲府城跡(石門地区)に伴う試掘調査(甲府城跡)	4-28	長久保川(川口)建設に伴う立合調査(大井遺跡)
4-10	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-29	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-11	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-30	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-12	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-31	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-13	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-32	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-14	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-33	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-15	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-34	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-16	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-35	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-17	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-36	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-18	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-37	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-19	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-38	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-20	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-39	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-21	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-40	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-22	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-41	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-23	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-42	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-24	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-43	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-25	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-44	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-26	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-45	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-27	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-46	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-28	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-47	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)
4-29	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う試掘調査(第2次(甲府市側))	4-48	山梨県リニア実験施設建設事業(上野町遺跡)に伴う立合調査(大井遺跡)

2 整理作業

2006年度の整理作業は、以下のとおりである。

1) 基礎的整理作業

番号	調査名	番号	調査名
1	甲府城跡(黒川合戦関連発掘)	4	甲斐口遺跡
2	県庁史跡甲府城跡(石門地区整備)	5	山梨県内山梨県立総合資料館
3	甲府城跡(黒川合戦関連発掘)		

2) 本格的整理作業

番号	調査名	番号	調査名
1	甲斐口遺跡	8	赤坂町6区A区・C区
2	中丸・中丸東遺跡	9	赤坂町6区B区
3	六ツ井遺跡	10	山梨県立総合資料館 平成22年度整備
4	大淵遺跡	11	三木遺跡
5	鶴巻寺川内遺跡	12	鶴巻寺川内遺跡
6	新山遺跡	13	石巻遺跡
7	新山遺跡	14	県内分布調査報告書(平成22年1月～12月)

3) 報告書刊行一覧

番号	調査名	番号	調査名
第268集	中丸・中丸東遺跡	第275集	美濃河原B区
第269集	六ツ井遺跡	第276集	県庁史跡甲府城跡 平成22年度調査・整備報告書
第270集	本丸遺跡	第277集	二木遺跡
第271集	鶴巻寺川内遺跡	第278集	新山遺跡
第272集	新山遺跡	第279集	山梨県内分布調査報告書(平成22年1月～12月)
第273集	石巻遺跡	第280集	山梨県内分布調査報告書(平成22年1月～12月)
第274集	美濃河原A・C区		

3 資料普及事業

2010年度（平成22年度）年度に実施した事業は、県内の小・中学校等へ出向き土器作りなどについて支援を行う「出前支援事業」、発掘調査現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」、中学生・高校生を発掘調査や整理事業の現場に受け入れる「職場体験」などを行った。この他、講座・講演会等への講師派遣、学校の教職員を対象に埋蔵文化財を利用した学習を授業に積極的に取り入れる指導者の育成を目的とした「山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修会」、一般の方を対象に遺跡現地説明会、山梨県考古学協会との共催による遺跡調査発表会、山梨県生涯学習推進センターとの共催による埋蔵文化財シンポジウム「遺跡から探る墓制の変遷」を実施した。さらに今年度は、原始・古代以来の様々な技術を体験してもらうため、県指定史跡甲府城跡を会場に甲府城鉄門整備事業との合同企画「ひらけ!!玉手箱」を県民の日（11月20日）に開催し、多くの来場者があった。これらの事業以外にも「考古資料の貸出」として、遺物貸出キット・火おこし道具・映像ライブラリーの貸出も行った。

文化庁の埋蔵文化財保存活用整備事業による国庫補助金を受けて活動した「埋蔵文化財学習活用事業」では、学校教育などで広く活用できるように、過去に出土した金属製品の再整理と古墳時代の鏡や鉄斧・鎌の復元品、活用パンフレットの作成を行った。



出前支援事業（土器成形）



出前支援事業（土器焼成）



出前支援事業
（出土品にさわってみよう）



山梨の考古学と
埋蔵文化財活用研修会



発掘体験セミナー

普及事業集計表

月	学校への出席支援事業	人数	月	開催・講演	人数	月	遺物など貸出・利用	人数	月	来館体験セミナー・夏季会	人数	月	職場体験参入	人数
4	富中中学校「土器作り」	84	4	「甲府城跡」内仕込「裏成講座」	13	4	富中中 まいふん焼物ライブラワー	84	7	第1回 町屋口遺跡	26	7	インターシップ町屋口遺跡作業体験	1
5	富二里支小學校「土器作り」	11	4	「まきとど台所」中継土器作り(土器作り)	40	4	富二里支小 まいふん焼物ライブラワー	11	第2回 町屋口遺跡		4		インターシップ町屋口遺跡作業体験	1
8	富中中学校「土器作り」	84	5	「甲府城跡」内仕込「裏成講座」	15	5	大町内小 まいふん焼物ライブラワー	15	8	町屋口遺跡現場延長学会(教員対象)	13	8	インターシップ富中中学校作業体験	2
11	富三里支小學校「土器作り」	11	5	「まきとど台所」中継土器作り(土器作り)	40	5	田原南小 まいふん焼物ライブラワー	44	9	甲府城跡現場延長学会(教員対象)	60	9	インターシップ甲府南中学校作業体験	4
6	田原南小學校「土器作り」	64	6	「甲府城跡」内仕込「裏成講座」	15	6	豊島小 まいふん焼物ライブラワー	41	11	甲府城跡(旧庁舎内)現場延長学会	30	11	インターシップ甲府南中学校作業体験	6
15	大町内小學校「土器作り」	15	6	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	43	6	三浦小 まいふん焼物ライブラワー	8		富士山あそびら〜ユージアム	17	8	インターシップ甲府南中学校作業体験	2
4	田原南小學校「土器作り」	44	6	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	40	6	かまで支援学校 水おこし道具	28	11	甲府城跡(旧庁舎内)現場延長学会①	250	11	インターシップ甲府南中学校作業体験	1
4	三宮小學校「土器作り」	41	7	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	29	7	かまで支援学校 まいふん焼物ライブラワー	28	8	甲府南地区児童育成会「町屋口遺跡見学」	50	8	インターシップ甲府南中学校作業体験	3
8	三宮小學校「土器作り」	8	8	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	29	8	山梨高校 水おこし道具	22		甲府城跡(旧庁舎内)現場延長学会②	60		インターシップ甲府南中学校作業体験	1
8	三宮小學校「土器作り」	8	8	やまなし児童見聞館「八代郡の歴史と文化」	100	8	緑の少年団山梨県連盟 水おこし道具	11						2
15	大町内小學校「土器作り」	15	8	山梨の考古学・歴史文化講座「2日目の甲斐」	13	8	緑の少年団山梨県連盟 まいふん焼物ライブラワー	22						
22	高井小學校「土器作り」	22	9	山梨の考古学・歴史文化講座「3日目の甲斐」	2	9	田原南小學校 水おこし道具	36						
41	豊島小學校「土器作り」	41	9	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	33	10	中津北小學校 水おこし道具	81						
160	石田小學校「土器作り」	160	9	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	47	1	富三里支小 まいふん焼物ライブラワー	28						
80	高井小學校「土器作り」	80	10	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	25	2	電玉北小 水おこし道具・発見キット	29						
81	田原南小學校「土器作り」	81	10	2010年度「上州」遺跡調査発表会	79	2	電玉北小 まいふん焼物ライブラワー	29						
81	田原南小學校「土器作り」	81	11	アブニョウフェスティバル	50									
			11	ひらけ！玉手箱	100									
			12	ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	35									
				高妻で、焼きいり！	114									
			1	やまなし児童見聞館「歴史時代の発見」	91									
				やまなし児童見聞館「歴史時代の発見」	88									
				やまなし児童見聞館「古代の甲斐」	83									
				やまなし児童見聞館「やまなしの歴史」	83									
				ことよき助平塚早野学園「古代の甲斐」	21									
			2	電玉北小の歴史・文化講座「アブニョウフェスティバル」	80									
17件		800		20件	2316		14件	516		9件	510		10件	23

人数統計 4,195人

件数統計 76件

4 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出許可一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
1	6.1～9.30	森立博物館	森立博物館の研究資料として使用するため	西々漆器 馬・中遺体
2	7.9～9.10	ミュージアム都留	企画展「きて むて まなぶ 昔のくらし」に展示のため	瀬川河岸跡 イロの類遺体1式 サブ遺体1式 マクノ遺体1式 口部5点
3	9.7～11.17	大田区郷土博物館	特別展『ふしぎな講文土器』展で展示のため	安宅寺遺跡 土器1点 大井遺跡 土器4点 中谷遺跡 土器1点 花鳥山遺跡 土器1点 宮の指遺跡 土器1点 早ッ原遺跡 土器4点 勝田面C遺跡 土器2点
4	8.7～8.20	富士吉田市歴史民俗博物館	「縄文土器作り教室」で製作見本とするため	早ッ原遺跡 土器4点 勝田面C遺跡 土器2点
5	9.26～12.5	下関市立考古博物館	平成22年度企画展「もったいないの考古学 資源利用の知恵と工夫」に展示のため	窟倉遺跡 けつ以耳部0.5点 長門門遺跡 飯片1点 栗山北遺跡 縄文1点 花鳥山遺跡 土器1点 早ッ原遺跡 土器1点 安宅寺遺跡 土器1点 原町高至古墳前遺跡 土器2点 早ッ原遺跡 土器1点 源町高至高校前遺跡 石器2点
6	10.1～12.15	河津遺跡博物館	特別展「のぐる うすまくー十例 百と鳥のデザイン」に展示のため	安宅寺遺跡 土器1点 原町高至古墳前遺跡 土器2点 早ッ原遺跡 土器1点 源町高至高校前遺跡 土器2点
7	10.15～12.24	株式会社アルカ	出土石器の複製観察・使用依頼等のため	大井遺跡 土器1点
8	平成23.1.13 ～4.6	長府島中才市立博物館	企画展「土器展」に展示のため	源町高至高校前遺跡 土器2点 大井遺跡 土器1点

古代衣装貸し出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
1	4.27～4.30	鶴原小学校	社会科学習のため	真鍮衣 2着 袴 2着 巫女 2着 官衣 2着 女官 2着
2	5.7～5.14	芦川小学校	社会科学習のため	真鍮衣 2着 胡服 2着 巫女 2着 官衣 2着 女官 2着
3	5.31～6.4	瀬山北小学校	社会科学習のため	真鍮衣 2着 胡服 2着 巫女 2着 官衣 2着 女官 2着
4	6.5～6.15	船津小学校	社会科学習のため	真鍮衣 3着 胡服 3着 巫女 3着 官衣 3着 女官 3着
5	6.21～6.23	長町黒志館高等学校	社会科学習のため	官衣 1着 女官 1着
6	6.27～7.11	やまびこ支援学校	社会科学習のため	真鍮衣 1着 胡服 1着 巫女 1着 官衣 1着 女官 1着
7	7.15～7.23	甲南女子大学	社会人講座「奈良時代の服飾文化 万葉人のファッションを探る」の資料として用いるため	官衣 1着 女官 1着 女官 1着
8	5.7～5.14	平野平和高等学校	学園祭クラス企業の展示発表会内で使用のため	真鍮衣 2着 胡服 2着 巫女 2着

番号	貸出期間	中継先	利用目的	中継物件名	
9	7.9~9.2	ミュージアム形質	企画展『きてみてまなぶ 昔のくらし』で展示のため	富安	2冊
				女宮	2冊
				貴顕衣	1着
				胡服	1着
				帯女	1着
10	8.11~8.19	物産八幡神社	福前市マーフスタバルで利用のため	菅束	1着
				女宮	1着
				貴顕衣	1着
				胡服	1着
				帯女	1着
11	8.25~9.11	奈良国立奈良大学西宮分校	文化祭の展示のため	菅束	1着
				女宮	1着
				貴顕衣	3着
				胡服	3着
				帯女	3着

写真資料貸出並びに掲載許可一覧

番号	貸出期間	中継先	利用目的	中継物件名	
1	4.7.16日	福マ博物館	甲府CATV制作「やまなし歴史紀行」利用のため	甲斐前子塚古墳	掘出土状況1点
				坂部遺跡	掘出土状況1点
				百々遺跡第1地点	掘出土状況1点
2	4月17日	歴史博物館	「チンギス・ハーンとモンゴルの聖堂展」関連展示に使用するため	大塚東丹後遺跡	漆器1点
				二本野遺跡	漆器1点
				坂部遺跡	漆器1点
3	4月28日	朝日新聞出版資料	『週刊朝日』自然園芸の巻』第49号に掲載のため	坂林遺跡	縄文土器1点
4	5月12日	山梨日日新聞社	山梨日日新聞文化面「古代の都」に掲載のため	大塚遺跡	縄文土器1点
5	5月19日	甲府市	広報よりよ6月号「文化財めぐり 甲府のお宝みつめぐり」に掲載のため	甲斐前子塚古墳	転文土器1点
6	5月27日	山梨日日新聞社	山梨日日新聞紙面「春秋入試実況講座」に掲載のため	一の平遺跡	縄文土器1点
7	5月31日	山梨日日新聞社	単行本「やまなし遺跡探訪」に掲載のため	甲斐前子塚古墳	木柱状況1点
				丸山塚古墳	六雲金葉1点
					石車内部1点
					坂部遺跡写真1点
				かんかん塚(茶塚)古墳	六雲金葉写真1点
					馬具1点
					石室1点
				東山南遺跡	漆器土器写真1点
					遺物集合1点
					新井出土状況1点
				東山南遺跡	漆器土器写真1点
					須野遺跡合1点
					調米島1点
				着津水遺跡	漆器土器写真1点
					土器集合1点
					調米島1点
				緑塚古墳	土器土器写真1点
				四ツ塚古墳群	銅土器1点
					土版1点
				二本塚古墳	一斗の受皿1点
				甲府城	稲荷徳利形土器写真1点
				中津原古墳	遺物集合1点
				板針前久保遺跡	漆器土器1点
					遺跡写真1点
					石版1点
				天持穴遺跡	漆器1点

発行	発行期間	申請者	利用目的	申請物件名
				心器1点
				藤沼次郎
				遺跡遺書1点
				註釋の巻1点
8	5月31日	日本経済新聞社	日本経済新聞紙面「美の泉」に掲載のため	大野道雄
9	6月31日	小学館	「知庫」8月号に掲載のため	飛林道雄
10	6月25日	山梨放送	YBSテレビ「英顔がいっぱい 山川三郎町の旅」で放映のため	鳥居信実吉原
11	7月31日	大田区第3博物館	特別展「よしみと文士館」展5号展覧会のため	安江寺道雄
				大野道雄
				中谷道雄
12	6月28日	山梨県考古学協会	「山梨考古」117号に掲載のため	東山西道雄
				かんかん草(茶塚)吉塚
				甲斐新了蔵立塚
13	7月31日	成成社	「秩府考古と日本の農耕の歴史」に掲載のため	大野道雄
				藤倉道雄
				中谷道雄
14	8月3日	宮城県教育委員会	文化財パンフレットに掲載のため	西ノ郷古家群
				延宝古塚
				二の宮道雄
15	8月18日	市川三郷町社会科歴史本館 運営委員会	市川三郷町小学校社会科土学学習資料「わたしたちのまよ」に掲載のため	宮の前道雄
16	8月18日	山梨放送	YBSテレビ「英顔がいっぱい 秩府」で放映のため	口々道雄
17	8月25日	下関市立考古博物館	企画展「もったいない」の考古学・資源利用の知恵と工夫」展示 啓蒙戦のため	西谷道雄
				長州口道雄
				栗山北道雄
				北島1道雄
18	9月29日	jamonium	オリジナルシャツのデザイン資料として	一の沢道雄
19	9月25日	飛騨富加博物館	特別展「あまのうずまき-縄文 円と舌のデザイン」パネル展示のため	安成寺道雄
				京町養老高校道雄
				甲ヶ原道雄
				西谷道雄
				飯沼宮口道雄
20	10月1日	小学館	「J・H日本の歴史」第2巻に掲載のため	丁ヶ谷道雄
21	10月19日	弘島市文化財団	企画展「金瓶九の系図」誘導表示のため	平野城
22	10月19日	石巻市教育委員会	企画展「特別展毛羽コレクション『まほろばの道～古代石巻地方のくらしと交差～』で展示のため	飯田道雄
23	10月19日	雄山閣	「報馬台(ヤマト)園」に掲載のため	鳥居信実吉原
24	11月5日	教育同人社	6年生社会科資料集「山梨県」に掲載のため	甲斐新了蔵立塚
				飯田道雄
				上の平実道
				甲ヶ原道雄
				京町養老高校道雄
				飯沼宮口道雄
				一の沢道雄
26	11月22日	発行社	新学社発行「歴史資料集」に掲載のため	大野道雄
27	12月15日	アランド・エル	高級道路情報誌「ハイウェイやまなし冬号」に掲載のため	寺古守道雄
				平泉鏡子塚道雄
				飯林道雄
28	12月27日	どりむ社	PRD研究開発刊「昔のことば辞書」に掲載のため	坂部道雄
29	平22年2月16日	町田書房新社	「列島の考古学-古墳時代」に掲載のため	平泉鏡子塚道雄
30	平22年2月16日	NHKエディターブライズ	NHK DVD教材「小学校社会」に掲載のため	大野道雄
31	平22年3月30日	町田書房新社	「列島の考古学-古墳時代」に掲載のため	上野原道雄
32	平22年3月16日	東京文化財研究所・文化 連携開発センター	図解人材育成用教材「土器の復元処理」に掲載のため	双葉2号塚
				鹿刀1点
				貝+3号塚
33	平22年3月31日	弘島書志	「学びあえる歴史」に掲載のため	甲ヶ原道雄
				石皿1点
				磨石

5 第23回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

開催日時 2010年12月17日

会場 風土記の丘研修センター 講堂

講師 文化庁文化財調査官 水之江和同

本研修は、県内の埋蔵文化財担当者の資質向上と技術習得を目的としているもので、今回で23回目となる。

今回のテーマは、講読「発掘調査のてびき」と題して、2010年、文化庁記念物課が監修し出版された「発掘調査のてびき」をテキストにし、水之江調査官が、大きな転換期を迎えている埋蔵文化財発掘調査の現状をふまえ、これからの標準的な発掘調査の方法について、日本全国で行われている具体的な調査事例を挙げ、講義をしていただいた。



6 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、県内で当該年度に発掘調査された遺跡について、調査内容や成果を広く公表する場として例年2回（上半期・下半期）開催している。開催は、山梨県考古学協会と共催で実施し、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。なお、平成23年3月12日に予定していた下半期遺跡調査発表会は、3月11日に発生した東日本大震災の影響により延期することになった。

○2010年度上半期遺跡調査発表会【参加人数約70名】

開催日時：2010年10月23日（土）午後1時30分～4時30分

開催会場：風土記の丘研修センター 講堂

発表 1 北杜市 神の前B遺跡（発表者 北杜市教育委員会 村松佳幸）

縄文時代中期、古墳時代前期から後期、平安時代後期の竪穴住居や逸見牧の放牧馬の囲い込み施設である可能性を示唆する溝跡などが発見された。

発表 2 都留市 美通遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 笠原みゆき）

縄文時代中期の竪穴住居と堅果類（クルミ）等や県内では検出例の少ない弥生時代前期の土坑墓などが発見された。

発表 3 甲府市 塚本遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 柳原功一）

弥生時代後期と平安時代の竪穴住居をはじめ弥生時代後期末から古墳時代前期の甲府市西部域最大級の方形周溝墓や弥生時代以降の自然流路（河道）が発見された。弥生時代後期の磨製石鎌の未製品や中部高地系櫛描波状文土器などが発見された。また、河道内から巡方や竪穴住居などで縁軸陶器が多数出土していることから、周辺に公的施設が存在したことが想定された。

発表 4 甲斐市 松ノ尾遺跡（発表者 甲斐市教育委員会 須長愛子）

古墳時代後期から平安時代末期にかけての竪穴住居や土坑などが発見され、古代から連続と形成された集落であることが確認された。

発表 5 南アルプス市 前御勅使川堤防址群（発表者 南アルプス市教育委員会 斎藤秀樹）

明治時代に使われていた「お熊野堤」と呼ばれる堤防跡から竹蛇籠が発見され、前御勅使川の治水技術の一端が明らかとなった。

○2010年度下半期遺跡調査発表会【開催予定】

2011年度上半期遺跡調査発表会と併せて、平成23年10月下旬、風土記の丘研修センターで開催する予定である。

2010年度下半期分の発表予定遺跡は、次とおりとなる。

紙上報告「平成22年度の県内埋蔵文化財の調査と保護」

(報告者 山梨県教育庁学術文化財課埋蔵文化財担当)

発表 1 北杜市 金生遺跡 (発表者 北杜市教育委員会 佐野 隆)

発表 2 笛吹市 甲斐園分寺跡 (発表者 笛吹市教育委員会 大木丈夫)

発表 3 山梨市 三ヶ所遺跡 (発表者 帝京大学山梨文化財研究所 榎原功一)

発表 4 南アルプス市 百々・上八田遺跡 (発表者 南アルプス市教育委員会 田中大輔)

発表 5 甲府市 甲府城跡-栗屋曲輪地点- (発表者 山梨県埋蔵文化財センター 野代幸和)



7 埋蔵文化財シンポジウム

平成16年度から開催している埋蔵文化財シンポジウムは、これまで主に中世から近世・近代にかけての遺跡をテーマに、考古学と関連諸分野との連携により実施し、成果を上げてきた。当センターが開催する「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」は、最新の発掘調査成果を速報的に発表するものであるのに対し、この埋蔵文化財シンポジウムは、一つのテーマのもとに発掘調査で得られた資料を研究した成果を深く掘り下げ、発信するという位置付けにある。

2010年度(平成22年度)は、引き続き財団法人やまなし文化学習協会山梨県生涯学習センターの「やまなし再発見講座」と連携して、「遺跡から探る墓制の変遷」と題して実施した。「墓」は、死者の亡骸や遺骨を葬り、故人を弔う場所であり、太古の時代から各時代にわたってさまざまな形態のものが生まれ、現代に至っており、それらが営まれた背景とともにその時代の死生観・来世観を垣間見ることが出来る。それはまた、当時の社会を敏感に反映したものであり、考古学では弥生・古墳時代に代表されるように副葬品をはじめ墓制に関するさまざまな遺構・遺物が重要な研究資料となっていることから、今回普遍的なテーマとして墓制を取り上げた。

シンポジウム開催前の4回のサテライト講座では、4名の講師により発掘調査で得られた情報をもとに、墓制から見たそれぞれの時代の社会について取り上げ、以下の内容の講演を行った。

- | | | |
|-----------------|--------------|--------------------|
| 日時 平成23年1月6日(木) | 「縄文時代の墓制」 | 北杜市教育委員会 佐野 隆氏 |
| 1月13日(木) | 「弥生・古墳時代の墓制」 | 埋蔵文化財センター 小林健二 |
| 1月20日(木) | 「古代の墓制」 | 蕪崎市教育委員会 山下孝司氏 |
| 1月27日(木) | 「中世・近世の墓制」 | 帝京大学山梨文化財研究所 畑 大介氏 |

これらの講演は、山梨県生涯学習推進センターで午後2時から4時まで行われると同時に、県内の各

サテライトスクール（中北合同庁舎・東山梨合同庁舎・南巨摩合同庁舎・北都留合同庁舎）へも配信された。そして、これらの講演を受け、まとめのシンポジウムとして特別講演とパネルディスカッションを以下の日程で開催した。

日 時 平成23年2月6日（日）午後1時～4時30分

会 場 山梨県立男女共同参画推進センター「びゅあ総合」・大研修室

日 程 午後1時00分～1時15分 開催挨拶

午後1時15分～2時45分 特別講演「移り変わる墓と社会」専修大学 土生田純之教授

午後2時45分～3時00分 休憩

午後3時00分～4時25分 パネルディスカッション「遺跡から探る幕制の変遷」

パネラー：土生田純之・佐野 隆・山下孝司・畑 大介・小林健二
コーディネーター：埋蔵文化財センター 所長 小野正文

午後4時25分～4時30分 閉会

特別講演では、古墳時代を中心とした幕制の変遷と、それを生み出した社会について、土生田先生より全国的な視点で講演していただいた。また、パネルディスカッションでは、各担当者より発掘調査や研究を通じて明らかになってきた各時代の墓制の変遷をもとに、死をめぐる認識の変化、さらには社会の変化について討論を行いながら、「墓とは何か」について会場からの質疑応答を交えながら考えた。

8 山梨の遺跡展2011

「山梨の遺跡展2011」は、平成22年度に県内で実施された発掘調査の成果などを、いち早く県民の方々へ公開するという趣旨で、平成23年3月15日から4月10日まで県立考古博物館多目的室において開催した。

今年度は、従来の展示内容とともに、甲府城跡鉄門復元整備を中心とした甲府城跡関連遺跡の展示を行った。また、市町村教育委員会で発掘調査後、整理作業によって注目された遺物の展示も行った。入館料は例年通り無料で実施し、今回で23回目を数える。展示内容は、(1)当センターで発掘調査をおこなった遺跡の展示、(2)近年、発掘調査が行われた市町村教育委員会の展示、(3)当センターの資料普及事業と埋蔵文化財活用事業の展示の3つである。(1)では11事業の展示をおこなった。山梨県内山岳信仰遺跡分布調査では「富士御室浅間神社本宮」など5か所の調査成果を展示した。都留市美通遺跡B区4ではイノシシの装飾がついた縄文時代の浅鉢形土器を、甲府城下町遺跡（甲府地方検察庁）からは、出土した井戸を復元した立体展示をおこなった。山梨リニア実験線に伴う調査では、笛吹市内において御坂中丸遺跡・三光遺跡・中丸東遺跡が調査され、縄文土器や石器、古墳時代の土器を展示した。県指定史跡甲府城跡では、石垣補修と鉄門復元整備事業のパネル展示を行った。甲府城跡（県庁構内）では、出土した瓦などを多数展示した。山梨県内分布調査では、試掘調査で発見された遺物などを展示した。(2)では7か所の遺跡の展示をおこなった。甲府城跡関連遺跡の甲府城跡（清水曲輪）からは、陶磁器類や焼塩壺を展示した。山梨市三ヶ所遺跡では、「東大」と書かれた墨書土器を展示した。笛吹市金地蔵遺跡では古墳時代末期の馬具（飾り金具）などを展示した。甲州市梶畑B遺跡では古墳時代の焼失住居から出土した遺物などを展示した。甲府市川田窯跡からは、県内最古の寺院である寺本廃寺に使われた軒丸瓦を、金塚西遺跡では、古墳時代前期の珍しい小型壺などを展示した。(3)では、当センターが取り組んでいる資料普及活用の利用内容について刊行物などとともに説明をおこなった。また、埋蔵文化財学習活用事業では、貸し出し用に復元した銅鏡や鉄製工具などを展示し、県民の方々に情報を発信するとともに、活用に向けた取り組みを紹介した。



9 広報誌『埋文やまなし』

・「埋文やまなし」36号

「埋文やまなし」36号では、「特集 古代山梨の住居跡を探る」と題して、発掘調査が行われた県内の遺跡の中から、縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代の各時代の住居跡を紹介した。縄文時代では、大月市の塩瀬下原遺跡・北杜市の原町農業高校前遺跡、弥生時代では、甲斐市の金の尾遺跡、古墳時代では、南アルプス市の村前東A遺跡、平安時代では、南アルプス市の百々遺跡で発見された竪穴住居跡を紹介し、それぞれの住居跡の規模や形状、施設など、時代ごとに異なる特徴をわかりやすく解説している。



・「埋文やまなし」37号

「埋文やまなし」37号では、社団法人甲府青年会議所の青少年育成事業「輝け！未来のヒーロー」活動に協賛し、甲府城跡で実施した甲府城跡石垣の「落書き消し大作戦」の様態を掲載した。子供たちが中心となって甲府城跡石垣の落書き消し作業を行い、甲府城の歴史を学んでいる様子や、作業の方法、作業で使用した道具などを紹介している。また、県内の学校など教育機関を対象に、土器などの考古資料の貸し出しを行っている貸出キットについて、土器・木製品の活用例や、新たに製作した金属製品の情報を掲載した。

・「埋文やまなし」38号

「埋文やまなし」38号では、「平成22年度発掘調査速報」として、平成22年度に当センターで実施した遺跡等の発掘調査の成果を紹介した。甲州三河岸の一つである青柳河岸と青柳宿を結ぶ「河岸お蔵道」や水田跡が発見された富士川町町屋口遺跡、縄文時代の住居跡や弥生時代の土坑墓が発見された都留市美通遺跡、甲府城築屋曲輪南西部の石垣や石垣下部の副木が発見された甲府城跡、江戸時代の井戸や中世の土坑が発見された甲府城下町遺跡の調査成果のほか、甲府城跡の石垣補修工事の状況などを紹介した。

10 県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡（舞鶴城公園）は、平成2年より「舞鶴城公園整備事業」に着手し、安全性の確保、文化財の保護、利便性の向上等を目指して、場内の整備を行ってきた。これと並行し、石垣の調査や発掘調査を実施し、平成15年度には稲荷櫓が復元され、舞鶴城公園は装いも新たに県民に開放されることとなった。現在でも、石垣の維持管理工事や鉄門の復元整備が実施されるなど文化財の保護等、甲府城の歴史をとおして県民の郷土愛や文化の向上はもちろん、歴史教育の充実に努めるよう、県土整備部、観光部、教育委員会が連携し、様々な事業を行っている。

・甲府城跡落書き消し大作戦

社団法人甲府青年会議所が実施する青少年育成事業「輝け！未来のヒーロー」に共催し、県指定史跡甲府城跡内の石垣の落書き消しを実施した。

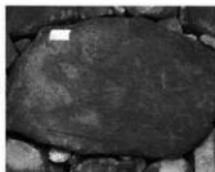
8月22日の当日は、事前に県教育長に要望書を提出した甲府市内外の小学校3～6年生を中心に親子約80人が参加した。

甲府城跡の石垣は、築城期（文禄、慶長年間）の野面積みが良好に残り、文化財的価値の高い重要なものである。しかし、近年石垣への落書きが問題となっており、その価値を下げかねないほどひどい状態にあった。

落書き消しを行うにあたって、石垣に影響がないよう、保存処理に係わる学識経験者に指導を受



落書き消し前



落書き消し後

けたうえで方法を検討し実施した。

落書き消しをとおして、市街地の環境美化だけでなく郷土の歴史や文化財を大切にすることを育み、今後の落書きへの抑止効果も証明できる結果となった。なお、今回の落書き消し実施箇所は経過観察をし、今後の石垣の維持管理などに役立てていく予定である。



作業中の様子



会場の様子

・視察対応

鉄門復元整備事業に伴い、県内外からの鉄門工事現場または甲府城跡の視察の依頼があり、甲府城跡の利活用促進や事業への理解を促す機会とした。

9月10日（金）に新潟県新発田市「新発田城を愛す会」、13日（月）に県内大学生、1月25日（火）に静岡県浜松市文化財保護審議会の視察があり、甲府城の歴史に始まり、甲府城跡の整備方針、鉄門復元整備事業に関する復元根拠や考え方などを解説した。いずれの視察も参加者の関心が高く、復元根拠を元に甲府城跡の史跡整備を進める県の方針の理解を促進できた。

・文化財工事講習会

鉄門復元整備関連だけでなく、年間を通して甲府城跡内で掘削等を伴う各種工事がある。そのため、文化財保護の観点から、工事作業に関する注意事項等を講習し、甲府城跡の地下遺構や石垣の保護に努めてきた。

今年度は、園内木柵の老朽化に伴う交換及び保護工事が行われたため、中北建設事務所からの依頼を受け、施工者に事前講習を行った。甲府城跡は県指定史跡であることなどの基本事項を初めとし、文化財としての注意事項を説明した。また、都市公園としての観点から、作業中の行動や安全管理に至るまでの諸注意も含め理解を促した。

・県民の日イベント「ひらけ！玉手箱」

11月20日の県民の日に、県指定史跡甲府城跡を会場として、埋蔵文化財センターと県立考古博物館主催のもと、山梨の伝統技術と文化を子どもたちに体験してもらう普及活動をおこなった。会場には20か所のブースを設け、様々な文化的体験ができる内容とした。



石工体験の様子



当日の様子

なかでも甲府城関連のコーナーは、城内に隠れているクイズを探して答える甲府城クイズラリー、武士の心を体験する茶道体験、狭間から実際に模擬矢を放つ弓矢体験、ミニチュア石垣を積んでみる石工体験、甲府城の歴史を紹介する甲府城紙芝居、模擬刀を振ることができる居合い体験、高さや面積を機械を使わずに測る和算・検地体験等で好評を博した。また、鉄門の復元整備の進捗状況を掲示するコーナーも設け、甲府城跡での活動を広く理解してもらえる機会となった。

・県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業広報誌「よくわかる甲府城事典」

鉄門整備事業の普及活動の一環として、平成22年度から年3回、甲府城跡の広報誌を発行した。小学生を対象に、鉄門の整備状況や甲府城跡の歴史のほか、毎号違った見どころを紹介する城内案内図、子どもが楽しめる要素を盛り込み、わかりやすい解説とした。

○巻ノ一

鉄門整備事業の導入編として、鉄門の姿かたちの復元想定図、復元根拠、甲府城の歴史概要を紹介し、城内案内図では甲府城跡の見所を特集した。



○巻ノ二

鉄門の工事準備の様子と鉄門の石垣を特集。甲府城の築城から現在にいたるまでを学べる「甲府城を学ぶ」シリーズでは、第一弾として甲府城の築城を紹介した。城内案内図では、城内の遺構を特集した。

○巻ノ三

平成22年11月20日に開催された県民の日イベント「ひらけ！玉手箱」を巻頭で特集した。鉄門特集では、木材検査と鉄門の委員会について取り上げ、「甲府城を学ぶ」では、平岩親吉について詳しく紹介した。また、城内案内図では城内の石垣の見所を特集した。

11 遺跡データ管理 (GIS)

今年度の遺跡管理システム (Geographic Information System) に登録した遺跡の発見や範囲の変更等については、11件であった。内訳は、遺跡の発見 (5.山梨市廻り田遺跡・6.同膳棚遺跡・7.同柿木田遺跡、9.都留市城ノ腰第2遺跡) 4件と遺跡範囲の変更修正 (1.北杜市原町農業高校前遺跡・2.同下原遺跡、3.甲斐市御岳田遺跡、4.山梨市上コブケ遺跡・8.同薬師堂遺跡、10.都留市美通遺跡、11.上野原市内城館跡) 7件である。



1. 北杜市原町農業高校前遺跡
2. 下原遺跡



3. 甲斐市御岳田遺跡



7. 山梨市柿木田遺跡



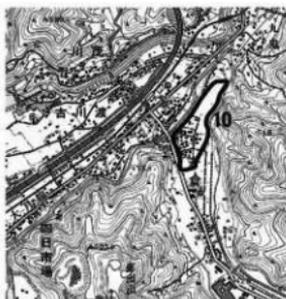
4. 山梨市上コブケ遺跡 5. 廻り田遺跡 6. 膳棚遺跡



8. 山梨市業師堂遺跡



9. 都留市城ノ越第2遺跡



10. 都留市美通遺跡



11. 上野原市内城館跡

12 発掘調査・整理作業の標準化に関する検討

平成21年度は、ほぼ完成した調査標準に対して、センター職員が自分の担当した業務において個々に検討を加え、それを基にして成文化を行っている。記録保存としての写真もデジタル化が急速に進んでおり、さらにはデジタルカメラを使った測量など調査機器・調査方法の変化が著しく、常に標準化の検討・改定が要求されている。

13 寄贈・購入図書

図書は、毎年度約3,000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

2010年度（平成22年度）は、3,217冊の図書を登録した。また、専門書、学術雑誌の購入は95冊である。総登録数約92,000冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約103,000冊が収蔵されていることになる。

登録された図書データは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。

年々、増加していく図書であるが、収蔵スペースが不足し、2008度（平成20年度）に書棚設置場所を設けて書棚6棚を増設したものの既に限界に達している。依然として収蔵スペースの確保が大きな課題となっており、閲覧スペースを含めた保管場所の整備が引き続き強く望まれるところである。

第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

1 記録保存のための発掘調査

1-1 甲府城跡

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1（県庁構内）
事業名	県庁舎耐震化等整備事業
調査期間	2010年9月13日～12月27日〔発掘調査〕 2011年2月9日～3月22日〔石垣解体〕
調査面積	約1,428㎡（3面）〔発掘調査〕 約140㎡〔石垣解体調査〕
担当者	野代幸和・長田隆志



甲府城跡 位置図

甲府城跡については、県指定史跡で、なおかつ舞鶴城公園として広く県民に親しまれている都市公園部分と、それを取り巻くように、甲府駅北口から県庁の辺りまで、地下に埋もれた埋蔵文化財としての部分がある。今回の調査は、県庁舎耐震化等調査整備事業に伴い、耐震基準に達していない古い庁舎を解体し、新たに防災拠点としての新庁舎を建設することとなったため実施されたものである。調査地点は旧第一南別館、旧第一南別館東側駐車場、本館南側駐輪場部分であり、2008年度に実施した地中レーダー探査ならびに試掘確認調査、2009年度の試掘確認調査によって、甲府城関連の遺構が存在する可能性が高いことが判明していた。調査の結果、一の堀南西部石垣、大手門関連石垣及び暗渠、大手番所南側石垣裏込及び控柱礎石、暗渠跡1基、瓦廃棄跡2箇所、木材廃棄跡1基、溝状遺構2条、土坑7基（瓦埋設坑、木製品廃棄坑）、焼土跡1基、敷石跡1箇所、文化層（大正～昭和初期、江戸末～明治期、江戸中期の3面）が発見された。

主要遺構については以下のとおりである。大手門関連石垣が旧県庁正門跡に並行するようにほぼ南北に軸を持って石列が認められた。歴史的には、大手門渡櫓南側に連なる土塁の石垣であり、確認されたのは城内側に位置する部分である。規模は南北約25m、残存する石垣は根石を含め一段ないし三段程度であった。裏込は築石の面から約1.3m、野面を基調とする築城初期の構造物と想定されるが、石材は昭和初期の県庁造成時に取り壊されたようであり、石材の一部がハツられたり、削られた痕跡が認められた。石垣直下の西側には二面の瓦廃棄層が認められた。また、石垣に付帯して暗渠跡が確認されたが、これは石材に残された矢穴の大きさから江戸中期頃に付け加えられたものと考えられる。大手番所南側石垣裏込及び控柱礎石が、調査区の北側部分で認められた。石垣本体は調査区外のため確認することはできなかったが、遺構確認より漆喰層、裏込面が確認され、出土した瓦と小礫を除去したところ、土塀控柱の礎石と考えられる石列が東西6mにわたって認められた。また、絵図等に記録がない暗渠跡も認められた。瓦埋設坑（第7号土坑）が、調査区のほぼ中央北端より確認された。規模は1m×0.8mの隅丸方形を呈し、平瓦が10数枚重ね合わせるように埋設されていた。地鎮遺構の可能性も想定して調査を行ったが、最下層からは炭化材と木材が認められたのみで、遺構の性格は不明である。椀瓦の混入も認められたため幕末期と推定される。木製品廃棄跡が調査区のほぼ中央付近から2箇所認められ、池状遺構と推定される。その中でも最も規模が大ききものは約4.5m×3.0mを測り、曲げ物、下駄、箸、申などの加工材が多量に廃棄されていた。現況地盤面から約3m下の砂層直上の粘土層から認められ、江戸時代中期以前と想定される。瓦廃棄跡が調査区のほぼ中央付近から2箇所認められた。築城初期の浅野家家紋瓦をはじめ、大手渡櫓で使用されたと考えられる大型の瓦、土塀に使用された小型の瓦、周辺建

物で使用された飾瓦などが多数認められた。楽屋曲輪南西端一の堀石垣が、調査区の西側地点の昭和初期の石垣直下から東西方向に石垣が認められた。規模は東西約27m、残存高約1.5～4m、60度の角度で積まれているが、東西の両端は造成時に破壊されている。標高269m付近下部までが築城初期に形成された野面の石垣であり、その上部は割石積であり、石材に残された矢穴の大きさから江戸中期頃に付け加えられたものと考えられる。東側の入隅部の築石が抜かれているが、南側に折れる石垣部分は根石が確認されたのみである。入隅部は岩盤から石垣が構築されているが、西側では砂礫層から構築されているため、石垣の不等沈降を抑制するための胴木が確認された。



調査区全景



大手門石垣



大手番所南側石垣関連遺構



木製品廃棄坑



瓦埋設坑 (第7号土坑)



一の堀南西端石垣

〔石垣解体工事に伴う調査〕

解体工事の対象となる石垣は、標高269m付近下部までが文禄・慶長年間の築城初期に形成された野面

の石垣ならびに、その上部の切石積の江戸中期頃に付け加えられた石垣に大別される。上部の石垣については、残存状況が悪かったため記録後速やかに取り上げを行った。また移築復元予定部分については、比較的残存状況が良好であったが、補修・補強の有無などの検討も行き取り上げを行った。築石取り上げ後、石垣基礎としての胴木が16mにわたって確認された。石垣関連部材の築石については、約125トン、詰石約2トン、栗石約100㎡認められたため舞鶴城公園内〔旧議員会館跡地〕に貯石した。

今回の甲府城跡石垣解体調査において、確認された成果の概要は次のとおりである。

- ・ 石材の特徴や積み方から、平和通りの道路地盤とほぼ同じ高さから約400年前の築城期に構築したと考えられる野面を基調とした古いタイプのもと、切石を基調とした江戸時代中頃に追加構築したと推定されるものが確認できた。
- ・ 石垣勾配は約60～70°で、築城期の他の石垣特徴が合致する。裏込石の巾は、築石の面から平均で約3mを測る。
- ・ 矢穴（楔を入れた穴）の巾は、築城期のもので約4寸（12cm）、中頃のもので約1.5寸（5cm）である。
- ・ 築石は現況で築城期のものが三段、それ以降のものが三段確認された。
- ・ 築城期の築石から、線刻されたものが多く見られた。裏鬼門を意識しての可能性が考えられる。
- ・ 裏込石は下に行くにつれて割栗など大型の石材が使用されている。築石周りには小さな栗材が、尻に行くにしたがい大きな栗材が認められた。内部から破損した石臼などの遺物も確認された。
- ・ かつて堀の水につかっていたと考えられる部分は赤褐色に変色しており、石垣付近の水深は約130cm程度と考えられる。
- ・ 根石下から11本の胴木と木杭を確認し、ホゾ穴や継ぎ手を確認した。
- ・ 石垣は東側では岩盤から築き、西側ではシルト層を掘削して栗石を敷き、その上に胴木を設置し不等沈降の防止措置を取っていた。土地の立地環境に併せて適切な基礎工事を行っていたことが判明した。



墨打状況



栗石掘削状況



築石取り上げ状況



胴木出土状況

1-2 甲府城下町遺跡

所在地 甲府市中央一丁目11-8
事業名 甲府法務総合庁舎建設事業
調査期間 2010年11月16日～2011年1月21日
調査面積 695㎡
担当者 山本茂樹・石井 明



甲府城跡 位置図

11月26日、試掘調査結果報告から表土下1.2mまで重機で掘削除去し、その後は調査確認面を黒褐色土として人力による掘り下げ・遺構確認・精査を進めることとした。

調査区は、廃土置き場の確保のため2区分し、西側から着手し、西側調査区の終了後、廃土・表土を反転させ、東側の調査区の調査に取り組んだ。

西側の調査区では、建物跡、レンガ造り構造物、井戸などの遺構が確認された。建物跡については、丸太の杭を直接打ち込んで柱を支えたと見られる基礎部分の確認された。柱跡には、それぞれ1～4本の杭が打ち込まれている。柱跡の周囲は灰色の粘質土状になっていたが、掘り方ではなく、地下水位に伴って変色したものと考えられる。これらの杭（柱跡）は列をなしており、旧検察庁の建物に伴う基礎の跡と考えられる。また建物跡に伴うレンガ造りの構造物も見られたが、これは焼却炉などの用途が考えられるものであった。

レンガ造りの構造物のすぐ西隣に、深さ約5m、径約2mのほぼ円形を呈する井戸が確認された。確認面から約1.1mの深さで井戸枠（桶）が確認された。この枠は、長さは1.8m前後の17枚の桶材で構成されており、枠の径は65cm前後で、北東側では桶材が傷んだため内側へ崩れかかっていた。また枠の底部では、丸太材が井桁に組まれており、その直下には、井戸の壁を掘り込んで2本の丸太材が並行して設置されていたと思われる。

東側の調査区では、建物跡の杭、浅い溝、中世の遺物を出土した土坑などの遺構が確認された。

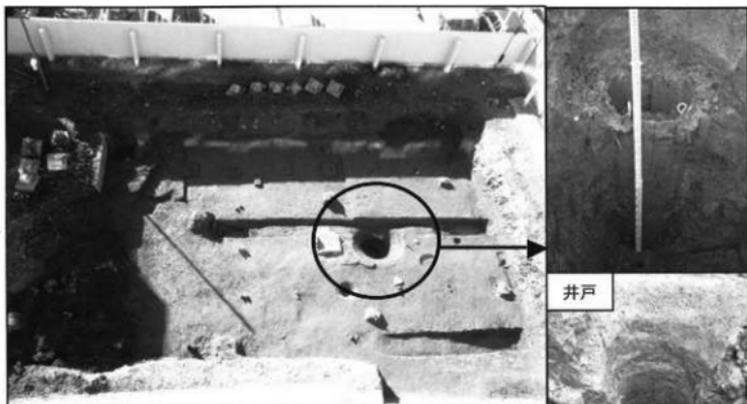
柱跡については、西側隅で杭が4本集中し建物跡の一部と見られたものを除くと、西側調査区で確認されたような配列は認められず杭の径も小さい。

浅い溝は、南北方向に構築されており、遺構確認面とした黒褐色土のさらに上から掘削して構築された可能性がある。この溝には杭の集中した場所があり、溝を横断するための施設とも考えられる。

溝に隣接した東では、中世の遺物を出土した土坑が存在した。最終的な規模は確定し得ないが、確認面からは浅く、3枚のカワラケが出土した。出土した3枚の土器は、2枚は上向きで、1枚は伏せた状態で確認された。土器自体は16世紀前半とみられるが、その性格は今後の検討に待ちたい。

出土遺物については、井戸跡からは江戸時代から明治時代にかけての瓦や陶磁器類が出土したが、建物を壊したときに混入した可能性がある。土坑内からは中世土器3点が出土した。また調査区から縄文時代の黒曜石片1点、江戸時代の素焼きの小型皿数点が出土している。

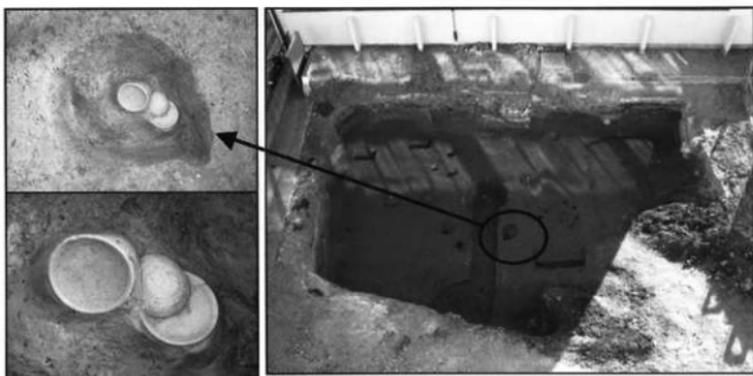
調査の結果、旧甲府検察庁の建物跡が確認された。またこれにより江戸時代の面（城下町の遺構）の残存は良好ではなく、関係する遺構は、溝の1条のみであった。一方、わずかながら中世の土坑が1基確認されたことにより、周辺に近世以前の遺構が存在している可能性も読み取れた。



調査区西側全体写真



調査区西側作業状況



土坑の出土土器
(3点・16世紀前半)

調査区東側全体写真 (写真の右手が調査区西側)

1-3 三光遺跡 (第二次)

所在地 笛吹市御坂町竹居 地内
事業名 山梨リニア実験線建設事業
調査期間 2010年6月1日～6月30日
調査面積 200㎡
担当者 吉岡弘樹・皆川賢司



三光遺跡 位置図

三光遺跡は、御坂山地に源流を持つ浅川扇状地の扇頂部近く、標高約427mに位置する。1975年に作付転換に伴って発掘調査が実施され、竪穴状遺構や配石遺構のほか、32基もの土坑が確認された。また、縄文時代中期から晩期までの大量の土器類のほか燃節型の硬玉製大珠が発見され話題を呼んだ。

今回の調査対象地は、その遺跡の北端にあたる標高約417.5mのなだらかな斜面となっている遺跡の北端部で、平成20年度に調査された本線部分に接続した箇所でも工用仮設道路建設に伴った200㎡の調査となった。なお、本遺跡の東へ約1km地点の舌状台地上には縄文前期を主体とした有名な花鳥山遺跡がある。

調査は、重機で遺物包含層直上まで掘り下げた後に精査を行いながら遺構・遺物の検出に努めた。そこから発見された遺構は、縄文時代中期後半の構築とみられる第一次調査で扁平な自然石や石棒を埋納した土坑群からの続きとみることができると8基と集石土坑が1基である。なお、土坑からは縄文時代中期後半曾利V式期の鉢形土器などが出土している。

今回の調査は、遺跡の北端部での調査で狭い範囲が対象地であったため、遺構は土坑・集石土坑の検出にとどまった。しかし、1.2mの厚さで確認された遺物包含層から出土する遺物の中には、縄文時代中期前半五領ヶ台式期、中期後半曾利V式期から後期前葉堀之内式期の土器片が多く含まれていることが判明した。それらの特徴は以下のとおりである。五領ヶ台式期は、II式期に属するもので、集合沈線文土器が多い。曾利V式期では、一般的に地文として「ハの字文」を持つタイプが主となり「櫛歯刺突文」を持つものもみられる。また、堀之内式期ではI式期のみ出土で2式期のものはない。

これらの結果に、平成20年度の第一次調査の成果を加えることで、当地域での歴史的資料をさらに色濃くすることができたであろう。

また、調査終了と同時に、本格的な整理作業に着手し発掘調査報告書作成作業を行った。報告書は平成20年度に実施した第一次調査の2,000㎡分と合本とし発掘調査結果と編集作業を行い、その成果品として発掘調査報告書を刊行した。



第二次調査区近景



調査前の状況



調査風景 1



調査風景 2



第1号集石土坑検出状況



遺物出土状況



土坑検出状況



全体写真（東側から）

1-4 中丸東遺跡

所在地 笛吹市境川町小山字中村763号
 事業名 山梨リニア実験線建設事業
 調査期間 2010年6月1日～7月2日
 調査面積 97㎡
 担当者 三田村美彦・石井 明



中丸東遺跡 位置図

中丸東遺跡は笛吹市境川町小山字中村に所在し、御坂山塊から甲府盆地南東部へ北流する狐川左岸の、標高320m前後を測る河岸段丘上に位置する。

調査は2008年、山梨リニア実験線本線建設に伴い実施された調査区（A-2区）南側に隣接し、リニア実験線の工事用道路建設に伴い行われた。調査区は工事によって掘削が及ぶ範囲を考慮し、東・西2地点に分かれることとなった。

東側調査区では、小型重機を用いて表土を約20～30cmほど剥ぐと、黒褐色を呈す古墳時代遺物包含層が検出されたため、人力による掘り下げを行った。その結果S字状口縁台付甕の破片など、古墳時代後期後半に比定される遺物が出土した。その下層からは、暗褐色を呈す縄文時代遺物包含層が検出され、前期中葉に比定される积迦堂Z3式の土器片及び、黒曜石製の石器や剥片が出土した。このほか、東側調査区では土坑が3基検出された。土坑では、長軸246cm、短軸157cmを測る大型の2号土坑から縄文時代前期积迦堂Z3式の土器片が出土したことから、当該期に比定される土坑と考えられる。他の2基はその覆土が縄文時代の包含層に近似しているが、出土遺物が無く、時期不明である。

西側調査区では、小型重機を用いて表土を掘削したが、表土下には碎石やコンクリートの碎片を含む攪乱された層が地表下約70cmにも及び、東側調査区で確認された古墳時代の遺物包含層は残存しておらず、縄文時代の遺物包含層も調査区の東側でわずかに残存する程度であった。黄褐色を呈する遺構確認面も調査区の西側では攪乱によって削平された可能性がある。土坑は4基検出されたが、長軸が最大でも60cm程度の小型のもので、出土遺物は無くその帰属時期は不明である。ただ、覆土は4・5号土坑が東側調査区で確認された古墳時代の遺物包含層と近似し、6・7号土坑が縄文時代遺物包含層と近似する。また、遺構外から土器片が数点出土しているが、細片のため時期は判然としない。

以上、今回の調査で検出された遺構は土坑7基、遺物は縄文時代前期と古墳時代後期後半の遺物が主体であることが判明した。このことは2008年に行った山梨リニア実験線本線部分建設に伴う調査結果と近似し、中丸東遺跡の性格が今回の調査でより明確になったことは意義深い。



中丸東遺跡東側調査区調査風景



中丸東遺跡西側調査区調査風景



中丸東遺跡東側調査区遺物出土状況



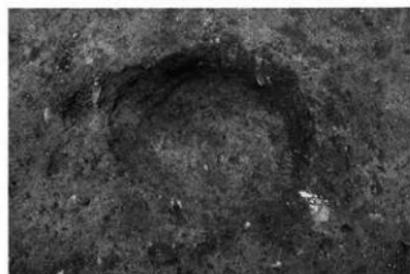
中丸東遺跡東側調査区1号土坑



中丸東遺跡東側調査区2号土坑



中丸東遺跡東側調査区2号土坑遺物出土状況



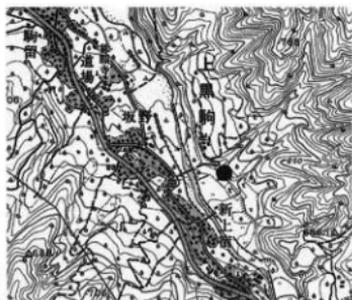
中丸東遺跡西側調査区5号土坑



平成22年度中丸東遺跡調査区航空写真

1-5 みさかなまのいせき 御坂中丸遺跡

所在地 笛吹市御坂町上黒駒字中丸6208-1
事業名 山梨リニア実験線建設事業
調査期間 2010年12月1日～12月27日
調査面積 350㎡
担当者 小林健二・小林万里子



御坂中丸遺跡 位置図

御坂中丸遺跡は、御坂山地から流れ出る金川右岸の達沢山の南西山麓の標高591m前後の緩斜面に立地しており、大正6（1917）年に「黒駒の土偶」が出土した遺跡として古くから知られている。また、金川を挟んで遺跡の北西側には、縄文時代中期を中心とする桂野遺跡がある。遺跡の南西を流れる金川沿いには、駿河国（静岡県）を通過する東海道と甲斐国を結ぶ古代の官道「甲斐路」または「御坂路」と呼ばれる道路が通っていたことが推定されている。

平成21（2009）年度に行われた第1次調査では、縄文時代中期の遺物包含層及び70基ほどの土坑群が発見されており、出土した土器の中には縄文時代早期のものも含まれていた。

工事用道路建設に伴い行われた今年度の第2次調査は、第1次調査区域Ⅰ区～Ⅳ区に隣接することから、続けてⅤ区と調査区域を設定し行われた。

東西方向に設定された調査区の東側は、幅7～10m、長さ10mにわたって浅く谷状に落ち込んだ地形となっており、この部分に地表下約1mから、50cmほどの厚さで黒色土が堆積していた。この黒色土層中より、縄文時代早期から前期にかけての土器片や黒曜石製・チャート製の石鏃などが出土するとともに、集石土坑2基が発見された。1号集石土坑は直径1.1m、深さ35cmほどの不整形の土坑に数cm～18cm大ほどの礫が充填されており、底面には20cm四方の扁平な礫が敷かれていた。焼けた土は見られなかったが、炭化材の薄片がわずかに確認され、礫は熱を受けているものも多く、割れているものも見られた。土坑内からの出土遺物はなかったが、東側の壁面からは炭化材がまとまって出土している。AMSによる年代測定の結果では、縄文時代前期後半頃の年代値が得られている。2号集石土坑はやや小さく、直径80cm、深さ10cmほどの円形の土坑であったが、1号集石土坑よりやや大きめの5～20cm大ほどの礫が充填されていた。この土坑からも出土遺物はなかったが、1号集石土坑と同じ時期のものであろう。

出土した縄文土器片は、早期中頃から後半にかけての押型土器と野島式土器に併行する在地の土器である富士吉田市古屋敷遺跡の「早期Ⅳ群土器」に比定されるものが中心であり、条痕文系土器も含まれていた。また、これらの中には植物圧痕のついた土器片があり、分析の結果、野生ダイズのツルマメであることが確認された。

一方、谷部から西側の調査区は、地表下30～50cmほどでローム層が確認され、縄文時代中期の土器片と石器がわずかに出土したのみで、遺構は確認されなかった。

今回の第2次調査では、設定された調査区のうち実質的な調査は東側半分であり、発見された遺構も集石土坑2基のみであったが、浅い谷部が埋没する過程で縄文時代の生活面が存在したことが確認できた。それはまた、周辺に当該期の生活址の中心が存在する可能性を示唆しているものである。

2年次にわたる調査では、御坂中丸遺跡範囲の南西端の調査が行われたことになるが、第1次・第2次調査において共に縄文時代早期の土器片が多数出土したことは、今後甲府盆地内でのさらなる資料の増加を予測させるものである。また、植物圧痕土器の存在により、縄文時代早期～前期の植物利用の様相が新たな視点で確認された意義は大きいものといえる。

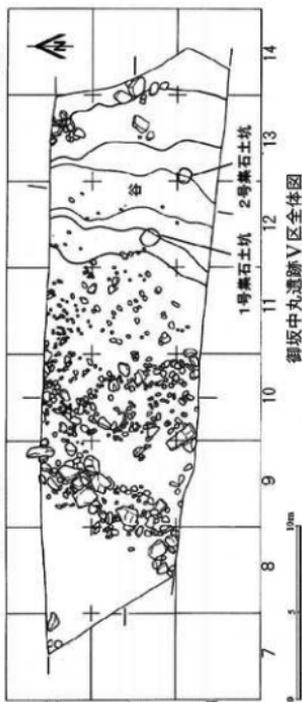
これらは、御坂峠を介した甲府盆地と郡内地域との交流をうかがわせるとともに、この地域が後の古代官道へとつながる一帯であったことを想定させるものである。



調査区域図

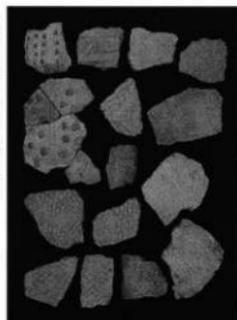
V区透景

調査風景

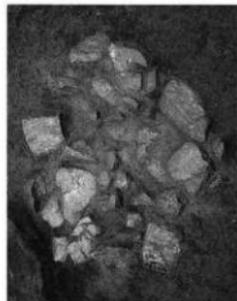


御坂中丸遺跡V区全体図

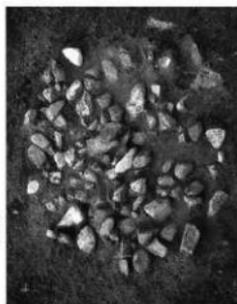
谷部



植物圧痕土器



2号集石土坑



1号集石土坑

1-6 まちやくらいせき 町屋口遺跡

所在地 南巨摩郡富士川町青柳1601地先
事業名 中部横断自動車道建設事業
調査期間 2010年6月1日～9月29日
調査面積 2,500㎡
担当者 山本茂樹・加々美鮎実



町屋口遺跡 位置図

町屋口遺跡は富士川町青柳字町屋口に所在し、富士川に架かる富士川大橋のたもとに位置し、(通称)甲西バイパスの東側に存在する。

発掘調査は6月1日から6月28日まで重機による掘削を行い、表土の除去に並行し6月8日からは作業員を動員し人力による掘削及び遺構確認を行った。測量杭については、調査区は水田および河岸への往來のための道であることから最小限にとどめ、調査区内に座標杭を6本、調査区外に6本設置した。

調査の結果、江戸時代から明治時代にかけて青柳河岸への往來のための道(河岸お蔵道)と道を挟んだ両側の水田および試掘調査では確認されなかった水路跡が見つかった。

道については、平成10年(甲西バイパス)に調査された「町屋口遺跡」で一部ではあるが「河岸お蔵道」が確認されていた。また、旧増穂町で平成21年に調査された「町屋口遺跡」があり「河岸お蔵道」が調査された。今回の調査では、今まで調査された河岸お蔵道の続きで、東西方向に延びた道の両側には側溝が設けられ、更に杭が打たれており構築方法が明らかにされた。

道の断ち割りでは、最上面の道の下にも、より以前の道路遺構の存在が確認された。

道からの出土遺物は、古銭、陶磁器片などである。

水田については、洪水により砂で覆われており、足跡や稲株痕、畦、水口などが確認され、遺物については、瓦片、銅線、陶磁器片などである。

水路については、南北方向に構築され、その内側には杭が241本打たれており、壁と杭の間に板材や家屋の廃材などが入れられていた。杭材では、ネズミサシ、クリ、マツが非常に多い。周辺の植生によるものと考えられる。水路内からの遺物は少ない。

この水路の上には、道が造られていたことが明らかにされた。まず、水路は洪水で壊され砂で埋まってしまった後、機能なくなった水路の上に粘土を盛り上げて道を構築し、道の保護のために杭が打たれていた。

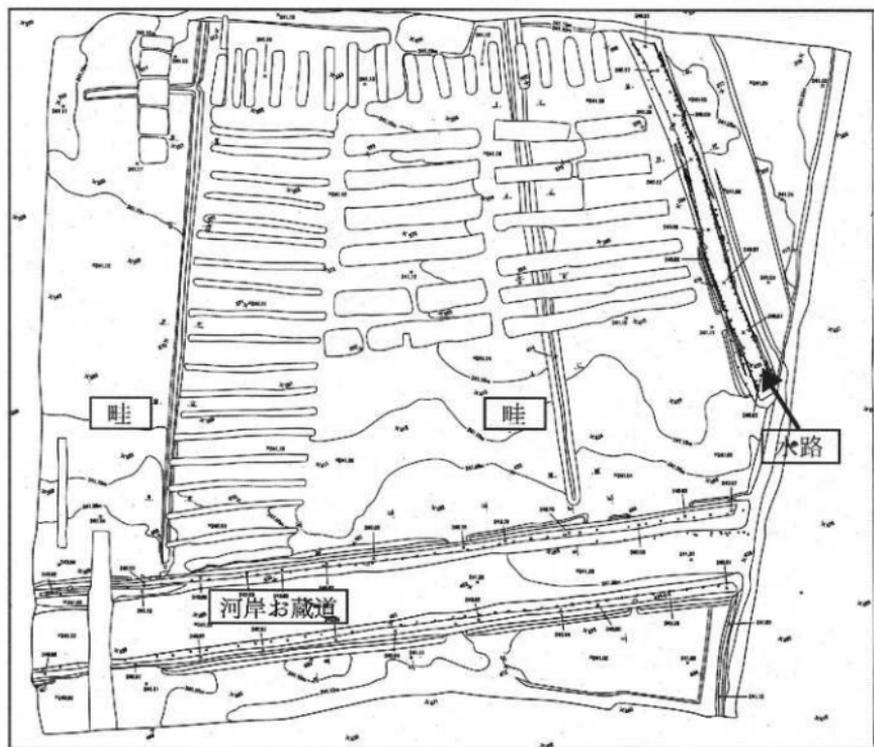
調査成果については、道や水路の構築方法が明らかにされたとともに、青柳村絵図に描かれていた水路が確認されたことである。また、旧陸軍陸地測量部が行った明治20年の測量で、21年に製版された測量図では、河岸お蔵道が描かれていることから洪水は明治20年以降と考えられる。大洪水は、この後、明治40年に起きていることからこの時期の堆積した砂であると想像される。



水路とその周辺1 (南から北へ撮影)



水路とその周辺2 (北から南へ撮影)



全体図



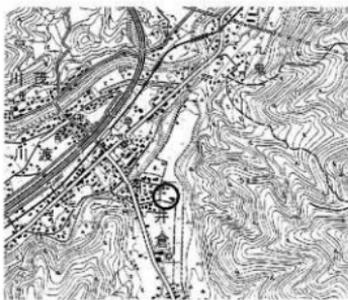
河岸お蔵道 (東から西へ撮影)



畦2の調査 (北から南へ撮影)

1-7 美通遺跡 (B4区)

所在地 山梨県都留市井倉355-1外
事業名 国道139号都留バイパス建設事業
調査期間 2010年5月27日～7月30、8月17・18日
調査面積 約400㎡
担当者 笠原みゆき・石井明(7・8月) 堀込紀行(6月)



美通遺跡 位置図

美通遺跡は、弥生時代の遺跡として知られる生出山の北側に位置し、菅野川と朝日川に挟まれた河岸段丘状に位置している。工事区間南西端A1区から、北東隅C区に向かって緩やかに傾斜する地形である。

発掘調査は平成20年度から行われ、県道35号線側からA区、B区、C区と大きく3箇所に分けられている。今年度は、その区間内、A区とB区の境となるB区の南端部分の調査である。調査の結果、縄文時代・弥生時代を中心とした遺物・遺構、平安時代以降の遺構が発見された。その詳細は、住居跡3軒、集石土坑3基、土坑23基、溝状遺構12条、焼土4箇所と、縄文時代、弥生時代前期～中期初頭の遺物である。

縄文時代では3軒の竪穴住居跡を確認した。1号住居跡は、掘り込みが不明確であったが、石囲い炉を中心に、僅かに炭化材が広がる範囲を想定した。石囲い炉から南側約1mにおいては縄文時代中期の深鉢形土器がほぼ完形な状態で出土し、1号住居跡に伴う埋め巻の可能性が考えられる。また、2号住居跡では、炭化材が輪のように丸く広がる状況を確認しており、焼失住居の可能性が高い。住居跡の壁周辺には大きめの炭化材が見られ、柱材の可能性もある。遺物の出土量は少なく、床面に近い場所から土偶の足部分1点と小型の浅鉢が出土した。浅鉢は、口縁部にイノシシの装飾がついたもので縄文時代中期のものである。3号住居跡は、工事用道路として利用されていた調査区南西端にあたり、道路の切り直し後の確認調査で発見された。住居跡全体の約1/4強の調査となり、覆土中から遺物が多く出土したほか、拳大の焼けた礫が集中する部分や、炭化した堅果類(ほとんど炭化したクルミ)の集中する箇所を確認した。

拳大の礫が集中する集石遺構中からは土器等の遺物は出土していないが、1号・3号集石土坑の周辺からは黒曜石の破片や石器石材の剥片などが出土している。遺構以外の遺物の出土状態は、3軒の住居跡から北西方向に向かって多く出土する傾向があり、中には完形に近い深鉢形土器も出土している。

弥生時代以降では、調査区中央あたりから南側に向かって谷状に地形が傾斜する状況が見られる。傾斜部分から弥生土器の破片が、傾斜のはじまる頂点から北側で縄文時代の遺物が出土している。弥生時代の土坑は、縄文土器の文化層を掘り込んで作られている。検出された3基の土坑の内、9号土坑は、直径約1.5m、深さ約0.8mの平面円形で、断面形が袋状の土坑であり、土坑の中からは弥生時代前期末から中期初頭の土器と打製石斧、堅果類が出土し、遺物の周辺からは多くの炭化材を検出した。17号土坑からは、9号土坑と同時期の土器片とチャート製の石鏃を発見し、ここでも、炭化した堅果類を検出している。

弥生時代の土坑と同一面で確認した遺構では、直径1m前後の円形の土坑と溝状遺構がある。これらには、他の調査区と共通し、遺構内からの遺物出土量が少なく、構築時期の判別が難しい。

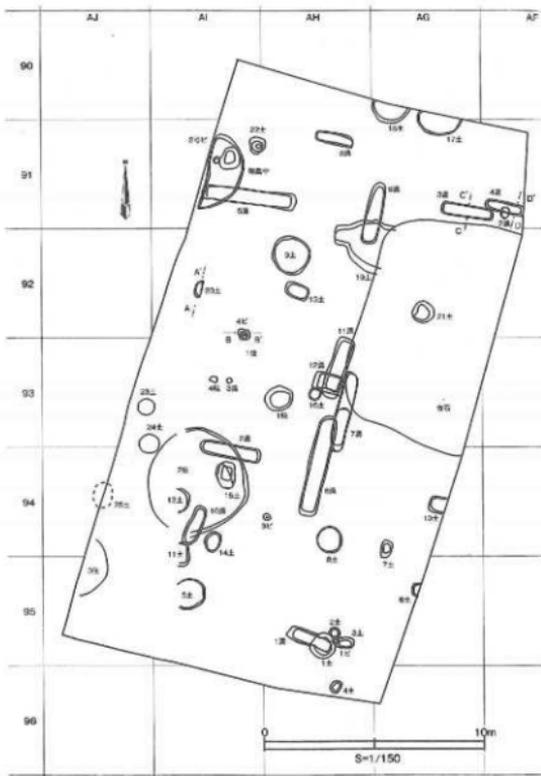
隣接するA2-2区では、地表下1m未満で地山層を確認していたが、今回の調査区では、地表下2m近くまで掘り下げて地山が確認できるという状態であった。このため、美通遺跡の地形は複雑で、発見される時代や遺構・遺物の状態も調査区によって様ではないことがわかった。



20号土坑遺物出土状況



9号土坑遺物出土状況



美通遺跡 (B4区) 全体図



2号住完掘状況

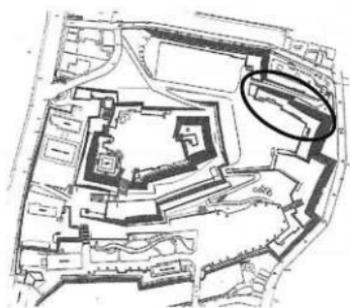


2号住土偶出土状況

2 整備事業に伴う調査

2-1 県指定史跡甲府城跡（石垣整備事業）

所在地 甲府市丸の内一丁目地内
事業名 舞鶴城公園整備事業
調査期間 2010年8月2日～11月24日
調査面積 663.52㎡
担当者 吉岡弘樹・皆川賢司



甲府城石垣補修工事箇所 位置図

県指定史跡甲府城では、「舞鶴城公園整備事業」として平成17年度より詰石や裏栗石の充填、破損石材の補強、風化して脆くなった部分の除去など石垣の維持と安全確保を目的とした石垣補修工事を実施している。

本年度は、昨年度からの続きである稲荷曲輪北面石垣（I-32～30）と西面を向く石垣（I-80）の補修工事を行った。

この石垣はあじさい広場（児童公園）の脇を稲荷櫓に向けて昇る園路に面している。当該石垣は築城以来の大きな改修はないが、土塀の補修に伴った天端石（笠石）付近を中心とした箇所、積み直しや詰石の落下防止などの補修工事が部分的に行われていた。このため、コンクリートの付着などが石垣天端の各所で見られた。当石垣の特徴は、城内他所石垣と比べ築石に横長の石材や、控えのほとんど無い巨石を鏡石として使用し高石垣を構築していることである。これに加え、明治期以後の本格的補修がなされていなかったため、以前より詰石の欠落、裏栗石の流出、石材の破損、孕み出しといった破損が確認されていた。このことから、工事では、文化財の保存と安全性の確保の観点から、県土整備部と県教育委員会が協力し、詰石や裏栗石の補充を中心とした補修作業を実施し、石垣の保存と補強に努めた。

石垣補修工事は、8月2日から11月24日までの4ヶ月間行われた。対象となった石垣面積は663.52㎡である。現場では、工事と連携し傷みの状態とその原因や有効な施工方法などを石垣維持管理カードに1カ所ごとに記入し、写真撮影と併せて記録化した。その結果、施工地点は全体で2,210ヶ所となり、施工面積665.52㎡に対する面積比から0.3㎡について1ヶ所であった。今回の施工面積比率をもっとも傷みの激しかった昨年度、一昨年度と比較するとおよそ3/4倍となる。

また、施工に当たって問題が生じた場合は、教委監督員（現場担当者）、県土整備部、施工業者と速やかに協議できる体制を確保し、その結果に基づき施工を行う方法をとった。これは、あくまで文化財補修工事であるため、協議し、記録化するチェック体制であると同時に、現場での課題をそれぞれが共有し、補修工事の改善に役立てる目的も持つものである。

なお、石垣清掃中に和釘、瓦、陶磁器が検出されると共に「丸に十」、「阿弥陀」、「集合線」といった線刻画が築石側面より新たに確認されている。なお、線刻画は劣化などを防ぐ目的で保護シートによって被覆し現位置に保存した。

石垣等の維持管理として、次のような対応を行った。

5月11日に舞鶴陸橋歩道から武徳殿に昇降するために設置されている石段とその北側にある切石積み石垣から土砂流出が確認されたことから、石垣裏込め部分を舗装し土砂を抑えることや、石垣裏側天端に側溝を設置するなどの安全対策案を県土整備部と協議した結果、早急な対応が望まれることから、直ちに復旧し改善を図った。



東側より北面石垣を望む



石垣の輪取り



補修工事前の状況



補修工事後の状況



補修工事の施工例（施工前）



補修工事の施工例（施工後）



施工協議の様子



補修工事の様子（裏栗石充填）

2-2 けんしんていしせきこうふじょうあと 県指定史跡甲府城跡 くろがねもんふくげんせいびじぎょう (鉄門復元整備事業)

所在地	甲府市丸の内一丁目地内
事業名	鉄門復元整備事業
調査期間	2010年4月1日～2011年3月31日
対象面積	鉄門事業約67㎡(建築面積) 鉄門石垣約250㎡(施工面積)
担当者	宮里学 古川明日香



甲府城跡 位置図

甲府城跡は、JR甲府駅に近接し、文禄慶長年間に築城された織豊城郭である。城内には築城期の野面積みの石垣が良好に残り、県指定史跡となっている。平成2年度から平成16年度まで県土整備部が舞鶴城公園整備事業を実施し、これに併せて城内の発掘調査、石垣修理、建造物復元を行ってきた。

本事業の経過

本年度から、県指定史跡甲府城跡の鉄門復元整備事業が本格的に開始された。この事業は、本丸の南側に明治初年まで存在していた鉄門を、中心市街地活性化、展示交流施設等の目的で復元させるものである。

甲府城跡保存活用委員会(平成17年～20年設置)で、城内歴史的建造物の復元根拠とその歴史的評価について絵図などを基に議論がなされ、櫓、櫓門など数棟が復元が可能と結論付けされた。

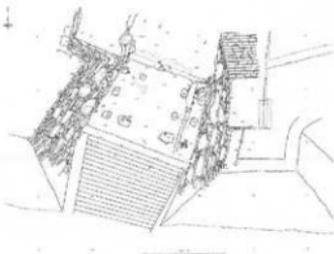
平成21年度には文化庁文化財部記念物課との協議を引き続き実施しながら、本県の経済界有識者に参加を求めた甲府城跡櫓門整備検討委員会(平成21年)を設置し、公開シンポジウムを経て経済効果や国民文化祭の開催を見据え鉄門から整備するよう提言を受けた。提言後には甲府城跡櫓門復元検討委員会を設置し、具体的な検討に入り、事業着手に至った。

鉄門事業の概要

本年度当初には、事業着手に先行して、平成5年及び9年に実施した発掘調査成果についての再確認を目的とした当該地点の再発掘調査を実施した。方法は、重機にて既設園路を除却し、平面測量図にある遺構の再検出をした。また、未発掘調査と判断できる範囲についても最低限の範囲を対象に追加調査した。これらの成果については、委員会並びに建造物部会等に現地視察を受け、礎石の入替や遺構面の高さの課題、雨水等排水方法、櫓復元に伴う地盤補強方法、建物構造の指導を受けた。また、現地の確認成果については再度測量委託を行い記録化した。建物については、残存している礎石を再使用する工法とするが、新設建物であるため、建築基準法の適用を受けた。その結果、強度の課題から遺構面を不織布で全面に敷き保護した上で、RC基礎およびH鋼による補強を実施した。その他、本年度は復元瓦の検討、材料の選定、調達、加工、現場仮設工事、基礎工事等を実施。

石垣修理の概要

当該地点の両側に存在する石垣は、積み方の特徴から甲府城築城期所産の石垣であり、三次元測量及び外観観察の結果、石垣構造としては大きな変異変形は認められないものの、詰石の欠落や栗石の流出が目立ち、鉄門完成後では補修工事が困難になるため、着手前の施工とした。施工方法は、通常の詰石補修作業と同様に、対象石垣に仮設足場を設置し、清掃、調査、個別施工方法の検討、確認、記録を実施した。西側石垣では笠石部での石材の抜け落ちが確認された。また、東西両石垣には巨石が多く配石されているため縦目地が顕著であった。鏡石は、城内でも特徴的な配石であり、これを活かした修理の検討を石積技師と積極的に実施した。





鉄門全景（南より）



鉄門近景（東より）



鉄門再確認調査（北東より）



櫓門復元検討委員会現地視察（北より）



石垣工事全景（東南より）



整理作業状況（現場事務所内）



鉄門材料検査（奈良県天理市）



県外史料調査の様子（大分県臼杵市）

3 分布調査

やまなしけんないさんがくしんこういせきふんぷりょうさ 山梨県内山岳信仰遺跡分布調査

3-1 里宮遺跡（富士御室浅間神社 里宮社有地）

所在地 南都留郡富士河口湖町勝山3949番地、3951-2、3、4、7、8番地

調査期間 平成22年6月1日～6月28日

調査面積 35㎡

調査担当 野代恵子・古郡雅子（以下の調査も同じ）

調査地は、富士山二合目に鎮座する二合日本宮に対する里宮で、河口湖南岸に鎮座する。富士山二合目は祭事の便が悪いことから天徳2年（958）にこの地に創建されたといわれる。今回の試掘・確認調査の目的は、神社創建期である平安時代中期の遺構・遺物を確認し、古い時期の神社建物の配置や広がりを確認することである。調査の結果、本殿裏側では現在機能していない山林側に広がる区画に伴う石列が確認された。また神社の山林内にある片山社（勝山地区の産土神）の土台石からは墨書・朱書された石や水晶の結晶などが納められており、一番底の部分には剣形鉄製品が納められていた。これは地鎮遺構と考えられる。神社に隣接する山林では遺構等は確認されなかったことから、神聖な森として大切に残されてきたものと考えられる。

3-2 富士山吉田口登山道関連遺跡 鈴原下A地点

所在地 富士吉田市上吉田鈴原下

調査期間 平成22年6月28日～7月15日

調査面積 20㎡

『甲斐国志』によると、中ノ茶屋から二町（約200m）上がった所が奪衣婆の小堂で、礎石が残ると記されている。現地では旧道と考えられる道状の窪みに面してコの字状の石積が残る場所があり、これが『甲斐国志』に記される小堂跡と考えられたことから、試掘・確認調査を実施した。調査の目的はこの場所が小堂があった場所かを確認すること、小堂がどの時期に機能していたのかを明らかにすることである。調査の結果、石積は、奥壁で高さ1m、袖部分では80cmほどの石囲いであることが明らかとなった。また奥壁付近の地面には厚い焼土や灰の堆積が確認されたことから、ここで長い間火を焚いていたものと考えられる。遺物については、床面から磁器が2点出土したのみであるが、いずれも江戸時代後期のものである。小堂の痕跡は確認されなかったものの、石積みが人為的なものであることが明らかとなった。



里宮遺跡 位置図



里宮遺跡 調査風景



鈴原下A地点 位置図



鈴原下A地点 石積検出状況

3-3 富士山吉田口登山道関連遺跡 五合目地点

所在地 富士吉田市上吉田富士山北向

調査期間 平成22年7月15日～7月23日

調査面積 26㎡

かつて五合目周辺には「中宮三社」が祀られ、富士山中での重要な信仰拠点のひとつであった。また山中の役銭場である中宮役場があった。江戸時代初期の版木『八葉九尊図』には、五合目あたりに「こやかす十八間」という記述がみられ、この時期までに五合目に中宮惣小屋十八軒が成立していたことは確実である。ここは参詣道者からの山役銭の請取場所とされ、また道中の休憩場所として商いが営まれていたと考えられる。現地には20段ほどのヒナ段状の地形が確認され、これが中宮十八軒にあたるのか確認するため、3つのテラスについて試掘・確認調査を実施した。その結果、第1テラスでは礎石と考えられる石が確認され、第2テラスでは渡米銭を中心に10枚の銭貨が出土した。第3テラスでも寛永通宝が出土した。今回の調査により、この周辺が中宮十八軒であることがほぼ確定された。



五合目地点 位置図



五合目地点 調査風景

3-4 富士御室浅間神社二合目本宮境内地遺跡

所在地 南都留郡富士河口湖町勝山3953-1, 2, 3番地

調査期間 平成22年9月1日～10月6日

調査面積 89㎡

調査箇所は、吉田口登山道二合目に所在する富士御室浅間神社本宮社有地である。この神社は富士山中で最古の神社と伝えられるが、本殿は昭和49年に里宮社有地に移されている。調査は、本宮の現境内地、定善(禪)院跡(上吉田の西念寺の子院で、同寺に伝わる県指定文化財の薬師仏が祀られていた)と伝えられるテラス、二合目一の鳥居周辺にあるテラスを対象に試掘・確認調査を実施した。

本宮の現境内地では、かつて本殿がどのように配置していたのかを確認する目的で調査を行なった。その結果、本殿跡周辺では全体的に付き固められた土層が確認されたものの、きちんとした方形のような形は成さないものであった。また昨年度の調査で確認された古富士火山の噴出物の堆積が検出され、現境内地はもとは一合目に向かって落ち込んでいく地形であり、そこに土盛りをして平場を造り出していることが明らかとなった。



二合目本宮境内地遺跡 位置図

次に定善(禪)院跡と伝わるテラスについては、薬師仏の台座にある銘(永享12年(1440))と同時期の遺構・遺物が確認されるか、また周辺の旧道についてその確認を得るための調査を行なった。その結果テラスは地表下1mにわたり攪乱されており、その土層も水平にならされている状況が見られたことから、すでに大きく改変されていることがわかった。また、このテラスの裏側には旧道が通っているものと考えられていたが、大きな石が露頭する場所がありここを中心に調査を行った。その結果、露頭する石の上から寛政8年(1796)の銘をもつ富士講の石碑が発見された。石碑には「外川能登



二合目本宮境内地遺跡 調査風景

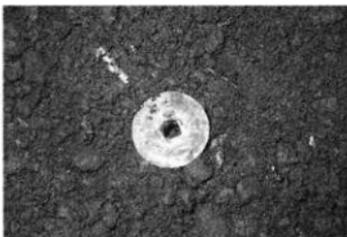
守' や山包講の講祖である'包市郎兵衛'の名が記されている。また石灯籠の笠の部分も発見されたが、同様の石造物は本宮拝殿前からも発見されており、かつて本宮拝殿前に対で設置されていた石灯籠の一部であると考えられる。石碑が見つかったことにより、ここがかつての登拝道であることが確実となった。

一の鳥居周辺のテラスについては、神社周辺の信仰施設が山中にどのような広がりを持っていたのかを確認することを目的として調査を行なった。テラスからは踏みしめられた跡が確認され、ここが旧道の道筋であることが明らかとなった。また一部で火を焚いた跡も確認されている。また上方から落ちてきたような形で、江戸期の陶磁器類・銭貨が発見されており、このテラスの上方に何らかの施設があった可能性もある。

その他、伝定善(禪)院跡のテラスの上方では、12世紀後半に位置づけられる東運系の山茶碗片が表採された。12世紀後半という時期は、かつて富士御室浅間神社本宮本殿に納められていた神像に記されていた銘と同時期であることから、吉田口登山道の二合目にはこの頃、信仰目的の人々がはいってきたものと考えられる。



旧道沿いから発見された石碑(露頭する石の上)



一の鳥居周辺のテラスから出土した銭貨

3-5 大塚丘(北口本宮富士浅間神社所有地)

所在地 富士吉田市上吉田5619番地

調査期間 平成22年10月7日～10月18日

調査面積 89㎡

北口本宮富士浅間神社の背後から延びる登山道をしばらく行くと左手に小丘が見えてくるが、これが大塚丘である。この塚は富士山を遥拝するための富士山信仰上重要な場であったと考えられる。塚の形状は南北24m、東西18m、高さ4mの方形台状で三隅には檜が植樹されている。この塚について、昨年度地中レーダー探査を行ない、塚の南側隣接地については遺構面が2面存在する可能性を示すデータが得られたことから試掘・確認調査を実施した。しかしながら遺構等は確認されなかった。一方で塚に近接する位置に設定したトレンチでは、塚の立ち上がりを確認した。塚本体は黒色粘質土で構築されていることが明らかとなった。また、塚頂部の北東隅の檜の大木の根元から、加工された石とともに周辺には存在しない小さな丸石が数個発見された。時期を示すような遺物は見つかっておらず、埋納時期については不明である。



大塚丘 位置図



大塚丘 調査風景

3-6 簡易ボーリング調査

大塚丘については昨年度地中レーダー探査を行ない、人為的な構造物である可能性が指摘されたため、その成果を補強・検証する目的で調査を実施した。塚頂部からサンプリング管を差し込み土壌を採取した。塚本体については黒色粘質土が採取されたが、塚基底部に近づくにつれ、水分が多くなり粘性が増すことが確認された。塚基底底部では、礫にあたりそれ以上の試料採取は不可能であった。塚中腹部・裾部でも同様

の土壤採取を実施したが、いずれでも塚本体は黒色粘質土で、基底部では礫および、固結したスコリアに突き当たりそれ以上の試料採取は不可能であった。また地中レーダー探査で、構造物の存在の可能性が指摘された箇所についても土壤の採取を行なった。その結果、周囲の黒色粘質土とは異なる黄褐色の土壤が少量採取され、土質が若干異なる部分もあることが確認された。

以上のことから、塚の基底部付近は火山噴出物で覆われており、その上に周囲にはない黒色粘質土で塚が構築されていることが明らかとなった。

3-7 地中レーダー探査

□ 北口本宮富士浅間神社有地

本調査地については、昨年度も試掘・確認調査を実施しているが、現在の神社景観の基となった享保の大改修以前の境内地の姿を示す「境内指図」の存在が判明し、それに基づいて境内地の探査を実施した。その結果、かつて鐘楼があった場所に反応を得た。

□ 河口浅間神社

神社は、甲斐国で最初に創建された浅間神社とも言われ「鎌倉街道」に面して鎮座する。神社有地では埋蔵文化財の調査が実施されたことはなく、地下の状況についてはわかっていないが、境内には七本杉(県指定天然記念物)が残されており、これがもとの参道の小立であったとする説もあることから、第一には七本杉の周辺に参道の痕跡が残されているか確認すること、第二に七本杉が向かう現本殿裏の高台に、古い時期の建物跡等が残されているか確認する目的で探査を行なった。その結果、明確な参道の痕跡や、遺構の存在を示すようなデータは得られなかったが、地中レーダー探査という調査方法では確認できない遺構が残されている可能性もあり、今後より詳細な調査が必要である。

□ 藤塚(山中湖村)

藤塚は山中湖の山中地区にある塚で、地元では長慶天皇の御陵という説も伝えられている。塚は鷹丸尾岩崩流に挟まれた間にある、より古い岩丘上に立地する。一説にはこの丘は噴火口とも言われる。この塚については、これまで調査が行われたことはなく、築造年代や性格については不明であるため、今回地中レーダー探査を実施し、塚の内部構造について確認した。その結果、塚の周囲には周溝が巡っている可能性もあり、塚の基底部よりも少し下に、墓室データに類似する不自然な構造を示すデータが得られた。ただしこのデータによると一般的な墳墓が示すものよりも小さい構造物であることから、いわゆる古墳と呼ばれるような墳墓とは性格を異にする可能性が高い。



北口本宮富士浅間神社 位置図



河口浅間神社 位置図



藤塚(山中湖村) 位置図



地中レーダー探査 調査風景(藤塚)

4 県内分布調査

4-1 山梨リニア実験線建設事業（工事用道路）に伴う試掘調査

所在地 笛吹市境川町小山字中丸845-1外地内
遺跡名 中丸遺跡
調査期間 2010年5月19日
調査面積 約73㎡（調査対象面積332㎡）
担当者 保坂和博・小澤美和子



試掘調査 位置図

山梨リニア実験線建設に伴い工事用道路が周知の埋蔵文化財包蔵地である中丸遺跡の範囲内に建設されることから4月9日の現地協議の上、トレンチ（試掘溝）2箇所を設定し、試掘調査を実施した。

第1号トレンチは、幅1.1m、長さ35m、深さ0.7～1.34mを掘削したところ、表土の下に暗褐色土層が深さ0.1～0.6mのところまに堆積し（4層）、その下は黄褐色層の粘質土（6層）が確認された。4層から極小の土器片が2、3点出土したのでここが文化層と考えられるが、その他に遺物、遺構は確認されなかった。また、4層は耕作による攪乱の影響を受けていると考えられる。第2号トレンチは、幅1.1m、長さ32m、深さ0.6～1.45mを掘削した。ここは表土が削られており、埋土である黄褐色砂層（2層）、黒褐色砂層（3層）の下に4層が深さ0.25～0.7mのところまに堆積しているのが確認された。その下は一部に赤褐色土層（5層）が入る箇所があるが、黄褐色粘質土層（6層）、極暗褐色粘質土層（7層）が堆積しているのが確認された。遺物・遺構は確認されなかった。

試掘調査の結果、遺物は文化層と考えられる4層から極小の土器片数点が出土したが磨耗していたので西側台地上からの流れ込みの可能性がある。また、本層は攪乱が著しいため遺存状態が悪く、遺構は確認することが出来なかった。以上のことから、本試掘調査地点において遺跡はないと考えられるため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-2 山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査

所在地 笛吹市八代町竹居字柚木1246外地内
調査期間 2011年1月13日
調査面積 約56㎡（調査対象面積約250㎡）
担当者 保坂和博



試掘調査 位置図

山梨リニア実験線建設事業に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である柚木遺跡の範囲に隣接する地点で工事が行われることから、2011年1月12日に実施した現地協議により、トレンチ（試掘溝）3箇所を設定し、試掘調査を実施した。

土層の堆積状況は、表土層以下7層までは地点により異なった層序となり、第1号トレンチと第2号トレンチで、表土層（1層）、盛土層（2層）、コンクリート基礎（3層）、第3号トレンチで黒褐色土層（4層）下に、埋植の埋設に伴う極暗褐色土層（5層）、にぶい黄褐色砂層（6層）、黒色土層（7層）が検出されたが、8層以下は、基本的に同様な自然堆積層である黒褐色土層（8層）、黒褐色土層（9層）、黒褐色土層（10層）、褐色土層（11層）の層順が確認さ

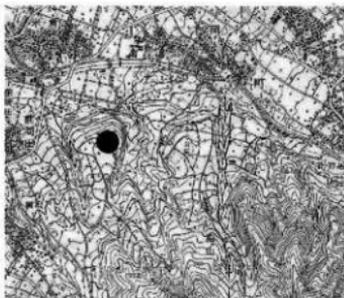
れた。

試掘調査の結果、第2号トレンチと第3号トレンチの7層から摩滅した平安時代の土師器（甕口縁部）破片と黒曜石破片がそれぞれ1点出土したのみで、これまでに本地点の近接する範囲で行われた試掘調査でも同様に希薄な出土状況がみられ、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みと判断される。また、第3号トレンチで埋桶が確認されたが、調査対象地が狭くトレンチを拡張しての調査が困難で、時代の特定には至らなかったことから、本地点に隣接する未調査範囲を試掘する際に、改めて確認することとした。

以上のことから、埋桶を確認した範囲以外については、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-3 山梨リニア実験線建設事業（工用道路）に伴う試掘調査

所在地 笛吹市八代町米倉2087-11外 地内
遺跡名 上の平A遺跡
作業期間 2011年2月16日
調査面積 約20㎡（調査対象面積427.25㎡）
担当者 吉岡弘樹・皆川賢司



試掘調査位置図

上の平A遺跡は、通称「竜安寺山」と呼ばれる丘陵上の東西300m、南北600mの広さを有する北向きの緩斜面（標高約380m）に占地している。また、上の平A遺跡範囲の中央やや北寄りには一辺が約55mの方墳として知られる県指定史跡竜塚古墳が、南西方向には、周知の埋蔵文化財包蔵地である上の平B遺跡が広がりをみせている。このことに加え、対象地となるコンクリート敷きの市道の両脇および畑地（果樹経営）に地下埋設物（畑地灌漑用水管）が通水していることが指摘されたことなどから、平成23年2月8日に鉄道建設・運輸施設整備支援機構、JV、笛吹川沿岸土地改良区、県教育委員会の4者で現地での安全に掘削できる地点の確認を実施し、3箇所のトレンチ開口地点をあらかじめ選定した後に試掘調査を実施した。

調査は、地下埋設物の位置を考慮し長方形のトレンチを開口させた後、土層堆積状況を確認することとした。掘削には、小型重機を用いその後、精査、土層断面の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査後に埋戻しを行った。

その結果、各土層確認地点において、20～50cmの表土層（耕作土）下に、20～45cmの淡黄褐色土層・淡茶褐色土層がみられた。さらに、下方には暗黄褐色土層などの地山層が観察できた。なお、これらの各層より遺構や遺物が検出される層序は確認できなかった。

上記のとおり、各トレンチ開口地点での土層から遺構や遺物が確認されなかったことや地形などから判断して埋蔵文化財に関する対応は必要ないものとされた。

4-4 原町農業高校前遺跡保存状況確認調査

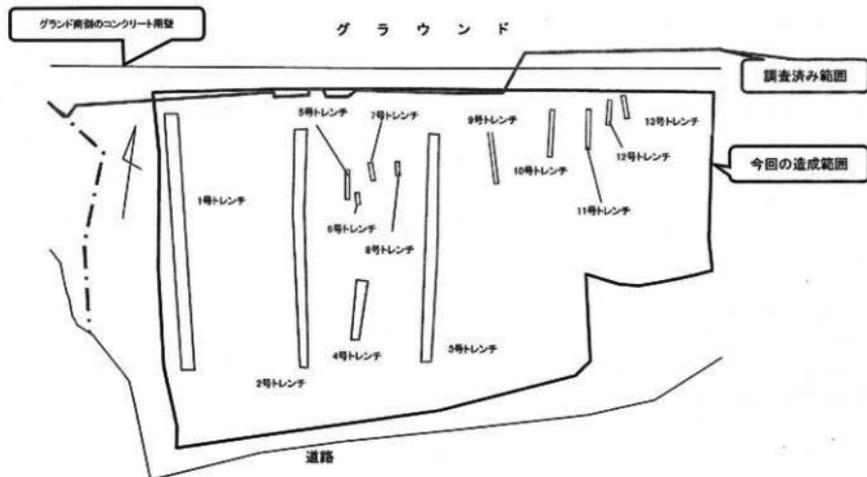
所在地 北杜市長坂町塚川1178地内
 遺跡名 原町農業高校前遺跡
 調査期間 2010年6月1日～3日
 調査面積 約208㎡（調査対象面積約3,500㎡）
 担当者 高野玄明・野代幸和・長田隆志



試掘調査位置図

原町農業高校前遺跡は、北杜高校敷地内に存在し、縄文時代中期の大規模集落として著名な遺跡であるが、埋蔵文化財包蔵地内にあるグラウンドが文化財保護法に基づく協議が成されないまま無断で切土・盛土の造成されていたことが判明した。このため、急遽、遺跡の残存状況を確認するための確認調査を行うこととなった。調査は、重機や人力により長さ1.5～39.0m、幅0.3～1.7m、深さ0.15～2.5mのトレンチを設定し、トレンチ内の遺構や遺物の有無を確認し、被害状況の確認を行った。この結果、調査区北側は、整地された砂層直下にローム層が見られ、ほとんど遺物や遺構は確認できなかった。調査区のほぼ中央は部分的に遺構や遺物が確認でき、埋蔵文化財が保存されている区域で、調査区南側は盛土がなされ、今回の造成工事には影響は見られなかった。

この様な調査の結果を踏まえて、今後の保存を含めた埋蔵文化財の取り扱いの協議を行い、さらには再発防止のため学校内や地元への周知を行うため、案内看板等の設置をお願いした。



トレンチ設定図

トレンチ設定位置ならびに造成影響図

4-5 西関東連絡道路(Ⅱ期)建設事業に伴う試掘調査

所在地 山梨市万力外地内
調査期間 2010年6月7日～10月13日のうち59日間
調査面積 1,320㎡(調査対象面積約60,000㎡)
担当者 保坂和博・小澤美和子

今回の試掘調査は平成20年度から進められている西関東連絡道路第Ⅱ期区間(山梨市万力～山梨市東)の整備事業に伴うもので、取得された用地内約60,000㎡を対象とし調査を行うこととなった。道路建設工事を進めるうえで、便宜上Ⅰ～Ⅴ工区と用地が分けられており、試掘調査も工区ごとに行ったが、Ⅴ工区に関しては、用地未取得のため調査は実施していない。

調査の結果、周知の遺跡である上コブク遺跡が範囲変更となり、新たに廻り田遺跡、膳棚遺跡が発見された。以下、工区ごとに調査結果の概要を述べる。

○Ⅰ工区

トレンチ41本を設定した。基本的な土層は、1～22号トレンチまで耕作土-暗褐色土-褐色土-黒褐色土(鉄分多い)-黒褐色粘質土-オリーブ褐色砂が堆積しており、23～41号トレンチは暗褐色土-褐色粘質土-褐色砂礫が堆積している。黒褐色土は粘性が強く、鉄分が多量に混在しており、調査対象地北側に広がる山から流れてくる地下水の影響を受けていると考えられる。遺物は、全体で土器小片などが40点ほど出土したが、ほとんど磨耗しており、川の影響を受けて流れ込んできたものと考えられる。Ⅰ工区の北東には足原田遺跡が存在し、今回の試掘調査によりさらに東へ広がる可能性が考えられたが、遺構は確認できなかった。用地未取得のため調査が不可能だった部分があるが、その一部は今後試掘調査を行う予定であり、それ以外の用地に関しては調査結果から埋蔵文化財の対応は必要ないといえる。

○Ⅱ工区

トレンチ49本を設定した。1～4号トレンチは全て埋土、5～9号トレンチは表土-褐色土-暗褐色砂礫が堆積している。10～16号トレンチで0.3～0.8mの間に堆積している暗褐色土-黒褐色粘質土から縄文土器片が出土しているが、特に11、12号トレンチは縄文土器片がそれぞれ200点近く出土している。また、12号トレンチからピット1基、焼土跡、13号トレンチから土坑2基、ピット1基、14号トレンチから埋蔵が2つ検出された。22～43号トレンチは0.3～0.7mの間に堆積している黄褐色粘質土あるいは暗褐色土から平安時代の土師器片などが出土している。遺構は26、33、36、37、39、40号トレンチから土坑が各1基、31号トレンチから住居跡と思われる遺構1基、38号トレンチから土坑3基、ピット2基、41号トレンチからピット1基が検出された。44～49号トレンチは表土-褐色土-暗褐色あるいは黒褐色土(礫混じり)-褐色砂礫が堆積し、土師器片など出土しているが、これらのトレンチを設定した用地の直ぐ北側は崖であり、土層堆積状況からも流れ込んだものと考えられる。

以上の結果から、第Ⅱ工区の調査対象地の北西に位置する上コブク遺跡(縄文・平安時代)がさらに広がると考えられ、範囲を追加修正することとなった。

○Ⅲ工区

トレンチ44本を設定した。基本的な土層は1～14号トレンチが表土-褐色土-黒褐色土-褐色砂礫-黒褐色シルト。15～32号トレンチが表土-黒褐色土(小礫多い)-褐灰色土-黒褐色土-黒色粘質土-オリーブ褐色砂礫。33～44号トレンチが表土-暗褐色～黒褐色土-黒色粘質土-黒色シルトである。

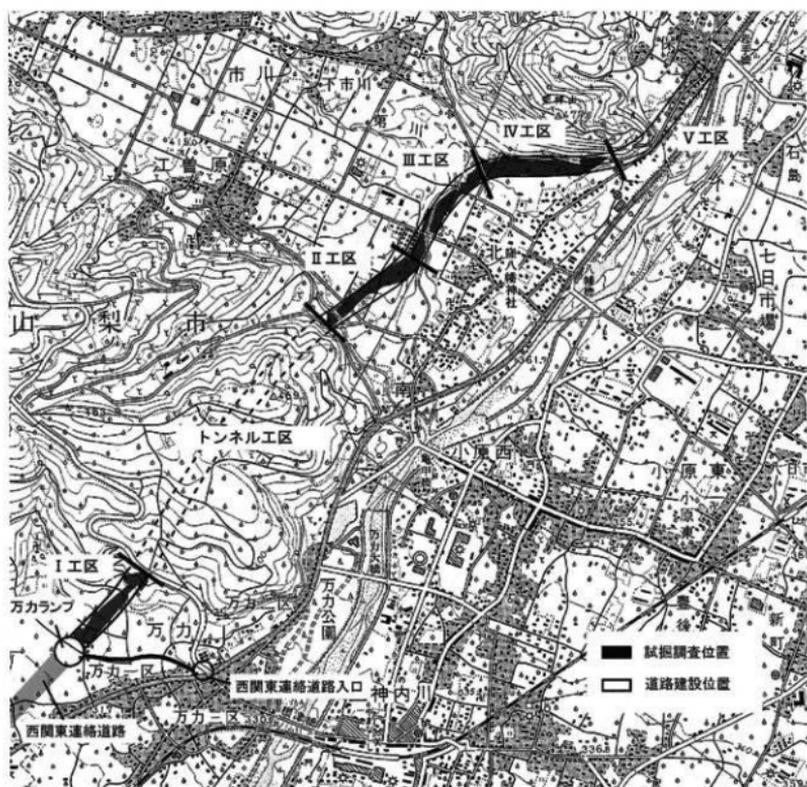
34号トレンチから土坑1基が検出され、古墳時代の甕などの土器片が数十点と集中して出土した。他のトレンチからは遺構は確認されず、遺物は全体で数十点ほど出土したが、小さいもの、磨耗したもののばかりで、流れ込んだものと考えられる。遺構の確認は土坑1基だが、確認されたトレンチのさらに北側に遺跡が広がっている可能性があり、廻り田遺跡として新たに発見された。

○Ⅳ工区

トレンチ45本を設定した。基本的な土層は表土-褐色土-暗褐色土-黒褐色土-暗褐色土(砂礫混じる)-暗褐色粘質土が堆積している。

遺構は、12号トレンチから住居跡と考えられる遺構が1基、35、39号トレンチからカマド跡が各1基、40、42号トレンチからは焼土跡が検出された。また、それらの遺構に伴い平安時代の土師器甕や坏などの土器片がまとまって出土している。これらは0.4~1.2mの間にある暗褐色土~黒褐色土から検出された。遺構が検出された周辺のトレンチからもやはり土師器片などが出土している。7、8、16~18、23号トレンチは0.5~1mで湧水し、用地内西半分の南縁は湿地帯である。以上の結果、平安時代の遺跡である膳棚遺跡が発見された。

今回の試掘調査によって、Ⅱ工区、Ⅲ工区、Ⅳ工区内で遺構および遺物が確認できたことから、事前に発掘調査による記録保存などの保護措置が認められ、上コブケ遺跡(約13,000㎡)、廻り田遺跡(約2,000㎡)、膳棚遺跡(約20,700㎡)の本調査を実施する必要がある。なお、Ⅰ~Ⅳ工区内で用地未取得のため今回試掘調査を出来なかった地点があるが、それについては事業課との協議の上、平成23年度以降実施する必要がある。



試掘調査位置図



I工区 作業状況



II工区14号トレンチ埋糞検出状況



II工区14号トレンチ完掘



II工区31号トレンチ出土遺物



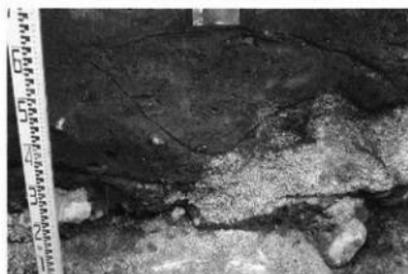
II工区33号トレンチ土坑検出



III工区34号トレンチ遺物出土状況



IV工区35号トレンチカマド跡検出



IV工区39号トレンチカマド跡検出

4-6 県庁舎耐震化等整備事業（議事堂仮設庁舎建設）に伴う確認調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1（県庁構内）
遺跡名 甲府城跡
調査期間 2010年7月10日（土）～17日（土）
（実質調査日：12（月）～16日（金））
調査面積 約360㎡（影響のある範囲）
約70㎡（調査面積）
担当者 野代幸和・長田隆志



試掘調査位置図

本事業は、総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から確認調査の依頼を受けて当センターで実施した。協議内容については、現況では駐車場と植樹帯となっている部分において調査を実施することを確認した。

当該地点は周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の楽屋曲輪北東部に位置しており、書院に付帯する長屋門などの存在が推定された。本事業は、建設工事を前提とした確認調査であり、影響を受ける範囲内での基礎的データ収集対応に終始したため、遺構の面的な広がりについては把握することができなかった。過去の調査状況としては、西側の隣接地において立会調査を行ったところ、石列などが確認された経過がある。全体的な工程としては7月10日にバリケード・プレハブの設置を、12日～16日に実質的な調査を実施し、17日ですべての撤収作業を行った。調査の結果、長屋門関連と推定される柱穴2基、書院に付帯する暗渠跡が確認された。遺構確認面までの掘削最大深度は最大500mm程度であり、表土からは戦災による焼けた瓦や戦時中の陶磁器類が複数確認された。

建設に際しては、遺構確認面から30cm以上の保護層を維持して施工することを指示した。

4-7 県立農業大学校整備事業に伴う試掘調査

所在地 北杜市長坂町長坂上条3251地内
調査期間 2010年6月22日
調査面積 約15㎡（調査対象面積約95㎡）
担当者 高野玄明



試掘調査位置図

県立農業大学校においては、縄文中期の大集落である酒呑場遺跡に隣接していることから、農業大学校整備事業に伴う開発事業については、埋蔵文化財の対応を行っている状況である。今回の試掘調査は実習会場トイレ、大型機械収納庫の建設予定地において、重機により、長さ1.5～7.0m、幅1.5m、深さ1.3～1.6mのトレンチを設定し、土層断面観察や遺構、遺物の有無を確認した。試掘調査の結果、いずれのトレンチからも地表から0.4～0.7mには攪乱がローム層まで及んでおり、既に開拓による造成が行われていたことが確認でき、遺構や遺物の検出には至らず、よって建設工事を実施するにあたり、問題ないものと判断できる。しかし、農業大学校は酒呑場遺跡と隣接し広大な敷地を有することから、今後、注意が必要である。

4-8 酪農試験場場内整備事業（場内通路舗装）に伴う試掘調査

所在地 北杜市長坂町長坂上条621-2 地内
遺跡名 酒呑場遺跡
調査期間 2010年7月13日
調査面積 約16㎡（調査対象面積約279㎡）
担当者 高野玄明



試掘調査 位置図

酒呑場遺跡は、古くから縄文時代中期の大規模環状集落と知られ、平成6～8、15年に県教委、平成7・8年旧長坂町教委により酪農試験場の新・改築工事などに伴って発掘調査が行なわれ、さらには、小規模掘削等の工事については、立会調査で対応している。このような状況の中で、今回、酪農試験場では場内の作業用通路の舗装工事が計画された。

これについて、施工箇所の確認等、現地での協議を行ない、過去に発掘調査が行なわれた箇所を除いて試掘調査を実施し、埋蔵文化財の状況（深さ等）を確認した上で、施工方法の検討を行うこととなった。

試掘調査は、重機により幅0.7m、長さ2.0～3.5m、深さ0.2～1.3mの規模で7本設定し調査を行った。

調査の結果、1・2・5・8号トレンチでは、地表下0.2mでローム層が見られ、微量ではあるがカーボンや土器の小破片がみられる。このほかのトレンチにおいては、0.7～1.3mでロームの上面が見られ、既に攪乱など削平をうけている状況が見られる。このため、浅い部分で確認されたロームの保護のための盛土等、施工にあたっては、今回の試掘調査結果を踏まえ、学術文化財課と協議を行うなかで施工するようお願いした。

4-9 国道411号城東Ⅱ期バイパス建設事業に伴う試掘調査（第1次）

所在地 甲府市朝気二丁目1,086地内
調査期間 2010年7月26日
調査面積 約88㎡（調査対象面積約2,290㎡）
担当者 高野玄明



試掘調査 位置図

城東バイパス建設工事については、供用開始されている甲府市国玉町地内についても、試掘調査を実施している。また、昨年7月には甲府市砂田町内の供用開始西側部分の試掘調査を実施している。今回の試掘調査は、身延線西側に隣接する朝気二丁目地内について、重機によりトレンチ掘削を行い、土層断面の観察や、遺構・遺物の確認を行った。トレンチは長さ8.5～10.0m、幅1.3m、深さ1.5～1.9mを掘り、合計7本を設定した。調査により確認された土層は、1層：暗黄灰色粘質土（耕作土）、2層：暗オリーブ褐色粘質土、3層：灰黄褐色砂質土、4層：黒色粘土（粘性強い）、5層：浅黄褐色砂質土で、この黒色粘質土が地表下約0.8～1.0mでみられ、厚さも1.0m以上堆積している。いずれのトレンチからも砂層や粘土層の水平堆積であり、今回の試掘調査範囲からは、遺構や遺物の確認はできなかった。このため、今回の試掘調査範囲と昨年7月の調査範囲に挟まれた未調査区域も、同様な地形を呈することや、土層の堆積も想定できることから、未調査ではあるが埋蔵文化財については、問題ないものと判断できる。しかし、東側に延びる道路建設予定地については、用地取得がほとんど済んでいることから、調査体制が準備でき次第、試掘調査を実施することとした。

4-10 国道411号城東Ⅱ期バイパス建設事業に伴う試掘調査(第2次)

所在地 甲府市朝氣二丁目地内
作業期間 2010年12月6日・7日
調査面積 約105㎡(調査対象面積約10,400㎡)
担当者 吉岡弘樹・皆川賢司

試掘対象地は、濁川によって形成された自然堤防上にあり、標高は約256mを測る地点である。北西方向には、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡が、また、南側には縄文から中世を主体とする朝氣遺跡が存在している。これらのことから、事前協議に基づき建設予定地の約400m分の試掘調査が実施されることとなった。

調査前の状況は、更地化されている部分と建物が残存している部分が点在し、さらに地下埋設物(水道管)が未撤去の箇所もあることから、甲府市上下水道局と現地での確認を事前に実施し、トレンチ開口地点を選定した。

調査は、上記の事柄を考慮し長方形のトレンチを開口させた後、土層堆積状況を確認することとした。掘削には、重機を用いその後、精査し土層断面の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査後に埋戻しを行った。

その結果、9ヶ所の土層確認地点全てにおいて、土地造成時の盛り土などからなる表土層下に、粘質土が厚く堆積すると共に湧水深度より深く存在していることが観察された。なお、この粘質土中より遺構や遺物が包含される層序は確認できなかった。



試掘調査位置図

4-11 都留バイパス建設事業に伴う試掘調査(No.12地点)

所在地 山梨県都留市井倉259-1外
遺跡名 美通遺跡
調査期間 平成22年7月28日(水)
調査面積 約52㎡(調査対象面積850㎡)
担当者 笠原みゆき

試掘調査対象地は、平成21年度に発掘調査された美通遺跡C区北東側に隣接している。本地に、都留バイパス本線からなる雨水などを排水処理するため、仮設の水路を設置する計画があった。用地は、遺跡の末端であるため、遺構の有無を確認する目的で、2本の試掘トレンチを水路敷設位置に合わせて設定し、重機による掘削・遺構確認をおこなった。

試掘調査の結果トレンチ1は幅約2m・長さ約10mで、地表面から0.7mから掘り下げたところから、縄文土器の破片が出土し始めた。この確認面から拳大の礫が集積する部分が3カ所確認でき、集石遺構と考えられる。隣接する美通遺跡C区からも、縄文時代前期末頃の集石土坑が発見されており、同様の遺構と推定される。また、この集石遺構の北側には、幅1.5~2mの黒色土の帯が確認されている。トレンチ内で遺構の少ない西端にサブトレンチを入れた。しかし、ここでは遺構などの発見には至らなかった。

トレンチ2は幅約2m・長さ約16mで、トレンチ1より浅い約0.5mのところから、拳大~拳大の礫が



試掘調査位置図

集積する集石遺構が2カ所確認、その南側では、礫が入る黒色土の帯が確認できた。また、その南側では、平安時代以降の土坑が2基確認できた。これらの遺構は、美通遺跡全体をとおして発見できるもので、試掘対象地も例外なく、平安時代以降の土坑の分布が広がっているものと考えられる。

今回の調査から、集石遺構5基・土坑2基・溝状遺構2条・縄文前期頃の土器が確認できた。遺構確認面が地表下0.5m～0.7mと浅いが、隣接する美通遺跡C区より現地表面が段状に下がっていることから、本来はC区同様約1mの表土があったと推定される。

土坑や溝状遺構が美通遺跡全体から確認されている平安時代以降の遺構と推定されるため、縄文時代と平安時代以降の2時期の調査が必要と考えられる。

4-12 都留バイパス建設事業に伴う試掘調査 (No.1地点)

所在地 山梨県都留市市井倉548付近
 遺跡名 美通遺跡
 事業名 都留バイパス建設事業に伴う試掘調査
 作業期間 平成22年10月13日(水)
 調査面積 約3.19㎡(調査対象面積 約4.5㎡)
 調査担当 笠原みゆき



試掘調査 位置図

都留バイパスNo.1の試掘調査は、調査地点の両側(A区1・A区2-3)で、奈良・平安時代の住居跡が検出されていることから、遺構・遺物を確認するために行われた。

立会調査では、幅0.9m・長さ5mのトレンチを設定し、重機による掘削をおこなった。調査の結果、住居跡の可能性ある竪穴状遺構が円形の土坑と切合う状態で確認された。

竪穴状遺構の覆土中からの遺物は確認できなかったが、トレンチの壁面から土師器杯の破片が確認された。また、覆土中には、焼土と炭化材の広がり確認出来た。ここでは、遺構が確認出来たことを報告し、埋め戻しを行った。

試掘調査では、立会調査で掘削したトレンチを再度掘り直し、確認した遺構を調査した。竪穴状建物跡は、深さ約0.34mの方形の形状をしていると推定されるが、トレンチ内での辺が1辺しか確認できなかったため、明確な形はわからなかった。しかし、トレンチの南西端では焼土の塊が確認でき、この方向にカマドがある可能性がある。遺物の少なさやカマドの方向から、平安時代の竪穴式住居跡と推定する。土坑は、本調査区内から検出されている直径1mほどの円形土坑と思われる。遺物は確認できなかった。

4-13 農政部畜産課の課題に係る試掘調査

所在地 甲斐市宮浦沢3185外
 調査期間 2010年8月5日～8月6日
 調査面積 約150㎡(調査対象面積約1,800㎡)
 担当者 三田村美彦・石井 明



試掘調査 位置図

本事業は、口蹄疫発生時における殺処分畜埋却用地を総合農業試験場跡地に確保するにあたり、周辺に東峰A遺跡などの遺跡が存在することから、事前に埋蔵文化財の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査は用地の地形に合わせ、東西（第1）、南北（第2）2本のトレンチを設定した。トレンチは、南北とも長さ50m、幅1.5mとなる（トレンチ設定図参照）。

調査の結果、第1トレンチ東側では、表土下20cmで、20cm大の礫を包含する粘性の極めて強い赤褐色粘土層（地山）が検出された。トレンチ中央付近では表土下に碎石を混入する攪乱層が60cm近く堆積していた。トレンチ西部は、トレンチ東部と同様の堆積が確認された。第2トレンチではその北部、中央、南部においていずれも、表土下に埋土と思われる10～20cm大の礫を混入する粘性の極めて強い土層が堆積し、遺構・遺物は確認されていない。よって、用地内における埋蔵文化財保護に係る対応は必要ないと判断される。

4-14 笛吹警察署金田駐在所建設事業に伴う試掘調査

所在地 笛吹市一宮町竹原田字大日町14-1
遺跡名 橋立遺跡
調査期間 2010年9月1日
調査面積 約13㎡（調査対象面積約198㎡）
担当者 高野玄明



試掘調査 位置図

笛吹警察署金田駐在所の移転に伴い、移転先が埋蔵文化財包蔵地「橋立遺跡」にかかることから、学術文化財課と警察本部会計課との協議により、盛土を行なったあと、施工することとなった。しかし、事前に遺構・遺物が確認される深さを調べる必要があるとし、試掘調査を行うこととなった。

試掘調査は、事業予定地内のほぼ中央に幅1.0m、長さ13.4m、深さ0.7～1.0mのトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の有無や土層の確認を行った。

調査の結果、確認された土層は、1層：表土（黄褐色粘質土）、2層：暗褐色粘質土に砂質土含む（しまり強い）、3層：暗褐色砂礫層（10cm大の礫多く含む）である。

このうち、地表下0.25m～0.35mで確認された2層目の暗褐色粘質土は安定しており、小破片ではあるが土器やカーボン・焼土などが含まれていることが確認できた。

このため、駐在所の建設については、地表下0.25～0.35mで確認された2層目の暗褐色粘質土に掘削が及ばないよう、事業予定地内に盛土を施す等の措置を行ない、埋蔵文化財の保護につとめるようお願いした。

4-15 森林公園金川の森再整備事業に伴う試掘調査

所在地 笛吹市一宮町大字坪井1888-2外地内
遺跡名 宮の上遺跡
調査期間 2011年1月11日
調査面積 約18㎡（調査対象面積570㎡）
担当者 保坂和博



試掘調査 位置図

本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である宮の上遺跡の範囲内に当たることから、2010年12月20日に実施した現地協議に基づき、トレンチ（試掘溝）4箇所を設定し、試掘調査を

実施した。

第1号トレンチ（長さ約5.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）、第2号トレンチ（長さ約5.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）、第3号トレンチ（長さ約3.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）、第4号トレンチ（長さ約5.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）において遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、表土層（1層）、盛土層（2層：碎石）以下は、金川による自然堆積層（河川堆積層）となり、にぶい黄褐色砂礫層（3層）、オリーブ褐色砂層（4層）、暗褐色砂質土層（5層）、暗褐色砂礫層（6層）、オリーブ褐色砂質土層（7層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、第3号トレンチ5層から流れ込みと考えられる崖滅した土師質土器（皿口縁部）が1点出土したのみで、他には遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

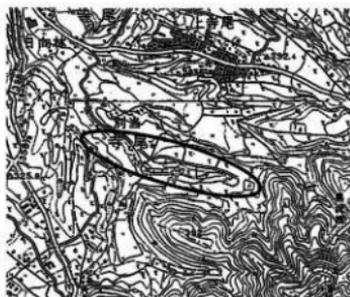
4-16 境川廃棄物最終処分場（仮称）建設事業に伴う試掘調査

所在地 笛吹市境川町寺尾地内

調査期間 2011年2月7日～14日

調査面積 約165㎡（調査対象面積約120,000㎡）

担当者 保坂和博



試掘調査位置図

本事業は、笛吹市境川町寺尾地内に計画されている次期廃棄物最終処分場建設事業である。今回の試掘調査は、隣接する中間処理施設事業エリアでの笛吹市教育委員会の試掘調査により遺跡が確認されていることから、2010年12月26日に実施した現地協議に基づき、現時点で試掘調査の可能な範囲における試掘調査の計画を立て、事業地における埋蔵文化財の有無や存在した場合の発掘調査計画作成のための基礎データを収集するために実施した。

試掘調査対象地内の稀少植物やオオタカに影響を及ぼさない範囲において、長さ約6m、幅約1.5m、深さ約1m前後のトレンチ（試掘溝）を18箇所（1T～18T）設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、丘陵地（1T～7T、15T～18T）と低地（8T～14T）で異なるが、いずれも基本的に表土層（1層）以下は自然堆積層となり、丘陵地では、表土層（1層）、褐色土層（2層）、褐色土層（3層）、明黄褐色土層（4層）、黄褐色土層（5層）、低地では、表土層（1層）、黒褐色粘質土層（2層）、暗オリーブ褐色粘質土層（3層）、灰色粘質土層（4層）、灰オリーブ粘質土層（5層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

なお、今後試掘調査を行う必要がある地点については事業課との協議の上、2011年度以降に実施することとなる。

4-17 消防学校整備事業に伴う試掘調査

所在地 中央市今福1029-1 地内
遺跡名 堤防遺跡推定地
調査期間 2011年1月26日
調査面積 約14.5㎡ (調査対象面積約40,000㎡)
担当者 保坂和博



試掘調査 位置図

本事業は、消防学校整備事業に伴う試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である堤防遺跡推定地の範囲内に当たることから、2011年1月19日に実施した現地協議に基づき、堤防遺跡推定地にかかる地点を対象にトレンチ（試掘溝）3箇所を設定し、試掘調査を実施した。

第1号トレンチ（長さ約4.0m、幅約1m、深さ約1.5m）、第2号トレンチ（長さ約5.5m、幅約1m、深さ約1.5m）、第3号トレンチ（長さ約5.0m、幅約1m、深さ約1.2m）において遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、盛土層（1層）、旧表土層（2層）以下は、釜無川による自然堆積層である黒褐色シルト層＋暗灰黄色砂層＋小礫層（3層）、黒褐色シルト層（4層）、暗オリーブ灰色砂層（5層）、黒褐色シルト層（6層）、暗オリーブ灰砂層（7層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-18 山梨園芸高校駐車場建設に伴う試掘調査

所在地 笛吹市石和町中川字六角1230地内
遺跡名 狐原遺跡
調査期間 2011年2月23日
調査面積 約42㎡ (調査対象面積約350㎡)
担当者 山本茂樹



試掘調査 位置図

試掘調査は、1) 遺跡の深さについて、2) 遺構の種類、数量についての確認を行うことを目的として実施した。

1) 遺跡の深さについては、地形が東から西へ傾斜していることにより、予定地内に長さ約8m、幅約1mの試掘溝を東西方向に設定し掘削を行った。試掘溝の西側では深さ0.5mで礫が混入した攪乱層が確認されたが、この深さで試掘溝の掘削を行ったところ、第3層で小破片の土器が13点確認された。精査を行ったが遺構の範囲が不明であったため、溝を左右に広げて確認作業を行った。

また、下層の状況を把握するために、更に試掘溝を0.2m掘削したところビニール製の紐が見つかり、3層までは攪乱を受けていることが明らかになった。試掘溝の東では3層より下で砂層が確認されたことにより、西側についても砂層まで掘削を行い0.60mで層が確認された。

このことにより、試掘溝内で砂層まで掘削を行ったところ、砂層を掘り込んで遺構が形成されていることが明らかにされた。現地表から遺構確認面までの深さは、西側では0.6m、中央付近では0.75mで、確認面は砂層上面である。

2) 遺構の種類、数量については、住居跡2軒(平安時代)と西側端の竪穴状遺構そして溝2条である。住居跡の規模は、3m～4mと考えられ、北側ではカマドと思われる粘土が一部ではあるが確認された。

その結果、現地表下0.75mで2軒の住居跡や2本の溝、竪穴状遺構などが確認されるとともに、土器片は掘削土中の1点を含めると総計14点が出土した。

よって、山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項 第6条により、30cm以上の保護層を確保できない工事設計の場合には、発掘調査の必要がある。また、周囲での掘削を伴う工事については、その内容により試掘調査または工事立会を実施する必要がある。

4-19 中部横断自動車道建設事業(鉄塔移設)に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡南部町福士字真篠1049-2 地内
遺跡名 真篠城跡
調査期間 2010年6月15日
調査面積 1㎡(対象面積952㎡)
担当者 出月洋文・小林健二



試掘調査 位置図

本事業は、東京電力による中部横断自動車道建設に伴う鉄塔移設工事である。

事業予定地一帯は、中世後半に築かれた甲斐と駿河の国境防衛のための山城であった県指定史跡真篠城跡の南西側に隣接する地域であることから、土層の堆積状況及び遺構・遺物の有無を把握するため、事業予定地内の鉄塔橋脚部分4箇所に50cm×50cmのトレンチを設定し、人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、南から北へ下る竹林のやや急傾斜面にあり、土砂の崩落により斜面下側ではやや厚く腐食土が堆積していたが、いずれのトレンチにおいても、斜面上側のトレンチ(1号・2号)で深さ25～30cm、斜面下側のトレンチ(3号・4号)で深さ35～50cmにおいて、それぞれ明褐色の地山層が検出された。この面において、造成した痕跡や遺構・遺物は全く確認されなかった。

以上の試掘調査の結果から、工事に支障はないものと判断される。

4-20 中部横断自動車道建設事業(身延IC)に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡身延町上八木沢字敏原地内
調査期間 2010年8月9日, 10日
調査面積 210㎡(試掘対象面積約4,260㎡)
担当者 山本茂樹



試掘調査 位置図

(仮称)身延インターへのアクセス道路建設に伴う試掘調査の実施である。試掘箇所のはほとんどは畑として利用されていた場所で、北へ緩やかに傾斜し、江戸時代頃の石塔がいくつか存在するところである。南に連なる山には神社もあり、立地条件などから遺跡が存在している可能性が認められる場所でもある。

昨年度第1回目の試掘調査では8本の試掘坑を設定し、今回第2回目の試掘調査では10本の試掘坑を

設定し実施した。

今回の場所は、東西に伸びる現道の南側で一段高くなった畑地で試掘調査を実施し、人力による掘削を行った。

1坑では、長い試掘坑を設定し深さ0.25m掘削したところ、現地表から約0.25mまでは耕作土、その下には地山の黄褐色土（粘性、しまりあり）が確認された。2坑から10坑までの地形は、北西に向かって緩やかに傾斜する場所である。2坑は、深さ0.2mで掘削したところ、約0.20mで地山の黄褐色土が認められ、3坑は、深さ0.20m、4坑は、深さ0.10m、5坑は、深さ0.20m、6坑は、深さ0.25mで同様の地山が確認された。

7、8坑は、北東方向に傾斜する場所である。この地点は山林の中であったことから、立木の間に試掘坑を設定した。それぞれ地山までの深さは0.20mである。9坑では、深さ0.20m、10坑では、深さ0.25mで掘削したところ、全て同様な地山が確認された。

各地点での調査結果から、粘性のあるしまりの強い黄褐色土がこの地区に広がっていると考えられること、深さが現地表から0.3m前後であることなどからこの層が遺構確認面と思われるが、遺構・遺物の発見はなかった。

よって、埋蔵文化財の発見はなく、工事を着手しても支障はないものと思われる。

4-21 中部横断自動車道建設事業(六郷IC)に伴う試掘調査

所在地 西八代郡市川三郷町宮原地内
調査期間 2011年2月17日～18日
調査面積 約97㎡（調査対象面積約14,800㎡）
担当者 保坂和博



試掘調査位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、14箇所のトレンチを設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、表土層（1層）の現水田耕作土以下は、葛電沢川による自然堆積層（河川堆積層）である灰オリブ粘質土層（2層）、オリブ褐色粘質土層（3層）、灰色粘質土層（4層）、暗緑灰色粘質土層（5層）の層順となり、4層（深さ約50cm）以下については湧水によるグライ化現象が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-22 中部横断自動車道建設事業（三沢川橋梁）に伴う試掘調査

所在地 西八代都市川三郷町鴨狩津向地内
調査期間 2011年2月21日
調査面積 53約㎡（調査対象面積約 1,075㎡）
担当者 保坂和博



試掘調査 位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、4箇所のトレンチを設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、1層～2層の埋土層以下は、三沢川による自然堆積層（河川堆積層）である暗オリーブ灰色シルト質層（3層）、オリーブ灰色粘質土層（4層）、オリーブ褐色砂層（5層）、灰色砂礫層（6層）となり、5層以下は湧水によるグライ化現象が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-23 中部横断自動車道建設事業（富沢IC）に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡南部町富士地内
調査期間 2011年3月4日、8日
調査面積 71約㎡（調査対象面積約 8,258㎡）
担当者 保坂和博



試掘調査 位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、8箇所のトレンチを設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、富士川に近い第2、3、5、6号トレンチに砂礫層が多く見られるが、いずれも表土層（耕作土）以下は、富士川による自然堆積層（河川堆積層）である灰色粘質土層（2層）、灰オリーブ色シルト質層（3層）、オリーブ黒色シルト質層（4層）、暗灰黄色シルト質層（5層）、灰色粘質土層（6層）、灰色粘質土層7層、暗青灰色シルト層（8層）が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

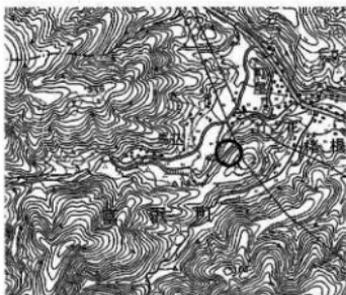
4-24 中部横断自動車道建設事業(楮根川橋梁)に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡南部町楮根地内
調査期間 2011年3月8日～11日
調査面積 約249㎡(調査対象面積約 5,086㎡)
担当者 保坂和博

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所(中部横断自動車道推進室)、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、14箇所のトレンチを設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、いずれも表土層(耕作土)以下は、楮根川による自然堆積層(河川堆積層)であるオリブ褐色粘質土層(2層)、黄褐色粘質土層(3層)、オリブ褐色粘質土層(4層)、灰黄褐色シルト質層(5層)、にぶい黄褐色粘質土層(6層)、にぶい黄褐色シルト質層(7層)、にぶい黄褐色粘質土層(8層)、褐色シルト層+砂礫層(9層)の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。



試掘調査 位置図

4-25 中部横断自動車道建設事業(六郷IC)に伴う試掘調査

所在地 西八代郡市川三郷町原ノ前地内
調査期間 2011年3月14日～17日、22日～25日
調査面積 約710㎡(調査対象面積約 42,014㎡)
担当者 保坂和博

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、中日本高速道路株式会社東京支社南アルプス工事事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年1月28日に行われた現地協議の結果に基づき、トレンチ(試掘溝)44箇所を設定し、遺構確認と土層観察を行った。各トレンチの土層堆積状況は、葛滝沢川を挟んだ右岸側(1～37トレンチ)と左岸側(38～44トレンチ)で異なる状況であるが、いずれも表土層(1層:水田耕作土)以下は、葛滝沢川による自然堆積層(河川堆積層)である灰オリブ粘質土層(2層)、オリブ褐色シルト質土層(3層)、オリブ褐色砂礫層(4層)、オリブ褐色粘質土層(5層)、暗灰黄色砂礫層(6層)、オリブ褐色砂質土層(7層)、灰オリブ砂層(8層)、オリブ灰色粘質土層(9層)の層順が確認された。

試掘調査の結果、遺物としては、右岸側(1～37トレンチ)の4層(砂礫層)と左岸側(38～44トレンチ)の4層(小礫層)から明治期以降の陶磁器と左岸側44トレンチの8層(砂礫層)から江戸期の磁器が出土しているが、いずれも流れ込みと考えられる。また、遺構としては、左岸側44トレンチで明治期以降と考えられる杭列が確認されている。

以上のことから、遺構・遺物ともに明治期以降と考えられ、山梨県埋蔵文化財保護要項に基づき、これらは本地域における保護措置の必要性はないものと判断されたため、今回の試掘調査地点では工事に



試掘調査 位置図

着手しても差し支えない旨を報告した。また、今回の試掘対象地内において試掘調査を実施出来なかった地点（未契約、未引渡し）については、今後改めて協議の上、埋蔵文化財保護の対応を図ることが必要である旨を併せて報告した。

4-26 山梨リニア実験線建設事業（工事用道路）に伴う立会調査

所在地 借地№33地点：笛吹市御坂町竹居2322-4
借地№48地点：笛吹市御坂町竹居2320-1
D地点：笛吹市八代町竹居字南原1,593

調査期間 2010年4月8日、19日

調査面積 借地№33地点：約22㎡（調査対象面積約207㎡）
借地№48地点：約25㎡（調査対象面積約256㎡）
D地点：約40㎡（調査対象面積約170㎡）

担当者 保坂和博・小澤美和子



立会調査 位置図

借地№33、№48地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地の三光遺跡に近接することから4月8日に立会調査を実施した。№48地点の第1号トレンチでは、深さ0.34～0.47mで遺物包含層と思われる黒褐色土層が見られ、その下に地山と考えられる黄褐色砂礫層が確認された。№33地点の第2号トレンチでは、深さ1～1.6mで遺物包含層と思われる暗褐色～黒褐色土層、その下に地山と考えられる黄褐色土層が確認された。立会調査の結果、両地点ともに遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと判断されたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

D地点は、実験線本線の橋脚の建設にあたり、2009年度に試掘調査を行ったところ、本線センターライン南側、橋脚建設箇所付近に近接する箇所で古墳時代後期の須恵器を検出し、当該期の遺跡が建設対象地の南側に想定され、工事時に立会を実施することが確認されていたことから、4月19日に橋脚建設箇所（13m×13m）においてトレンチを3カ所設定し、重機による掘り下げを行いながら、遺構・遺物確認と土層観察を行った。各トレンチの土層堆積状況は同様であり、地表から0.2～0.5mほどは耕作土（1層）、その下は、黒褐色土層（2層：厚さ約0.3cm、1cm～10cm大の礫を多量に含む）、黒褐色砂礫層（3層：厚さ約0.2m、4層の漸位層：5cm～50cm大の礫を多量に含む）、さらに褐色砂礫層（4層：厚さ0.5m以上、1～20cm大の礫を多量に含む）が確認された。立会調査の結果、表土層以下は礫を多量に含む二次堆積層となり遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-27 山梨リニア実験線建設事業（工事用道路）に伴う立会調査

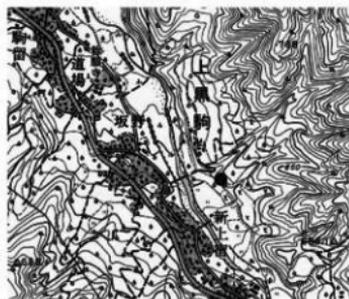
所在地 笛吹市御坂町上黒駒字中丸6209-2地内

遺跡名 御坂中丸遺跡

調査期間 2010年4月19日

調査面積 10㎡（対象面積395㎡）

調査担当者 小林健二



立会調査 位置図

平成22年4月9日に行われた今年度の埋蔵文化財調査にか

かる現地協議において、金川工区M地点で工事用道路建設に伴い掘削が行われることが確認されたが、この地点は平成21年度に調査が行われた御坂中丸遺跡の南西に隣接し、農道との間に石造物が2基残されており、斜面際の平坦部を掘削の際には立会調査を行うことが了解されたことから、これを受け調査を実施した。

調査は、安全対策のため墓石の周囲に柵を設置した後、重機により深さ1mで、長さ約5m、幅2mにわたって掘削した。その結果、表土を除去するとすぐに花崗岩を含む砂質土層となり、遺構・遺物は全く確認できず、立会は問題なく終了した。実際には墓石より約2m南側を掘削したため影響を及ぼすこともなく、工事を進めても支障はない旨を報告した。

4-28 山梨リニア実験線建設事業（工事用道路）に伴う立会調査

所在地 笛吹市境川町小山中丸844-11外地内
 調査期間 2010年5月19日
 調査面積 約10㎡（調査対象面積約900㎡）
 担当者 保坂和博



立会調査 位置図

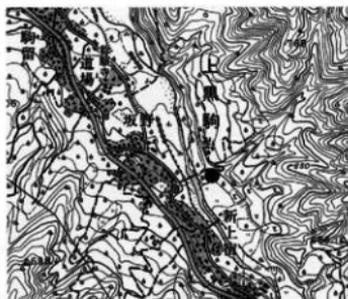
今回の立会調査は、2010年5月14日に行われた鉄道・運輸機構と学術文化財課および当センターとの現地協議の結果に基づき、北側に隣接して2008年度に行われた本調査の際に縄文時代中期の土坑などを検出した遺構確認面の深さまで切土される地点（長さ約5m、幅約2m、深さ約1.8m）を対象に、5月19日に行う増用№2地点の試掘調査と併せて遺構確認と土層観察を行った。

立会調査地点における土層堆積状況は、盛土層（1層：オリーブ褐色土層厚さ1.2m）、盛土層（2層：極暗褐色土層厚さ0.55m）、さらに自然堆積層（3層：黒褐色土層厚さ0.4m、4層：暗褐色土層厚さ0.4m）が確認された。

立会調査の結果、2008年度本調査時の遺構確認面となる層位（3～4層）を検出したが、遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-29 山梨リニア実験線建設事業（工事用道路）に伴う立会調査

所在地 笛吹市御坂町上黒駒6074-1外地内
 調査期間 2010年8月23日
 調査面積 25㎡（対象面積1,000㎡）
 調査担当 小林健二



立会調査 位置図

本事業は、山梨リニア実験線建設に伴う工事用道路建設工事である。

平成22年4月9日に行われた今年度の埋蔵文化財調査にかかる現地協議において、金川工区K地点で工事用道路が建設されることが確認された。現在、この地点の平坦部の東端に祠が残されているが、これに先行する建物跡等があるかどうか、掘削の際には立会調査を行うことが了解されたことから、これを受け調査を実施

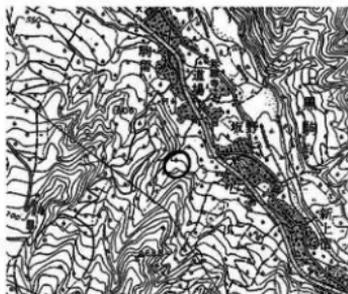
した。

立会調査は、重機により深さ1mで、長さ5m、幅5mの掘削をお願いし、土層の観察及び遺構・遺物の確認を行った。

調査の結果、表土を除去するとすぐに花崗岩を含む砂質土層となり、遺構・遺物は全く確認できず、工事を進めても支障はない旨を報告した。

4-30 山梨リニア実験線建設事業（黒駒トンネル終点側工 事用道路）に伴う立会調査

所在地 笛吹市御坂町上黒駒地内
調査期間 2010年12月15日
調査面積 約20㎡（調査対象面積約181.4㎡）
担当者 保坂和博



立会調査 位置図

本事業は、山梨リニア実験線本線と上黒駒バイパスを結ぶ工事用道路を建設する工事で、地形の傾斜に合わせた切土と盛土による掘削計画である。立会調査は、切土される第1地点（長さ約4m、幅約3m、深さ約1.2m）と第2地点（長さ約4m、幅約2m、深さ約1.5m）において遺構確認と土層観察を行った。

両地点における土層堆積状況は、地表から耕作土層（1～2層）、旧水田層（3層：暗褐色土層、4層：褐色土層）、さらに自然堆積層（5層：オリーブ褐色砂層、6層：褐色粘質土層、7層：オリーブ褐色砂層、8層：黒色粘質土層、9層：黒褐色粘質土層）が確認された。

立会調査の結果、旧水田層以下は自然堆積層となり、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-31 国道141号駒井地点改築事業に伴う立会調査

所在地 蕪崎市駒井字砂宮神地内
遺跡名 駒井砂宮神遺跡
調査期間 2010年4月26日、5月18日
調査面積 小屋側12.4㎡、母屋側12.48㎡
（調査対象面積約 小屋側48㎡、母屋側約130㎡）
担当者 保坂和博・小澤美和子



立会調査 位置図

国道141号蕪崎市駒井の地点を挟む宅地2箇所（母屋側、小屋側）に道路を拡幅し新たに右折レーンを建設するにあたり、該当箇所が周知の遺跡である駒井砂宮神遺跡にかかり、掘削がどちらも深いところで1mに及ぶため、立会調査を実施した。なお、当日は掘削の段階に至っておらず、工事の概要を聞いた上でトレンチを設定し、遺構、遺物確認と土層観察を行った。

【4月26日 小屋側立会】第1号トレンチ（長さ15.5m、幅0.8m）を設定し、3箇所土層観察を行った。浅い箇所まで35cm、深い箇所まで75cmまでは暗褐色砂質土層の埋土、その下には礫が混在するシルト層、深さ90cmから下は、20cm大の大きな礫が堆積し、塩川の影響をかなり受けていると考えられる。遺構、遺物ともに発見されなかった。【5月18日 母屋側立会】第2号トレンチ（長さ7m、幅0.8m）、第3号トレ

ンチ(長さ8.6m、幅0.8m)の2本を設定した。両トレンチとも同じ土層堆積状況であるが、小屋側の第1号トレンチと異なり、地表から55cmのところは埋土で、ゴミ、礫、江戸時代以降の磁器、陶器片が混在していた。その下の55～90cmのところに黒褐色土層が堆積し、この層は文化層と考えられるが、遺構、遺物は皆無であった。さらには下は砂質土層、シルト層が続き深さ135cmの所で、暗灰黄砂礫層が堆積していた。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-32 県立甲府工業高等学校グラウンド避雷針設置事業に伴う立会調査

所在地 甲府市塩部二丁目7-1地内
 遺跡名 塩部遺跡
 調査期間 2010年8月19日
 調査面積 約13.5㎡(調査対象面積約13.5㎡)
 担当者 高野玄明



立会調査 位置図

調査を実施した県立甲府工業高等学校及びその周辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地「塩部遺跡」が存在し、平成7(1995)年に甲府工業高校改築にあたり本発掘調査が実施されている。

今回は、グラウンド南北に設置されている防御ネットの先端部分に避雷針を取り付け、避雷針からの電流を地中に放電する銅線等の埋設のため、立会調査を実施することになった。

銅線等が埋設される箇所は北側ネット側に3箇所、南側ネット側に2箇所合計5箇所の掘削が行われ、掘削規模は、幅0.6m、長さ4.5m、深さ0.6mである。

調査の結果、掘削により確認された土層は、1層=0.1～0.15mでグラウンド表土(砂層)、2層=0.15～0.20mで碎石層、3層=0.3mで暗褐色粘質土(埋め土)であった。掘削深度が0.6m程と浅く、グラウンド造成の範囲内であることから、遺構や遺物の確認には至っておらず、埋蔵文化財について何ら問題は見られなかった。

4-33 甲府法務総合庁舎建設事業に伴う立会調査

所在地 甲府市中央一丁目11番地(中央公園敷地内)地内
 遺跡名 甲府城下町遺跡及び徴典館跡
 調査期間 2010年5月17日～7月8日
 調査面積 約250㎡(調査対象面積約1,300㎡)
 担当者 保坂和博・小澤美和子



立会調査 位置図

本事業は、甲府地方検察庁新庁舎建設による仮庁舎建設事業に伴う立会調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡及び徴典館跡地の範囲内に当たり、2008年度に実施した事前の試掘調査により、現地表面下0.9mに江戸時代の文化層が確認されていたことから、極小な範囲で掘削深度が文化層に及ぶ地点【5月

17日①地点（入口ゲート・スロープ設置）、18日②地点（旧入口撤去）、③地点（塀設置）、④～⑥地点（樹木移設）、20日⑦～⑨地点（樹木移設）、31日⑩地点（電柱埋設）、⑪～⑬地点（建物基礎設置）、6月1日⑭～⑯地点（電気配管）、28日⑰地点（地下構造物撤去）、30日⑱地点（電気配管）、7月7日⑳地点（電柱埋設）、8日㉑地点（電気配管）】において工事工程に合わせて立会調査を実施した。

土層堆積状況は、基本的に埋土範囲であるが、①、⑩、⑰～⑱、㉑地点で江戸時代の文化層を確認した。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-34 国道411号電線共同溝埋設事業（地中電線化）に伴う立会調査

所在地 甲府市和戸地内
 遺跡名 大坪遺跡
 調査期間 2010年10月12日
 調査面積 約13.5㎡（調査対象面積約13.5㎡）
 担当者 高野玄明



立会調査位置図

国道140号と国道411号交差点部分において、電線共同溝埋設に伴う掘削工事が計画されている。これについて、埋蔵文化財包蔵地「大坪遺跡」にかかることから、埋蔵文化財の協議を行い、立会調査を実施することとなった。なお、国道利用者や周辺住民への配慮から、夜間での工事としている。

今回の掘削工事は、工事着手前に地中の埋設物等の確認を行う試掘調査で、掘削規模は長さ5.0m、幅2.5m、深さ2.9mの範囲での立会調査を実施した。

調査の結果、アスファルト舗装から約90cm下部までは、道路工事等の掘削が及んでおり、それより下部は、自然堆積による黒色粘土や灰色砂層（細粒）が見られた。

今回の調査箇所について、埋蔵文化財は確認できなかったものの、今後、本体工事が国道140号線の交差点南北方向235mの範囲（掘削深度2.5m）で行なわれるため、立会調査は必要となる。

これについて、電線共同溝埋設工事が行われる箇所は、甲府市下水道敷設工事範囲と同一箇所に埋設され、なおかつ、本事業より下水道事業は深く掘削し埋設される。（同一施工業者）。

このため、学術文化財との協議の中で、下水道事業は甲府市教育委員会が既に交差点付近の工事で立会調査を実施しており、本事業は下水道工事終了後に埋設工事が行なわれることから、甲府市教育委員会が行なう立会調査の中で、必然的に本事業に関する埋蔵文化財の対応も実施していることとなる。

4-35 県営住宅谷村団地建替事業（集会場建設）に伴う立会調査

所在地 山梨県都留市つる三丁目-6
 調査期間 2010年10月27日（水）
 調査面積 約27㎡（調査対象面積50㎡）
 担当者 笠原みゆき

本調査は、周知の埋蔵文化財「徳重遺跡（遺跡分布図№13）」に隣接する場所にあり、県営谷村団地建て替えに伴う集会場の基礎工事の立会調査である。基礎は6カ所で、重機による掘削作業終了後、確認

調査を行った。立会調査の対象となった基礎平面は約2.6m×約2.6mで、掘削深度は約1.6mである。地表から0.6mほどは旧建物に伴う碎石層となっており、碎石層下には0.2mほどの水田耕作土と0.2mほどの水田床土が確認出来た。この水田の床土層から下が、遺構や遺物を含む文化層となっている。しかし、6カ所掘削した基礎のほとんどが旧建物で壊された状態であり、遺構・遺物が確認できたのは2箇所であった。掘削断面を詳細に観察した結果、基礎Ⅰでは、住居跡の張床と思われる厚さ0.02mほどの黄灰褐色の層が確認でき、遺物は土師器環の破片が数点出土した。基礎Ⅱでは、壁面に焼土と灰の混ざる層が確認でき、遺物も数点発見された。床面を精査したところ、旧基礎で壊されていたものの、カマドの袖の一部を検出できた。基礎工事中に従来把握されていない遺跡が確認されたことから、法的な位置づけを与える必要があり、当該地の小字が城ノ腰でその名を冠した遺跡が別にあることから「城ノ腰2遺跡」という遺跡名をつけ、登録をおこなった。



立会調査 位置図

4-36 県営住宅谷村団地建替事業に伴う立会調査

所在地 都留市つる三丁目地内
 調査期間 2011年1月14日、2月1日
 調査面積 約150㎡（調査対象面積約 150㎡）
 担当者 保坂和博

本事業は、周知の埋蔵文化財包蔵地である徳重遺跡に隣接する範囲内における県営住宅谷村団地建替事業で、既存の建物を解体・撤去後、新たに建築する工事である。

今回の立会調査に先立ち行われた集会場の基礎工事中（2010年10月6日）の立会調査で平安時代の住居跡が確認され

ていることから、2011年1月14日に実施した現地協議に基づき、既掘（既存の建物建設時の掘削）範囲を除き、新たに掘削される5地点を対象に立会調査を実施した。第1地点から第4地点は、擁壁（G）工事による長さ約48m、幅約2m、深さ約1mを、第5地点は、水路工事による長さ約28m、幅約1m、深さ約1mを対象に遺構確認と土層観察を行った。各地点における土層堆積状況は基本的に同様で、表土層（1層）、暗褐色土層（2層：建物解体後の埋土層）、ふい黄褐色土層（3層：水田耕作土層）、黒褐色土層（4層：水田床土層：古墳時代土器片混入）、黒色土層（5層：平安時代遺構確認面）の層順が確認された。

立会調査の結果、遺物は4層より流れ込みと考えられる古墳時代の土師器破片2点のみが確認された。また、今回の立会調査地点では10月6日に確認された平安時代の遺構確認面（5層）直上の4層までの掘削であり、遺構は保護されることとなった。以上のことから、今後、本地点において工事を行う場合には、遺跡に影響を及ぼさない保護措置を行うことが必要である旨を報告した。



立会調査 位置図

4-37 峡東流域下水道建設事業（峡東ネットワーク幹線下水道工事）に伴う立会調査

所在地 山梨市下石森地内
調査期間 2010年10月13日
調査面積 約10㎡（調査対象面積約185㎡）
担当者 出月洋文



立会調査 位置図

今回の立会調査は、事前の流域下水道事務所と学術文化財課との協議の結果に基づき、事業計画が周知の雲林遺跡に隣接することから、念のため掘削状況を観察して、埋蔵文化財への影響があるかを見るものとして位置づけられた。

立会調査は、延長123mの工事計画の中で、最も雲林遺跡と接近する箇所について、掘削状況を確認したもので、県道山梨市停車場線の路面から、幅1.2m、深さ約2.6mの掘削が行われた部分を対象とした。運行量の多い県道敷きでの掘削であり、安全確保のため、掘削と同時に支保が行われるため、断面の観察は十分には行えなかった。掘削下床面や排土を確認したところ、遺構や遺物等、埋蔵文化財に関する情報は確認できず、周知の範囲に隣接するところであることも勘案して、さらに工事を進めても差し支えないとした。

4-38 平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査

所在地 笛吹市春日居町鎮目707-1付近
遺跡名 大俣遺跡
調査期間 2010年11月8日
調査面積 約31㎡（調査対象面積約31㎡）
担当者 高野玄明



立会調査 位置図

平等川河川改修については、笛吹市春日居町内～甲府市七沢町地内において、堤防跡、河岸跡などの推定地や埋蔵文化財包蔵地において試掘調査や立会調査を実施している。

今回の調査は、春日居町鎮目地内の平等川河川改修に伴い、堤防の川裏側（埋蔵文化財包蔵：大俣遺跡）が掘削されるため、立会調査を実施することとなった。

掘削は、堤防の川裏側に幅1.3m、長さ23.6m、深さ0.75m～0.85mの範囲で行われ、確認された土層は、1層＝暗褐色粘質土（耕作土）、2層＝褐灰色砂質土・砂礫土が確認された。施工に当たり、これ以上の掘り下げは行わないことから、2層以下の状況は不明であるものの、今回の掘削範囲においては埋蔵文化財の確認はできなかった。このため、今回の事業地内での施工については問題ないものと思われる。

4-39 平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査

所在地 甲府市七沢町、笛吹市石和町唐柏地内
遺跡名 堤防遺跡推定地／七沢の渡し
調査期間 2010年11月9日、22日、12月6日
調査面積 約32㎡（調査対象面積約32㎡）
担当者 高野玄明



立会調査 位置図

平等川基幹河川改修事業については、笛吹市春日居町・石和町、甲府市七沢町地内において事業が進められており、改修事業内容を踏まえて試掘調査や立会調査を実施している。

今回の立会調査は、①～④の範囲に於いて事業着手前に重機によりトレンチ設定し、調査を行った。

①地点は左岸に6.0×1.0mのトレンチ2箇所、②地点は右岸に2.0×2.0m、③地点は左岸に2.0×2.0m、④地点は、③地点の上流の左岸に、2.0×2.0mの規模で掘削した。深さは2.0～2.7m程掘削したが、土層の堆積は河川の自然堆積による暗褐色砂質土、灰・青色砂質土が見られた。

上記のように、①～④地点について、立会調査を実施したが、いずれの箇所からも表土以下、河川等による自然堆積の砂層や礫層であり、堤防等の人為的な構築物の痕跡など見られなかった。また、遺物も確認できなかったことから、今回の調査地点に関し問題ないものと判断される。

4-40 平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査

所在地 笛吹市石和町東油川地内
遺跡名 堤防遺跡推定地／七沢の渡し
調査期間 2011年1月24日
調査面積 約50㎡（調査対象面積約50㎡）
担当者 高野玄明



立会調査 位置図

平等川河川改修事業については、笛吹市春日居町内～甲府市七沢町地内において、堤防跡、河岸跡などの推定地や埋蔵文化財包蔵地において試掘調査や立会調査を実施している。

今回の調査は、笛吹市石和町東油川地内において、柳田堰、取水樋管、導水路工事が平等川河川改修工事に伴って実施されることになった。この工事により一部堤防部分の掘削が行われるため、立会調査を実施した。

調査の結果、堤防断面は砂層を主体とした構造を呈し、掘削された断面を見る限り、堤防を玉石などで覆っている様子は見られない。堤防内部についても砂質土で構築されていた。

立会調査の結果、堤防構築に伴う石積みや堤防基底部の構築部材などの確認はできなかった。このため、堤防断面の記録を取って立会調査を終了した。

4-41 鎌田川河川改修事業に伴う立会調査

所在地 中央市大田和地内
調査期間 2010年11月22日
調査面積 約4㎡（調査対象面積約4㎡）
担当者 高野玄明

鎌田川改修事業については、鎌田川と東花輪川に挟まれる堤防を除去し、両河川（鎌田川・東花輪川）を一つの河川（鎌田川）に改修する工事である。このため、挟まれた堤防部分の掘削工事の際、同様に堤防断面の観察を行なうこととした。立会調査は、重機により幅1.0m×6.0m、深さ2.6mを掘削し調査を行った。



立会調査 位置図

掘削したトレンチ内は、客土の下部は、河川の水平堆積による白色砂層と赤褐色砂層が見られ、1.0m程で湧水が見られる。

この結果、河川による水平堆積の砂層が見られることや、堤防等の人為的な構築物や遺物の出土も見られなかったため、埋蔵文化財に関し問題ないものと判断した。

また、両河川に挟まれた現在の堤防について、一部断面掘削し、観察を行った。堤防の表面には暗褐色土の表土が見られ、白色砂層と、赤褐色砂層を交互に堆積している状況が窺え、構築部材等の確認には至らなかった。

4-42 一級河川富士川水系藤川広域河川改修事業に伴う立会調査

所在地 甲府市城東四丁目地内
遺跡名 甲府城下町遺跡
調査期間 2011年11月29日
調査面積 約40㎡（調査対象面積約40㎡）
担当者 高野玄明



立会調査 位置図

藤川については、平成21年度より河川改修工事を行っており、今年度の施工範囲に周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」にかかるため、平成22年6月21日に現地において、施工内容や方法等を確認するため、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行なった。

藤川の河川改修は、宅地や道路であるため河川幅を広げることなく施工を行なう。しかし、のり面部分の補修に掘削を伴うため、この部分についてのみ立会調査を実施することとなった。

今回の立会調査箇所は、今年度施工部分の起点部に立坑を敷設するもので、幅4.0m、長さ10.0m、河床部分から下に2m程掘削を行い施工するもので、川幅を広げるなどの工法は行われぬ。

このため、河床から1.0m程掘削をお願いし、河床の状況を見たが、河川による砂層の自然堆積が見られるなど、甲府城下町に関する埋蔵文化財については、問題ないものと判断し、調査を終了した。

また、藤川河川改修工事に関し、市街地であり事業地周辺が宅地に囲まれているため、今後も、川幅を広げるなどの工事は不可能であるため、河床部だけの施工であり、埋蔵文化財に関しては問題ないと思われる。

4-43 貫川河川改修事業に伴う立会調査

所在地 甲斐市電王新町地内
遺跡名 金の尾遺跡
調査期間 2010年12月21日
調査面積 約5.5㎡（調査対象面積約180㎡）
担当者 保坂和博

本事業は、地域自立活性化河川改修事業による貫川の河川改修で、既存の護岸擁壁と堤防を撤去し、新たな護岸擁壁と堤防を設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である金の尾遺跡の範囲内に当たり、これまでに実施された発掘調査により、弥生時代後期の拠点的な集落跡が確認されていることから、2010年12月20日に実施した現地協議に基づき、既掘（既存の護岸擁壁や堤防を建設する際に掘削）範囲を除き、新たに掘削される場所（4.5m×40m=180㎡）を対象に立会調査を実施した。

第1地点（長さ約1.5m、幅約1m、深さ約1.1m）、第2地点（長さ約2m、幅約1m、深さ約0.9m）、第3地点（長さ約2m、幅約1m、深さ約0.9m）において遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、表土層（1層）以下は、貫川による自然堆積層（河川堆積層）となり、暗灰黄色シルト層＋暗灰黄色砂礫層（2層）、暗灰黄色シルト層（3層）、にぶい黄褐色シルト層（4層）、黄灰色砂層（5層）の層順が確認された。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



立会調査 位置図

4-44 県立図書館アーケード設置事業に伴う立会調査

所在地 甲府市北口二丁目 地内
遺跡名 甲府城下町遺跡
調査期間 平成22年11月9日・11日・17日
調査面積 40㎡（調査対象面積 257㎡）
担当者 吉岡弘樹

本事業は、県立図書館建設に伴い、JR甲府駅北口に接続するアーケードを東西方向に設置する工事である。

当地の西方には塩部遺跡・緑が丘一丁目遺跡・緑が丘二丁目遺跡や南東方向には朝気遺跡など集落が形成された遺跡も確認されている。更に、武田城下町遺跡（中世）甲府城下町遺跡（近世）が重なり合う範囲として捉えられている場所である。

今回の立会調査では、既に当地点が過去において大きく掘削等が行われ攪乱などの影響が大きいと推定されるため、アーケードの支柱掘削地点の幅約2m、長さ約5m程の掘削箇所内、比較的状態が良いと思われる地点の土層断面を観察することとした。

その結果、第1号トレンチでは、約10cmのアスファルト舗装と約90cm厚の攪乱の多くみられる表土層直下、淡茶褐色土層（約30cm）・地山層である青灰色粘質土層（約70cm以上）の層順が確認できた。また、第2号トレンチではアスファルト舗装と碎石層（約90cm）の下に地山層である暗青灰色粘質土層（約40cm）・青灰色粘質土層（約30cm）・淡茶褐色粘質土層（50cm以上）が検出された。第3・4号トレンチにおいて



立会調査 位置図

は、アスファルト舗装の下、碎石・攪乱層と続き、江戸期の地山層である黄褐色粘質土層が地表下約1mで確認できた。なお、全ての土層確認地点での遺構・遺物の検出は無かった。

4-45 釜無川流域下水道敷設事業に伴う立会調査

所在地 南アルプス市寺部地区
遺跡名 今井前第1・第2・第3遺跡
調査期間 2010年5月10日～6月9日
調査面積 15㎡(対象面積850㎡)
担当者 小林健二



立会調査 位置図

本事業は、昨年度南アルプス市鏡中條地内において実施された下水道管敷設工事の継続事業であるが、この一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地である今井前第1・第2・第3遺跡に接していることから、工事期間中下水道管理設部分の深さ約3～3.2mの掘削時に随時立会調査を行い、土層断面の観察及び遺構・遺物の有無の確認を行った。

調査の結果、アスファルトの下は碎石が敷かれ、その下には黒褐色粘土層、黄色褐色土層、砂礫層などが続き、地表下2m付近から下は安定した黄褐色粘土層が見られたが、今回も遺構・遺物は確認されなかった。

4-46 増穂商業高等学校水道管敷設事業に伴う立会調査

所在地 南巨摩郡富士川町最勝寺1372番地内
遺跡名 堤防推定地
調査期間 2011年3月25日
調査面積 約14㎡(調査対象面積約14㎡)
担当者 山本茂樹



立会調査 位置図

本事業は、グラウンド内に水道管敷設のための工事である。建物側から分水を行い、ここから石垣までは65～40cm程度の掘削を伴い、その後石垣に追わせてグラウンドまで延伸し、グラウンド内で水道の立ち口を設置するために約40cmの掘削が行われるものである。

工事地点には、戸川に沿って堤防遺跡推定地(明治21年測量地図による)が存在しており、掘削面積が非常に狭いことから立会調査を実施することとなった。

立会は、掘削に伴う分水箇所と石垣までの間、そしてグラウンド内の立ち口箇所である。工事による掘削深度は60cm前後で、建物側では文化創造館建設時に配水管などが4～5本埋設されていたため、慎重に掘削が行われた。

その結果、建物側では厚く盛土がなされていたこと、また配管設置による攪乱が著しかったことなどから堤防の存在を確認することはできなかった。

グラウンド側では同様に盛土がなされ、石垣は掘削深度より更に深く構築されていた。

このことにより、堤防推定地ではあるが、堤防の広がりや構築工法、構築材などを確認することはできず、遺物の出土も確認できなかった。

よって、遺構に影響を与えることはないため工事を継続する旨を告げた。

4-47 (都) 古府中環状浅原橋線電線共同溝設置工事に伴う立会調査

所在地 甲府市中央二丁目地内
遺跡名 甲府城下町遺跡
調査期間 2011年1月6日～19日(※土・日を除く夜間)
調査面積 約24.3㎡(調査対象面積約24.3㎡)
担当者 高野玄明

甲府市中央二丁目、NTT甲府支店西交差点周辺地中電線共同溝埋設工事に先立ち、地中埋設物の確認を行うための試掘溝8箇所について掘削が行われることとなり、埋蔵文化財包蔵地である「甲府城下町遺跡」の範囲内にあたるため、立会調査を実施した。試掘溝の規模は、幅1.0m×長さ2.0～5.5m、深さ1.5～2.5mである。

また、事業箇所が国道及び県道であり、埋文取扱要項により、事業分担でいくと県教委及び甲府市教委とで振り分けるが、情報の共有化を図るため、県教委と市教委の合同で22:00からの夜間に8箇所の立会調査を実施した。

このうちの、城東通りの3地点については、No.2と隣接し、埋設物の状況も同様を呈することから、立会調査は実施していない。

調査の結果、城東通りの2～7地点に関しては、NTT、水道、東電等の地下埋設物により文化層など生活面はほとんど見られない状況であった。

しかし、遊亀通り1・8地点の両地点からは黒褐色の粘土層から江戸期と思われる焼土層や、18～19C代の陶磁器片が認められている。このため、本体工事の着手前には埋蔵文化財の対応が必要とされる。

以上のように、交差点南北方向の遊亀通りに関して、埋蔵文化財が確認された箇所について、中北建設部と再度協議を行う中で、事業内容を踏まえ埋蔵文化財の対応を考えていく必要がある。



立会調査 位置図

4-48 都留バイパス建設事業に伴う立会調査

所在地 都留市井倉地内
遺跡名 美通遺跡
調査期間 2010年5月10日～年1月6日(木)の7日間
調査面積 約55.51㎡(調査対象面積 約110.9㎡)
担当者 笠原みゆき

美通遺跡の立会調査は、H21年度の発掘調査中に、赤道など様々な理由により調査ができなかった地点を対象としている。立会をおこなったNo.1～No.9について、調査実施日順に報告する。

5月10日(月)No.7地点付近、6月25日(金)No.4地点付近は電柱の移設工事である。1m四方・深さ1.1mの範囲で遺構・遺物は確認されなかった。7月1日(木)、No.3・4地点の立会を行った。長さ約20m、幅2m、深さ1mの遺構・遺物の確認調査を行った。7月28日(水)、No.5・6・8・9の立会調査をおこなった。4箇所とも幅1m、長さ3～4m、深さ1.5mのトレンチを設置した。No.5・6は、A区2-1と2-2の間を通る赤道で、No.5は民家と畑との境で段差1.2mほどの差があり、この段差をさらに1.5mほど掘り下げた。No.6では、朝日川の影響により、0.5mほど掘ると礫層にあたるという状態であった。No.8・9はB3区を横断する赤道であったが、12月7



立会調査 位置図

日(火)、№7の南側地点にH鋼を打ち込む工事に伴い立会をおこなった。12月16(木)、№2の立会調査をおこなった。1.6mほど掘り下げたが、道路構築時の掘削がかなり進んでいた。平成23年1月6日(木)、№7の立会調査をおこなった。この地点は、A区2-2とB区4の境にあたる生活道路で、幅0.7m×長さ7mという範囲での確認となった。立会地点のすべてで、遺構・遺物は発見されなかった。

4-49 県立大学職員官舎撤去工事に伴う立会調査

所在地 甲府市元紺屋39-1
 遺跡名 武田城下町遺跡
 調査期間 2011年1月6日、11日
 対象面積 約150㎡(対象面積1,789㎡)
 調査担当 宮里学

本立会い調査は、元山梨県立大学職員官舎の撤去工事に伴うものである。

当該位置は、甲府市元紺屋地内を南に流れる藤川の左岸に当たり、標高295mの扇状地になる。

調査時には、すでに3棟すべての上屋構造物は撤去されていたが、基礎部分は残置されており、この撤去作業に立会を実施した。

江戸時代に描かれた複数種の甲府城下町絵図を確認すると三の堀外となり、付近は寺町であるが当該地周辺では土地利用の歴史を示す表現はなされておらず、空白地帯となっている。中世武田城下町の東端にも含まれることから慎重に立会調査を実施した。

調査方法は、重機により基礎部分である鉄筋コンクリートの除却と平行し、文化財専門職員が立会った。敷地が袋小路の形状をしていることから、廃材の撤去および撤出作業を同時に進行させなければならず、トレンチなどを設定せず、立会調査が可能な地点を随時協議しながら実施した。

調査の結果、3地点約150㎡について、遺構および遺物は検出されなかった。原因は、上屋構造物の基礎および掘削の影響が地表下約1.3mに及んでおり、攪乱を受けたためと判断した。僅かであるが、地表下0.2mから堆積厚約0.4mで粘性のある暗褐色土層が検出されたが、不安定な堆積状況であった。さらに、地表下0.5mの深度を越えると出水が激しい状況であった。



立会調査 位置図

4-50 県立都留高等学校消火栓等修繕事業に伴う立会調査

所在地 山梨県大月市大月2丁目11-20
 遺跡名 大月遺跡
 調査期間 2010年8月10日(水)
 調査面積 約0.66㎡(調査対象面積1.3㎡)
 担当者 笠原みゆき

調査は、県立都留高等学校敷地内、消火栓配管漏水工事に伴う立会調査である。

県立都留高等学校の敷地から南側の大月バイパス周辺は、大月遺跡という縄文時代・平安時代の周知の遺跡である。過去の調査は10次まで行われ、今回の対象地点は、第3・4次調査区の間挟まれた位置であったため、立会調査をおこなった。

掘削の範囲は幅0.6m・長さ1.1m・深さ1mで、配管の漏水箇所を確認修繕工事が行われる前に、土層



立会調査 位置図

視察、遺構・遺物の確認を行った。その結果、配管が1mで確認されるまでは、敷設時の掘削工事の影響が大きく、ほとんどが埋め土であった。配管下に若干の黒色土が観察できたが、遺物等は確認できなかった。

4-51 笛吹警察署金田駐在所建設事業に伴う立会調査

所在地 笛吹市一宮町竹原田字大日町14-1
遺跡名 橋立遺跡
調査期間 2010年11月15・24日
調査面積 約64㎡(調査対象面積約198㎡)
担当者 高野玄明



立会調査 位置図

本事業について、事前に埋蔵文化財確認面までの深さを調べるための試掘調査を9月1日に実施した。この結果、地表下0.25～0.35mで暗褐色粘質土に土器の小破片やカーボン粒を包含する黒褐色粘質土が確認されており、事業課に対して、この黒色粘質土を保護する形で建設するよう報告した。

しかし、設計上の問題から、盛土等の施工が難しく、約0.4～0.6m程の掘削の必要があることから、今回の立会調査を行うこととなった。

・2010年11月15日(外柵工事)

事業地の外周部分に、長さ26.8m、幅1.0m、深さ0.4mの規模で外柵基礎工事による掘削が行われることから、土層断面等による遺構や遺物の確認を行った。

・2010年11月24日(建物本体工事)

別添図の建物本体工事に伴う基礎工事幅0.6m、深さ0.6m(布基礎)部分について、土層断面や遺構や遺物の確認を行った。

2回における立会調査の結果、試掘調査で確認され土器の小破片等を包含する暗褐色粘質土がみられ、それを10～20cm程掘り込む状況であったものの、遺構や遺物の確認はできなかった。

今回の外柵工事や建物本体工事に、試掘調査時に確認された暗褐色粘質土が地表下30～40cm程で確認されたが、今回の掘削範囲において、遺構や遺物の検出には至らず、今回の駐在所建設に関して支障ない旨を伝えて立会調査を終了した。

4-52 県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業に伴う立会調査

所在地 北杜市長坂町塚川地内
遺跡名 原町農業高校前遺跡
調査期間 2010年12月9日、2011年1月6日～7日、14日、17日、19日
調査面積 約175㎡(調査対象面積約175㎡)
担当者 保坂和博



立会調査 位置図

本事業は県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業で、ほ場内を長さ約220m、幅80cm、深さ70cmにわたり掘削し、下水道の配管を敷設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である原町農業高校前遺跡の範囲内に当たり、これまでに峡北地区総合学科高校(北杜高校)整備事業に伴い、2000年度から2002年度にかけて3次にわた

り発掘調査が実施され、縄文時代中期や平安時代の集落跡などが発見されていることから、学校施設課と学術文化財課との協議に基づき、工事工程に合わせて12月9日から1月19日にかけて延べ6日間立会調査を実施した。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、表土層（1層：客土層）以下にローム層（2層：地山層）が確認されたが、表土層（客土層）内からは、コンクリート基礎や水道管理設に伴う客土をそれぞれ確認した。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4-53 酪農試験場場内整備（場内通路）舗装工事に伴う立会調査

所在地 北杜市長坂町長坂上条621-2地内

遺跡名 酒呑場遺跡

調査期間 2010年12月1日

調査面積 約83㎡（調査対象面積約249㎡）

担当者 高野玄明



立会調査位置図

酪農試験場場内の作業用通路の舗装工事の実施に伴い、現地協議を行った結果、埋蔵文化財の状況（深さ等）を確認し、施工方法（掘削深度や盛土等）の参考とする試掘調査が必要となり、7月13日に調査を実施した。この結果については、施工箇所毎における調査結果のデータを提供している。

今回の立会調査は、前回の試掘調査のデータから、施工により遺構・遺物の確認面の一部に掘削が及ぶ施工箇所について、立会調査を実施することとなった。

施工範囲は①地点が幅3.0m、長さ41m、②が幅3.0m、長さ42mの範囲で行われる。これを踏まえて、その中心部に幅1.0m、長さ41m～42mの範囲で掘削を実施し、調査を行った。

調査の結果、掘削深度が最大で0.4m程度の掘削であるため、一部確認面であるローム層に0.1～0.15mまで及び、②地点で縄文時代中期の土器の小破片数点が見られたが、遺構には伴っておらず、また、これ以上の掘削が及ばないことから、施工にあたっては問題ないものと思われる。

立会調査の結果、最大でも掘削深度は0.4mであり、掘削をお願いした範囲内では、碎石など造成されている範囲内、一部分でローム層を掘り込む程度であった。

今回の、酪農試験場内での通路部分に当たる箇所の舗装工事に関する立会調査は、全く問題無いものと判断できる。

4-54 県庁舎耐震化等整備事業（本館南側駐輪場解体）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1（県庁構内）
遺跡名 甲府城跡
作業期間 2010年8月5・6日
調査面積 約300㎡
担当者 野代幸和・長田隆志



立会調査位置図

立会調査地点は、過去の調査実績から現況地盤下およそ2m付近まで遺構が認められないことを確認しているが、絵図との照合で堀、石垣、土塁等の遺構が存在している可能性が高いことから、学術文化財課ならびに管財課との事前協議に基づき、埋蔵文化財の確認調査を実施した。

調査は駐輪場部分のコンクリート土間と支柱基礎、通路部分のアスファルトの撤去時に埋蔵文化財の有無について確認を行った。掘削深度はコンクリート土間部分で300mm、支柱基礎部分で500mm、通路のアスファルト部分で50mmであり、遺構については検出されなかった。ただし、盛土部分からは瓦などの遺物が混入していたため慎重に対応した。基礎等の除去作業時に、駐輪場とは別のコンクリート基礎などが土間の下部から認められたが、これらについては、管財課と確認し法面保護工時に対応することとなった。

4-55 県庁舎耐震化等整備事業（オイルタンク撤去等）に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6-1（県庁構内）
遺跡名 甲府城跡
調査期間 2011年3月3日～30日
対象面積 約277㎡（対象面積277㎡）
担当者 宮里学



立会調査位置図

県庁舎耐震化整備に伴い、既設埋設管（ガス、電気）およびオイルタンク設備の撤去ならびに埋設工事が実施されることとなり、当該地が旧甲府城内であり周知の埋蔵文化財包蔵地であるため立会調査を実施した。

調査範囲は、既設物の撤去と工事計画に定められているためトレンチなど設定せず、作業の進捗に合わせ実施した。対象面積は277㎡で、7地点に及んだ。

調査方法は、重機による掘削の立会いと写真記録をおこなった。対象面積はすべて既掘の範囲であり、客土中から江戸期の瓦片が検出されたが、新たに遺構を確認するには至らなかった。

県庁舎東南部分の電気設備埋設工事では、本立会調査に先行して実施された立会調査（撤去時）で、甲府城大手門南北石垣の石垣石材が確認されており、新規埋設に当たっては石材の一部を除却し施工した。なお、除却した石材は県指定史跡甲府城跡石垣補修工事等で再利用する予定である。

4-56 西関東連絡道路第Ⅱ期建設事業に伴う立会調査

所在地 山梨市南地内
遺跡名 兄川河床遺跡・防空壕跡
調査期間 兄川河床遺跡:2010年11月15日～16日、22日、24日、
12月3日～4日、6日、8日、10日、2011年2月
22日、24日～25日、3月1日、18日
防空壕跡 2010年10月27日～29日
調査面積 兄川河床遺跡:約1,040㎡(調査対象面積約1,040㎡)
防空壕跡A:約110㎡(調査対象面積約110㎡)
防空壕跡B:約310㎡(調査対象面積約310㎡)
担当者 保坂和博



立会調査位置図

【兄川河床遺跡】本事業は、西関東連絡道路第Ⅱ期建設による上兄川橋梁(A1橋台・A2橋台)及び南山橋梁(A1橋台・A2橋台)工事に伴う立会調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である兄川河床遺跡の範囲内に当たり、これまでの調査で後期更新世の堆積層よりナウマンゾウ化石が確認されていることから、2010年11月12日に実施した現地協議に基づき、工事工程に合わせて立会調査を実施した。また、短期間の工事に伴う立会調査のため化石発掘を実施することは困難なため、層位的な調査に伴い、今後の分析(ナウマンゾウ化石産出層位の地質学的情報の収集)に供すべく土壌試料のサンプリングを行った。今回の調査では、ナウマンゾウ化石の検出には至らなかったが、上兄川橋梁A2橋台地点においてナウマンゾウ化石包含層に対比される堆積層(Ⅲ層:諺地礫層)が確認された。今後は、このⅢ層について、堆積年代、古環境および化石の検出を目的とした分析調査を行い、その成果を踏まえたうえで、正式な報告書作成を2011年度以降に行う予定である。

【防空壕跡】本事業は、西関東連絡道路第Ⅱ期建設による南山橋梁設置等の工事に伴う立会調査である。この地点は、太平洋戦争末期の1944(昭和19)年から1945年初めにかけて、「東京陸軍兵器補給廠山梨分廠」として掘られた兵器貯蔵壕であることから、2010年7月9日に実施した事前協議に基づき、現在確認できる2基(防空壕跡A・B)を対象に立会調査を実施した。防空壕跡A(北側)と防空壕跡B(南側)は、南山の東向き斜面下方に並列して開口している。防空壕跡Bの内部観察から本来はもう1基開口していたが、土砂の流入により開口部が閉鎖した状況であることが確認された。いずれの壕内部壁には、ツルハシなどで掘削した痕跡が確認されたが、当該期の遺物の発見には至らなかった。今後は、今回の測量調査とともに文献調査や地元の聞き取り調査などの成果をまとめ、正式な報告書作成を2011年度以降に行う予定である。

4-57 山梨リニア実験線建設事業に伴う現地踏査

所在地 笛吹市八代町米倉地内

調査期間 2010年12月14日

担当者 保坂和博

笛吹市八代町米倉地内においては、本事業に伴い2009年7月29日に現地踏査を実施したが、仮設道路の計画変更により掘削範囲が新たに広がることから今回の現地踏査を実施した。

踏査方法は、対象地がブッシュで覆われているため現地で確認された工事用境界杭（路盤境界杭）に沿って地形的環境等に基づき埋蔵文化財の確認を行った。

踏査の結果、掘削対象地は、北向急傾斜かつ高低差の著しい等高線の入り組んだ地形であり、また、遺物等の表面採集は確認されなかったことから遺跡はないものと判断される。なお、隣接地におけるこれまでの試掘結果および歴史的環境からも遺跡はないものと判断される。

以上のことから、今回の踏査対象地範囲内に埋蔵文化財は確認されなかったため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



立会調査位置図

第三章 県内の概況

1 届出件数と内容

平成19年度より文化財保護法施行令第5条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を富士吉田市を除く11市に移譲し、平成20年度には富士吉田市へ、平成22年度には身延町および富士河口湖町へ権限を移譲したことにより、県下全14市町へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行う。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている市を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって届出件数について、権限移譲した分は県への届出件数が減少している。

平成22年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条:8(9)件、法93条:162(126)件、法94条:33(39)件、法96条法0(0)件、法97条:7(1)件、法98条:0(0)件、法99条:204(180)件である。届出の総件数は414(355)件であり、前年度と比較すると、その件数は59件の増加となっている。

※()内数字は前年度。過去20年間の件数の変遷は74頁の表のとおり。

2 発掘調査

平成22年度に実施された県内の発掘調査件数は、74頁の表のとおり試掘調査を含めて213(189)件(発掘調査・学術調査等含む)となっている。その内訳は、県教委による調査が24(21)件、市町村教委による調査が181(159)件、民間調査組織による調査が8(9)件である。発掘調査の原因は、道路18(25)件、鉄道5(5)件、河川0(1)件、学校建設4(9)件、集合住宅9(8)件、個人住宅67(35)件、工場2(1)件、店舗3(9)件、個人住宅兼工場又は店舗0(0)件、その他建物35(21)件、宅地造成26(25)件、土地区画整理2(4)、公園造成1(1)、ガス・電気・電話・水道3(4)件、農業基盤整備事業11(17)件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業1(1)件、土砂採取1(0)件、その他開発10(15)件といった緊急調査と、学術調査8(5)件、保存目的の範囲確認7(4)件、遺跡整備3(1)件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立ち、民間開発においては個人住宅建設に大幅な増加傾向がみられる。 ※()内数字は前年度。

3 指定有形文化財(考古資料)及び指定史跡

平成22年度は、国指定史跡1件が指定されている。平成23年2月7日に国指定史跡として告示された「富士山」は山梨県と静岡県にまたがる国内最高峰の火山であり、また信仰の山として古代には遙拝、修験者による登拝から、戦国時代には一般信者の登拝へ、そして江戸時代には富士講による登拝の最盛期を迎えた。県内では、八合目以上の山頂信仰遺跡、麓にある富士御室浅間神社、北口本宮富士浅間神社、河口浅間神社の境内地や吉田口登山道などが指定地となった。これらは、山岳信仰のあり方を考える上で重要な史跡である。

平成17年に重要文化財に指定された釈迦堂遺跡縄文土器についても、順次修理が行われている。

4 発掘調査の成果と保存整備事業

平成22年度県内各地で行われた発掘調査(試掘調査含む)は延べ213カ所ある。北杜市高根町の神の前B遺跡では、縄文・古墳・平安時代の住居跡が発見されたほか平安時代の牧を囲む溝跡が発見され、同市大泉町の金生遺跡では縄文時代後期の敷石住居跡と貯蔵穴群が発見されている。笛吹市の国史跡甲斐

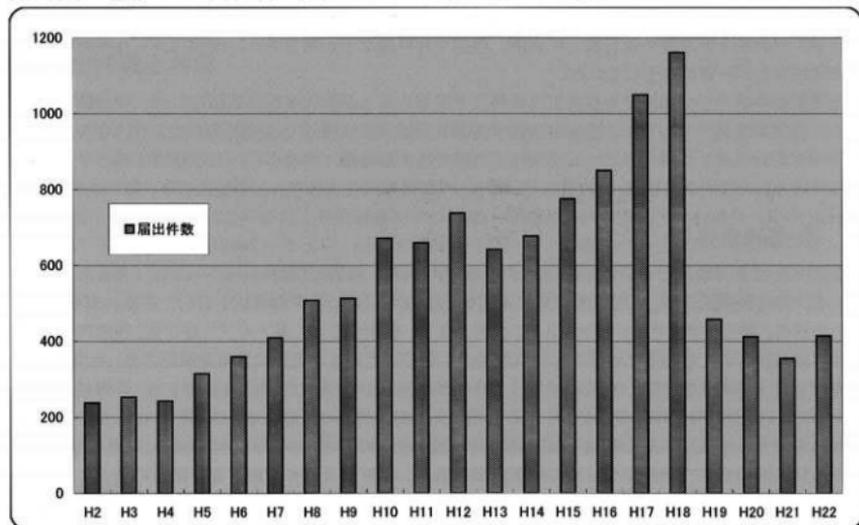
国分寺跡では金堂の東端を確認したほか、講堂の基壇と階段、地覆石を確認したほか織豊期の甲州金が出土した。甲府市の甲府城跡では大手門付近の遺構の一部や内堀に面した築城期の石垣などが確認されている。甲府城下町遺跡では石列、区画溝、埋桶や井戸跡などが発見され、埋桶内からは甲府城下町では事例が少ない牛骨が出土している。

埋蔵文化財専門職員については、国指定史跡武田氏館跡（甲府市）および新府城跡（韮崎市）で、発掘調査成果をもとに整備事業がすすめられ、国指定史跡甲斐国分寺跡（笛吹市）では発掘調査により、今後の整備の方向性を定める成果が得られている。県指定史跡では甲府城跡（甲府市）の石垣修繕工事と平成22年度から開始された鉄門復元整備、連方屋敷（山梨市）では発掘調査成果をもとに整備工事が行なわれている。

5 発掘調査体制

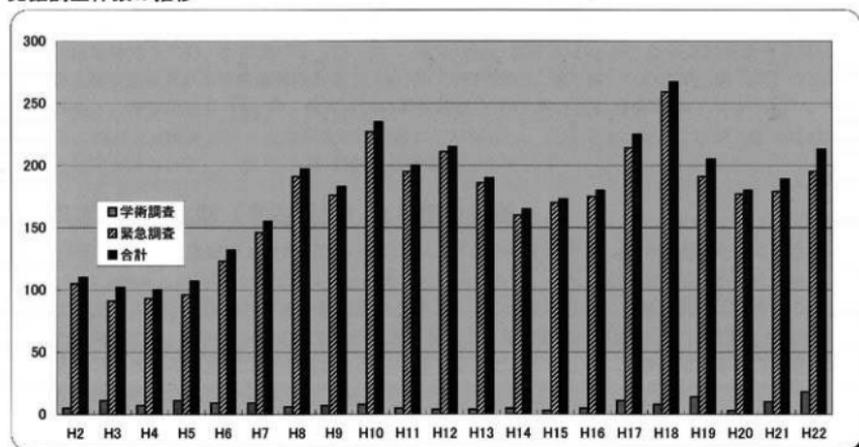
埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課4名、埋蔵文化財センター22名（うち教員派遣交流4名、非常勤嘱託5名）、博物館2名、考古博物館3名（外に非常勤嘱託1名）である。市町村では、甲府市6名、富士吉田市2名、甲州市3名、大月市1名、韮崎市2名、南アルプス市3名、笛吹市4名（外に非常勤嘱託2名）、甲斐市2名（外に非常勤嘱託1名）、北杜市3名（外に非常勤嘱託2名）、山梨市2名、中央市1名（昭和町を兼務）、都留市1名、上野原市1名、市川三郷町1名、身延町1名、忍野村1名（非常勤嘱託）、富士河口湖町1名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち18市町村で約66%となり、平成15年度の61%（64市町村のうち39市町村）と比べ増加しているが、担当職員数は54名から14名減の40名（嘱託等含む）の配置状況であり、市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。近年発掘調査事業量が減少する一方で、行財政改革が進められるなど、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しつつあり、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作り資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移※H19年度以降は各市町内での処理件数は含まない。



年度	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
届出件数	238	253	243	315	359	410	508	513	671	659	738	642	677	775	850	1050	1161	458	412	355	414

発掘調査件数の推移



年度	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
学術調査	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5	11	8	14	3	10	18
緊急調査	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175	214	259	191	177	179	195
合計	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180	225	267	205	180	189	213

2010年度 県内施設調査一覧

No	施設名	所在地	面積(㎡)	用途の区分	建物の年代	調査目的	調査主体	調査期間
1	北郷運動場	甲府市東五三丁目地内	60.00	軟布地	織文・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H22.4.7 ~ H22.4.8
2	朝沢運動場	甲府市朝沢三丁目地内	1,184.76	集落跡	織文・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H22.4.6 ~ H22.4.14
3	翠谷運動場	甲府市翠谷三丁目地内	6.00	軟布地	出類	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.4.6 ~ H22.4.6
4	堤下B運動場	甲府市某支那軒字堤下丁地内	22.29	軟布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.4.9 ~ H22.4.9
5	武田城下町運動場	甲府市古町中野富士川地内	5.50	雑草	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.4.9 ~ H22.4.9
6	武田城下町運動場	甲府市堀形一丁目地内	1.00	雑草	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.4.13 ~ H22.4.13
7	寺本福寿寺	信濃市山梨町寺本蓮沼町地内	70.00	社寺跡	奈良・平安	朱鳥目的の範囲内跡	新沢市教育委員会	H22.4.15 ~ H22.4.26
8	西光寺跡	山梨県山梨市地内	26.18	軟布地	平安・中世	集落住宅	信濃市教育委員会	H22.4.26 ~ H22.4.27
9	落合新跡	山梨県落合町内	4.00	雑草跡	中世	個人住宅	山梨県教育委員会	H22.4.21 ~ H22.4.21
10	金生遺跡	北杜市大泉町金生戸内内	104.00	桑畑跡	織文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H22.4.1 ~ H22.4.30
11	金生遺跡	北杜市大泉町金生戸内内	4.00	桑畑跡	織文・平安・中世	その他建物(衛生・支線)	北杜市教育委員会	H22.4.5 ~ H22.4.30
12	上土室遺跡	甲府市川田町地内	1,168.00	軟布地	古墳・平安	宅地造成	中府市教育委員会	H22.4.30 ~ H22.5.7
13	物置跡	上野原市上野原字外城地内	50.00			その他建物(老人ホーム)	上野原市教育委員会	H22.4.27 ~ H22.4.28
14	武田城下町遺跡・大子下遺跡	甲府市大手三丁目地内	3.00	軟布地・雑草	織文・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.4.15 ~ H22.4.28
15	徳都遺跡	甲府市徳都三丁目地内	6.00	軟布地	雑草・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.4.12 ~ H22.4.12
16	包蔵跡	山梨県北杜市野々宮地内	136.00			その他建物(宗教施設)	山梨県教育委員会	H22.4.12 ~ H22.4.16
17	大穴遺跡	甲府市東五三二丁目地内	10.00	軟布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.5.13 ~ H22.5.13
18	武田城下町遺跡	甲府市北町地内	1.50	雑草	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.5.21 ~ H22.5.21
19	西久保遺跡	北杜市高尾町西久保西中丸地内	400.00	桑畑跡	織文・平安・近世	その他開墾(自家菜園)	北杜市教育委員会	H22.5.17 ~ H22.6.4
20	中丸遺跡	信濃市埴川町小川字中丸地内	20.00	桑畑跡	織文・古墳	雑草	山梨県教育委員会	H22.5.19 ~ H22.5.20
21	中丸遺跡	信濃市埴川町小川字中丸地内	97.00	軟布地・桑畑跡	織文・古墳	雑草	山梨県教育委員会	H22.6.1 ~ H22.7.9
22	川谷遺跡	信濃市留置町小川町地内	35.00	軟布地	織文・中世・近世	雑草	山梨県教育委員会	H22.6.1 ~ H22.6.30
23	町辻遺跡	新沢市八代町町辻地内	136.00	集落跡	古墳・近世	農家整備事業	新沢市教育委員会	H22.6.1 ~ H22.6.1
24	原町農業高校遺跡	北杜市長坂町原町地内	3,000.00	桑畑跡	織文	保存目的の範囲内跡	山梨県教育委員会	H22.6.1 ~ H22.6.4

No	通 番 名	所 在 地	面積(m ²)	通数の選定	通数の年代	調査目的	調査主体	調査期間
25	包蔵域外	南アルプス山麓中条郷内	7.50	7.50	近世	その他建物(社会体育施設)	南アルプス山教育委員会	H22.6.2 ~ H22.6.2
26	口吉地下町遺跡	甲府市北二丁目地内	7.00	地下町	近世	土地区画整理	甲府市教育委員会	H22.6.7 ~ H22.6.7
27	城趾A遺跡	南アルプス市甲府町内	1.44	城台地	縄文・近現代	個人宅	南アルプス市教育委員会	H22.6.1 ~ H22.6.1
28	上土呂遺跡	甲府市北条町上土呂郷内	4.00	城台地	古墳・平安	個人宅	甲府市教育委員会	H22.6.7 ~ H22.6.17
29	藤ヶ久保遺跡	南アルプス市瑞穂町内	359.54	散石地	近世・近現代	柱礎跡・石垣跡等(池田遺跡)	南アルプス市教育委員会	H22.6.3 ~ H22.6.3
30	河川遺跡	南アルプス市赤松地内	8.80	散石地	奈良・古墳・中世	遺跡	山梨県教育委員会	H22.5.26 ~ H22.5.26
31	中下戸遺跡、見川河川遺跡	山梨市乃木村内	3,000.00	散石地・その柱の遺跡	石臼跡・平安	遺跡	山梨県教育委員会	H22.6.7 ~ H22.9.30
32	美達遺跡	新南町井倉町内	400.00	築塔遺跡	縄文・古墳	遺跡	山梨県教育委員会	H22.5.27 ~ H22.7.30
33	三光遺跡	南吹上郡奥町菅原村内	200.00	散石地	縄文	築塔	山梨県教育委員会	H22.5.27 ~ H22.6.30
34	町田口遺跡	南巨摩郡新井町菅原町内	2,700.00	その柱の礎石(散石跡等)への遺跡	近世・近現代	遺跡	山梨県教育委員会	H22.6.1 ~ H22.9.30
35	小久保B遺跡	心北市高根町上久保町内	629.00	築塔遺跡	縄文・平安	個人宅	山梨県教育委員会	H22.6.7 ~ H22.6.7
36	母橋遺跡	北富士高原町下湯沢(赤上)郷内	8,771.00	散石地	縄文・平安・中世	土師器取	北富士市教育委員会	H22.6.8 ~ H22.6.11
37	百々・上八ヶ岳遺跡	南アルプス市上八ヶ岳町内	1.60	散石地	奈良・中世	個人宅	南アルプス市教育委員会	H22.6.9 ~ H22.6.9
38	紅葉赤風洞(八ヶ岳2遺跡)	南アルプス市御前町内	14.86	散石地	平安・中世	集会所	南アルプス市教育委員会	H22.6.16 ~ H22.6.16
39	武止山下町遺跡	甲府市大手一丁目地内	4.00	地下町	中世	個人宅	甲府市教育委員会	H22.6.10 ~ H22.6.25
40	村腰遺跡	甲府市島毛村内	252.20	築塔遺跡	古墳・平安	牛車遺跡	甲府市教育委員会	H22.6.15 ~ H22.6.17
41	八幡第1遺跡	南アルプス市御前郷内	6.40	散石地	古墳・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H22.6.10 ~ H22.6.10
42	八幡第2遺跡	甲府市基町下湯沢(赤上)郷内	2,322.00	散石地	古墳・平安	道路	南アルプス市教育委員会	H22.6.18 ~ H22.10.1
43	武田城下町遺跡	甲府市武田三丁目地内	270.00	地下町	平安	集会所	甲府市教育委員会	H22.5.25 ~ H22.7.12
44	御前川遺跡	甲府市川平郷内	600.00	築塔遺跡	古墳・平安	道路	甲府市教育委員会	H22.6.10 ~ H23.1.30
45	城部遺跡、甲府城、石段遺跡	甲府市朝三丁目地内	4.00	散石地・地下町	奈良・近世	個人宅	甲府市教育委員会	H22.6.17 ~ H22.6.17
46	甲府城下の遺跡	甲府市朝三丁目地内	33.00	地下町	近世	宅地造成	甲府市教育委員会	H22.6.21 ~ H22.6.21
47	八幡第1遺跡	南アルプス市御前郷内	10.40	散石地	古墳・平安	個人宅	南アルプス市教育委員会	H22.6.11 ~ H22.6.11
48	甲府城下の遺跡	甲府市朝三丁目地内	15.00	地下町	近世	個人宅	甲府市教育委員会	H22.6.15 ~ H22.6.30
49	武ノ尾遺跡	甲府市武生寺丁目郷内	4.00	散石地	平安	個人宅	甲府市教育委員会	H22.6.24 ~ H22.7.9

No	通 路 名	所 在 地	面積(m ²)	道路の規模	道路の年代	調査目的	調査主体	調査期間
60	姥子跡	富士内市市上町跡(下地内)	6.00	その他(詳細不明)	中世・近世	学歴制(型別不明)	山梨県教育委員会	H22.6.28 ~ H22.7.30
51	包蔵地外	山梨市牧丘町(伏地内)	50.00			その他遺物(稲池遺跡)	山梨市教育委員会	H22.6.1 ~ H22.6.4
52	包蔵地外	山梨市市川・南・北地内	533.00			農業施設等遺構	山梨市教育委員会	H22.6.17 ~ H23.3.31
53	包蔵地外	山梨市落合地内	12.00			その他施設(土壌改良)	山梨市教育委員会	H22.6.30 ~ H22.6.30
54	包蔵地外	山梨市牧丘町(伏地内)	45.00			その他遺物(稲池分署)	山梨市教育委員会	H22.6.28 ~ H22.7.2
55	裾野東川堤防分群	南アルプス市東郷・藤久地内	100.00	その他遺跡	近世・近代・その他	保存目的の範囲調査	南アルプス市教育委員会	H22.6.23 ~ H22.7.16
56	平野町下町遺跡	平野町朝日・丁目地内	6.20	遺下町	近世	個人住宅	中府市教育委員会	H22.7.5 ~ H22.7.13
57	中府跡跡	中府市丸の内・丁目地内	80.00	城跡	中世・近世	保存目的の範囲調査	山梨県教育委員会	H22.7.10 ~ H22.7.17
58	包蔵地外	山梨市歌田内	140.00			その他遺物(供養所跡)	山梨市教育委員会	H22.6.1 ~ H22.6.4
59	黒石天神遺跡	中府市黒石一丁目地内	4.00	散石地	古墳・平安	個人住宅	中府市教育委員会	H22.7.5 ~ H22.7.5
60	村之内遺跡	中府市利田町(竹ノ内地内)	1.50	散石地	古墳・平安	個人住宅	中府市教育委員会	H22.7.7 ~ H22.7.8
61	渡部遺跡	山梨市牧丘町(野々宮地内)	40.00	築港跡	縄文・平安	その他遺物(宗家施設)	山梨市教育委員会	H22.5.18 ~ H22.5.31
62	西陣地C遺跡	中府市大里町(西陣地内)	6.00	散石地	平安・中世	個人住宅	中府市教育委員会	H22.7.1 ~ H22.7.1
63	高野緑跡	南阿蘇郡高野町(宇真緑地内)	952.00	城跡	平安・中世	ガス・風呂・電灯・水道	山梨県教育委員会	H22.6.15 ~ H22.6.15
64	酒巻遺跡	北村市長坂町(高野上島地内)	789.00	散石地・集落跡	縄文・古墳	保存目的の範囲調査	山梨県教育委員会	H22.7.12 ~ H22.7.13
65	富士山五合目遺跡ヒノ段	富士吉野町上町(富士山北山内)	6.00	その他(遺跡不明)	中世・近世	学歴制(型別不明)	山梨県教育委員会	H22.7.15 ~ H22.7.30
66	出雲遺跡	北村市小瀬町(出雲遺跡地内)	3,548.15	散石地	縄文	個人住宅	北村市教育委員会	H22.7.5 ~ H22.7.16
67	清水遺跡	北村市大泉町(清水遺跡地内)	454.00	散石地	縄文・平安・中世	個人住宅	北村市教育委員会	H22.7.8 ~ H22.7.9
68	御店田遺跡	甲斐市天下条(御店田内)	321.15	集落跡	古墳・平安・中世	個人住宅	甲斐市教育委員会	H22.7.14 ~ H22.8.31
69	上野原小学校遺跡	上野原市上野原地内	159.00	散石地	縄文・古墳・奈良	その他遺物(稲池分)	上野原市教育委員会	H22.7.9 ~ H22.7.9
70	御前川遺跡	南阿蘇郡高野町(御前川地内)	5.00	散石地	縄文・中世・近世	宅地造成	南阿蘇郡教育委員会	H22.7.14 ~ H22.7.30
71	南出遺跡	山梨市下内川地内	20.80	散石地	平安	個人住宅	山梨市教育委員会	H22.7.9 ~ H22.7.9
72	跡部遺跡	甲斐市千原町(丁目地内)	175.00	散石地	古墳	宅地造成	甲斐市教育委員会	H22.7.5 ~ H22.7.31
73	裾野東川堤防北群	南アルプス市(裾野地内)	255.00	その他遺跡(堤防)	近世・近代	道路	南アルプス市教育委員会	H22.7.20 ~ H22.7.30
74	裾野遺跡・新沢堤防北群	南阿蘇郡御代二之宮(新沢地内)	1,543.00	散石地・その他(遺跡不明)	古墳・奈良・平安	集合住宅	南阿蘇郡教育委員会	H22.7.27 ~ H22.7.29

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
75	鹿伏塚遺跡	北上市長原町長原上条田内	100.00	築石跡	旧石器・縄文・古墳	その他開発(貯水水溝)	北上市教育委員会	H22.7.27 ~ H22.7.30
76	神大塚遺跡	鹿伏(長原町長原上条田)跡跡跡跡	70.68	敷布地	縄文	その他開発(貯水水溝)	鹿伏市教育委員会	H22.7.8 ~ H22.7.8
77	玉川遺跡	鹿伏市玉川町山内	6.00	敷布地	縄文・古墳	個人住宅	鹿伏市教育委員会	H22.5.20 ~ H22.5.20
78	甲府城下町遺跡	甲府市武田二丁目地内	10.00	城下町	近世	集合住宅	甲府市教育委員会	H22.7.26 ~ H22.7.26
79	外河原テラス遺跡	甲府市増坪寺ヶ谷地内	3.00	敷布地	古墳・奈良	店舗	甲府市教育委員会	H22.7.20 ~ H22.7.20
80	武田城下町遺跡	甲府市武田二丁目地内	3.75	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.7.30 ~ H22.8.13
81	御崎遺跡	南アルプス市寺部地内	2,856.00	敷布地	平安・中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H22.8.3 ~ H22.8.3
82	百々、トノ田遺跡	南アルプス市上ノ田地内	2,300.00	敷布地	奈良・平安	農業施設整備事業	南アルプス市教育委員会	H22.8.2 ~ H22.12.28
83	金の尾遺跡	甲斐市大下条地内	418.21	築石跡	縄文・古墳	個人住宅	甲斐市教育委員会	H22.8.6 ~ H22.8.31
84	山本遺跡	北上市長原町長原下条字相澤地内	6,700.00	敷布地	縄文	道路	北上市教育委員会	H22.8.6 ~ H22.8.12
85	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目地内	10.44	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.8.11 ~ H22.8.20
86	勝野堀段本里	箱崎内勝原町舟之上地内	989.00	その他の遺跡(本里)	奈良・中世	農業施設整備事業	箱崎市教育委員会	H22.7.29 ~ H22.8.13
87	豊小学校遺跡	南アルプス市十五所地内	304.67	敷布地	奈良・古墳	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H22.8.11 ~ H22.8.11
88	朝霧西遺跡	北上市長原町長原上条地内	627.00	築石跡	縄文・古墳・中世	その他建物(軽装作業場)	北上市教育委員会	H22.8.17 ~ H22.8.18
89	上ノ山遺跡	南阿蘇郡南阿蘇町上ノ山地内	150.00	敷布地	中世	その他遺跡(スタールハウス駐車場)	南阿蘇郡教育委員会	H22.8.17 ~ H22.8.18
90	百々上ノ田遺跡	南アルプス市上ノ田地内	1,055.45	敷布地	中世・近世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H22.8.19 ~ H22.8.25
91	社口遺跡	北上市高野町村山町野影金山地内	738.00	築石跡	縄文・平安	宅地造成	北上市教育委員会	H22.8.23 ~ H22.8.24
92	江戸山遺跡	北上市小瀬町町下條地内	1,487.00	敷布地	縄文・奈良・平安	その他建物(ワイン醸造施設)	北上市教育委員会	H22.8.20 ~ H22.8.25
93	武田城下町遺跡	甲府市古府中町地内	6.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.8.30 ~ H22.8.30
94	新林寺1遺跡	北上市大泉町青石堂地内	500.10	敷布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北上市教育委員会	H22.8.25 ~ H22.8.27
95	若林第1遺跡	北上市大泉町青石堂地内	1,179.04	敷布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北上市教育委員会	H22.8.25 ~ H22.8.27
96	中野遺跡	北上市小瀬町町下天神宮地内	492.07	築石跡	縄文・平安	個人住宅	北上市教育委員会	H22.8.26 ~ H22.8.31
97	甲斐四分寺跡	箱崎市一宮町區分地内	817.18	社寺跡	奈良・中世	道路	箱崎市教育委員会	H22.5.17 ~ H22.8.31
98	包蔵地外	南阿蘇郡野尻町八木町寺部地内	2,089.00	社寺跡	中世	道路	山梨県教育委員会	H22.8.9 ~ H22.8.10
99	定家(州)館跡	南阿蘇郡富士河口町御山地内	57.00	社寺跡	中世	分館跡(山梨県内、前阿蘇郡津和野町)	山梨県教育委員会	H22.9.1 ~ H22.10.8

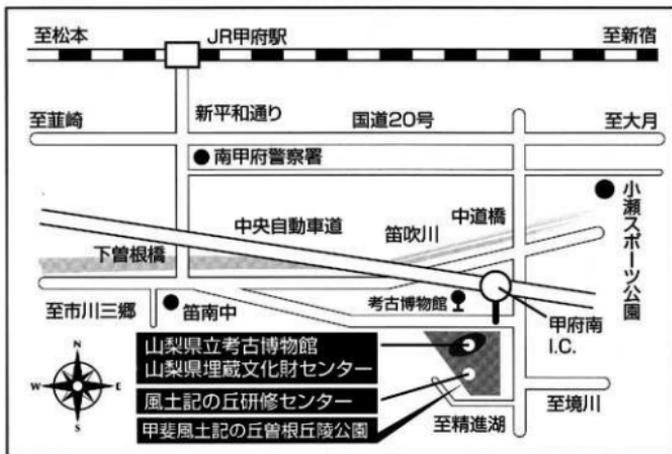
No	遺 跡 名	所 在 地	面積(m ²)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
100	徳土郡東横田神社有地	郡都留郡富士河口湖町勝山地区内	89.00	社中跡	平安～近世	静岡県(山梨県)山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	H22.9.1 ~ H22.10.8
101	橋立遺跡	豊後市一宮町四丁字上八田地区内	198.35	散布地	奈良～近世	その他建物(荏苔所建設)	山梨県教育委員会	H22.9.1 ~ H22.9.1
102	中野町跡	甲府市丸の内一丁目地区内	1,565.00	城跡跡	中世～近世	その他開発(体育施設)	山梨県教育委員会	H22.9.13 ~ H22.9.28
103	宮代遺跡	北杜市須玉町山内地区内	3,204.00	築塔跡	縄文・平安	その他建物(体験学習施設)	北杜市教育委員会	H22.9.13 ~ H22.9.17
104	東下屋敷遺跡	北杜市長町日井沢寺下屋敷地区内	496.16	散布地	縄文	その他建物(木工所作業場)	北杜市教育委員会	H22.9.10 ~ H22.9.13
105	明北西河原遺跡	甲府市上町地区内	40.00	散布地	平安	宅跡造成	甲府市教育委員会	H22.9.1 ~ H22.9.1
106	社野遺跡	羽吹市御前町下瀬崎字富士塚地区内	50.28	散布地	縄文	その他建物(妙法堂)	羽吹市教育委員会	H22.9.6 ~ H22.9.7
107	北野遺跡	羽吹市現川町寺高地区内	1,436.41	築塔跡	縄文～平安	農業並整備事業	羽吹市教育委員会	H22.9.7 ~ H22.9.17
108	高田城下町遺跡	甲府市鳳形三丁目地区内	4.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.9.10 ~ H22.9.10
109	藤塚	甲府市上阿部字家越地区内	5.00	古墳	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.9.10 ~ H22.9.17
110	先道遺跡	都賀市井島地区内	30.00	築塔跡	縄文	遺跡	都賀市教育委員会	H22.8.31 ~ H22.8.31
111	百々々八田遺跡	南アルプス市上八田地区内	3.20	散布地	奈良～中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H22.9.13 ~ H22.9.13
112	瀧水寺跡	南アルプス市船場地区内	4.55	散布地	平安～中世	集会所	南アルプス市教育委員会	H22.9.17 ~ H22.9.17
113	包蔵池外	山梨市下地内川柳地区内	96.00		平安～中世	宅跡造成	山梨市教育委員会	H22.9.14 ~ H22.9.15
114	八ヶ岳遺跡	甲府市橋根町寺平林地区内	100.00	散布地	縄文・古墳～平安	その他建物(私人ホーム)	甲府市教育委員会	H22.9.17 ~ H22.10.1
115	藤倉伊予守屋敷	北杜市長町大生田字多勢新井地区内	427.57	城跡跡	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H22.9.22 ~ H22.9.24
116	北田遺跡	羽吹市須玉町大生田字多勢新井地区内	847.18	散布地	縄文・奈良～中世	浮城跡(山梨県(山梨県)分庁建設)	羽吹市教育委員会	H22.9.29 ~ H22.11.26
117	大塚丘	富士市田上町吉田地区内	36.00	その他の遺跡(塚)	中世～近世	遺跡	富士市教育委員会	H22.10.5 ~ H22.10.20
118	天狗頭遺跡	甲府市千寿町四丁目地区内	3.75	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.9.28 ~ H22.9.28
119	赤貝遺跡	甲府市右左町赤貝地区内	8.80	築塔跡	縄文～古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.9.30 ~ H22.9.30
120	西川遺跡	南アルプス市市西水北地区内	221.85	散布地	奈良・古墳・中世	その他建物(児童館)	南アルプス市教育委員会	H22.9.9 ~ H22.9.30
121	百々々上八田遺跡	南アルプス市上八田地区内	300.00	散布地	奈良～中世	その他開発(開発内容未定)	南アルプス市教育委員会	H22.7.21 ~ H22.9.28
122	長田川遺跡	南アルプス市千寿町地区内	4.00	築塔跡	古墳～近世～中世～古墳	その他遺跡(構型型無銘築塔地層)	南アルプス市教育委員会	H22.8.18 ~ H22.8.18
123	加賀美条丘遺跡	南アルプス市町田地区内	6.40	その他の遺跡(赤瓦地跡)	古墳	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H22.8.11 ~ H22.8.11
124	千手除染遺跡	甲府市塩山藤原字千手除染地区内	715.04	散布地	縄文	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.8.30 ~ H22.8.31

No	区 画 名	所 在 地	面積(㎡)	道路の幅員	道路の年代	調査目的	調査主体	調査期間
125	古瀬遺跡	播磨市石井町山崎字古瀬跡地内	3,401.00	集落跡	奈良・平安	宅地造成	播磨市教育委員会	H22.10.7 ~ H22.10.15
126	寺木蔵寺跡	相模野赤日越町寺木字寺木力地内	193.00	社寺跡	奈良・平安	奈良時代の遺跡調査	相模野教育委員会	H22.10.4 ~ H22.12.28
127	東下屋敷遺跡	北はり原町白萩字下屋敷地内	545.00	敷布地	縄文	個人住宅	北はり原教育委員会	H22.10.13 ~ H22.10.14
128	堀部遺跡	甲府市堀部三丁目地内	4.75	敷布地	奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.10.8 ~ H22.10.8
129	甲府城下町遺跡	甲府市朝日二丁目地内	4.50	敷布地・堤下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.10.7 ~ H22.10.7
130	山木遺跡	北はり原町長原(長原町管内)	1,818.00	敷布地	縄文	その他遺物(作業所)	北はり原教育委員会	H22.10.19 ~ H22.10.20
131	包蔵地外	南アラス市西野地内	14.76			個人住宅	南アラス市教育委員会	H22.10.19 ~ H22.10.19
132	七町天神遺跡	甲府市上町字天神地内	38.50	敷布地	古墳～平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H22.10.19 ~ H22.10.19
133	川田原跡・北田遺跡	甲府市川田町地内	200.00	生道遺跡・敷布地	古墳～平安	その他開拓(石材置き場)	甲府市教育委員会	H22.10.13 ~ H22.10.20
134	武田城下町遺跡	甲府市青柳町地内	14.40	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.10.18 ~ H22.10.29
135	利川遺跡・河川兵衛敷跡	南都留郡富士河口湖町利川山内	8.00	敷布地・集落跡	古墳～近現代	個人住宅	富士河口湖町教育委員会	H22.10.8 ~ H22.10.8
136	下野兵衛敷敷産	播磨市八代町南地内	7.00	城跡跡	奈良～中世	その他遺物(ダクリンストーン)	播磨市教育委員会	H22.9.3 ~ H22.9.3
137	赤吹遺跡	甲府市下石田二丁目地内	4.80	敷布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.10.29 ~ H22.10.22
138	穂ノ木遺跡	甲府市板倉町字穂ノ木地内	5.40	敷布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.10.21 ~ H22.10.21
139	包蔵地外	南アラス市集野地内	100.00			遺跡	南アラス市教育委員会	H22.10.18 ~ H22.11.30
140	萩比B遺跡	南アラス市小笠原地内	2.50	敷布地	古墳・平安	個人住宅	南アラス市教育委員会	H22.10.19 ~ H22.10.19
141	沖大原遺跡	新廣市小形山字大原地内	1,392.02	敷布地	縄文	工場	新廣市教育委員会	H22.10.37 ~ H22.10.37
142	住吉遺跡	都賀市法郎字住吉地内	30.00	集落跡	縄文	その他遺物(清書遺跡跡地)	都賀市教育委員会	H22.10.26 ~ H22.10.29
143	包蔵地外	南アラス市小笠原地内	1,346.81			宅地造成	南アラス市教育委員会	H22.11.2 ~ H22.11.2
144	包蔵地外	南アラス市江原地内	6.29			その他遺物(新築貯水槽)	南アラス市教育委員会	H22.10.20 ~ H22.10.20
145	南阿土遺跡	南都留郡富士河口湖町南阿土字下野内	4.00	敷布地	古墳	個人住宅	富士河口湖町教育委員会	H22.11.5 ~ H22.11.5
146	毛3山遺跡	南都留郡富士河口湖町毛3山字一木地内	10.00	敷布地	平安	個人住宅	富士河口湖町教育委員会	H22.10.26 ~ H22.10.26
147	北鹿遺跡	播磨市堤川町赤松地内	750.00	集落跡	縄文・古墳・奈良	農業基盤整備事業	播磨市教育委員会	H22.11.10 ~ H22.12.28
148	七原田遺跡	甲斐市島上長字七原田地内	1,913.00	敷布地	縄文・古墳・奈良	保存目的の遺跡調査	甲斐市教育委員会	H22.11.5 ~ H22.11.30
149	赤瀬A遺跡・赤瀬B遺跡	南アラス市沢原地内	200.00	敷布地	中世～近現代	道路	南アラス市教育委員会	H22.10.20 ~ H22.11.30

No	遺 跡 名	所 在 地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
150	包蔵地外	南アルプス市代田内	20.00			その他遺物(磁土器類)	南アルプス市教育委員会	H22.11.18 ~ H22.11.30
151	大杉区遺跡	北杜市高橋町高橋字大杉里内	1,897.00	散布地	縄文・平安・中世	宅地造成	北杜市教育委員会	H22.11.19 ~ H22.11.22
152	包蔵地外	南アルプス市古市郷地内	10.00			その他遺物(即火槽)	南アルプス市教育委員会	H22.10.21 ~ H22.10.21
153	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目内	695.00	城下町	古墳・中世・近現代	その他遺物(庁舎建設)	山梨県教育委員会	H22.11.25 ~ H22.11.31
154	下長崎遺跡	笛吹市八代町水井地内	10.00	集落跡	縄文・古墳・平安・中世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H22.11.25 ~ H22.11.26
155	御炊中丸遺跡	御炊市御炊町上黒野字小丸地内	350.00	集落跡	縄文	集落	山梨県教育委員会	H22.12.1 ~ H22.11.31
156	包蔵地外	山梨市上之郷地内	64.80			宅地造成	山梨市教育委員会	H22.10.12 ~ H22.10.14
157	下大内遺跡	北杜市明野町小宮原内	496.00	集落跡	弥生・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H22.11.15 ~ H22.11.16
158	手白尾遺跡	北杜市長坂町大井ヶ原字白尾地内	1,973.89	散布地	縄文	宅地造成	北杜市教育委員会	H22.11.4 ~ H22.11.10
159	若林野1遺跡	北杜市大黒町野井出字石堂地内	662.32	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H22.11.2 ~ H22.11.4
160	大玉原遺跡	北杜市明野町高取字天王原内	89.01	集落跡	縄文	その他建物(機常滑磁器遺跡)	北杜市教育委員会	H22.11.19 ~ H22.11.22
161	柳沢遺跡	甲府市南沢一丁目内	4.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.11.22 ~ H22.11.22
162	柳沢遺跡	甲府市南沢三丁目内	5.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H22.11.27 ~ H22.11.27
163	葦川水洞	甲府市葦山赤坂地内	1,200.00	その他の遺跡(水洞)	近現代	店舗	甲府市教育委員会	H22.10.7 ~ H22.11.30
164	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内一丁目内	1,800.00	城下町	近世	その他遺物(庁舎建設)	甲府市教育委員会	H22.11.9 ~ H22.3.31
165	藤ヶ丘一丁目遺跡	甲府市藤ヶ丘二丁目内	48.00	敷地	古墳	宅地造成	甲府市教育委員会	H22.12.1 ~ H22.12.7
166	甲斐田分寺跡	笛吹市一宮町甲斐田内	1,249.00	社寺跡	奈良～中世	遺跡跡	笛吹市教育委員会	H22.9.27 ~ H22.9.30
167	包蔵地外	南アルプス市他郷内	33.52			宅地造成	南アルプス市教育委員会	H22.12.15 ~ H22.12.15
168	寺野遺跡	山梨市牧丘町平野々宮地内	6.00	散布地	縄文	農業基盤整備事業	山梨市教育委員会	H22.11.8 ~ H22.11.19
169	穂巻遺跡	山梨市牧丘町平野々宮地内	10.00	散布地・城跡	縄文・平安～近世	農業基盤整備事業	山梨市教育委員会	H22.11.8 ~ H22.11.19
170	包蔵地外	南アルプス市町屋美地内	21.00			宅地造成	南アルプス市教育委員会	H22.12.14 ~ H22.12.14
171	穂巻遺跡	千代寺町穂巻・山梨遺跡	80.00	散布地・古墳	縄文・古墳	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H22.12.14 ~ H22.12.24
172	包蔵地外	南アルプス市市野地内	5.25			ガス・電気・電話・水道	南アルプス市教育委員会	H22.12.20 ~ H22.12.20
173	荒川前田遺跡	甲府市池田二丁目内	200.00	散布地	古墳・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H22.12.22 ~ H22.12.24
174	岩の上遺跡	笛吹市一宮町大字井内	30.00	散布地	古墳～平安	公園造成	山梨県教育委員会	H23.1.11 ~ H23.1.11

No	支 部 名	所 在 地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査日約	調査主体	調査期間
175	新井B遺跡	北杜市高瀬町高瀬字新井地内	810.88	散布地	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H23.1.11 ~ H23.1.12
176	清巻白樺葉形銅鐸遺跡	北杜市長瀬町中丸字平久保地内	413.79	集落跡	縄文・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H23.1.18 ~ H23.1.25
177	橋山平南遺跡	北杜市長瀬町大平ヶ森字橋山平南地内	2,958.00	散布地	縄文	宅地造成	北杜市教育委員会	H23.1.14 ~ H23.1.17
178	包蔵地外	南アルプス市江尻地内	9.12			集落住宅	南アルプス市教育委員会	H23.1.27 ~ H23.1.27
179	包蔵地外	山梨市小瀬田地内	84.00	集落跡	古墳	宅地造成	山梨市教育委員会	H22.12.14 ~ H23.1.14
180	米法遺跡	甲斐市大F米字源田地内	1,382.00	集落跡	縄文・古墳	宅地造成	甲斐市教育委員会	H23.1.12 ~ H23.3.4
181	寺原1遺跡	大府市七郎町和田寺原地内	2.00	散布地	縄文	個人住宅	大府市教育委員会	H23.2.1 ~ H23.2.2
182	甲府城下町遺跡	甲府市北門二丁目地内	650.00	城下町	近世	上地区部整理	甲府市教育委員会	H23.1.24 ~ H23.3.31
183	包蔵地外	山梨市下井坂地内	110.00			店舗	山梨市教育委員会	H23.1.27 ~ H23.2.2
184	上の平安遺跡	新吹市八代町集倉地内	20.00	集落跡	縄文・平安	供送	山梨県教育委員会	H23.2.16 ~ H23.2.17
185	日下部栗原跡遺跡	山梨市上津川地内	75.00	散布地	古墳	その他建物(納貯)	山梨市教育委員会	H23.2.9 ~ H23.2.14
186	包蔵地外	南アルプス市熊鷹地内	2,529.00			宅地造成	南アルプス市教育委員会	H23.2.16 ~ H23.2.16
187	狐原遺跡	新吹市石和町中川字六角地内	350.00	集落跡	縄文・奈良・中世	その他民家(建替増設)	U(栗原教育委員会)	H23.2.23 ~ H23.2.24
188	新新田北遺跡	北杜市長瀬町大八田字新新田地内	496.50	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H23.2.14 ~ H23.3.8
189	赤巻京遺跡	山梨市下石津地内	2.00	集落跡	縄文	その他建物(農薬用倉庫)	山梨市教育委員会	H23.2.23 ~ H23.2.23
190	中尾遺跡	中央山本原字中尾地内	20.00	散布地	縄文・古墳・平安	その他民家(民家増設)	中央市教育委員会	H23.2.24 ~ H23.2.28
191	駒沢遺跡	南アルプス市駒沢地内	465.00	散布地	奈良・古墳・中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H23.3.1 ~ H23.3.1
192	坂ノ上神沖遺跡、百々ノ上八田遺跡	南アルプス市坂本水地内	100.00	散布地	縄文・中世	学校施設	南アルプス市教育委員会	H23.2.23 ~ H23.3.31
193	包蔵地外	南アルプス市上今路遺跡地内	2,678.69			宅地造成	南アルプス市教育委員会	H23.3.8 ~ H23.3.8
194	山梨大学遺跡・武内橋下町遺跡	甲府市大手二丁目地内	6.00	そのほかの遺跡(包蔵地)外/古	奈良・中世	学校施設	甲府市教育委員会	H23.1.14 ~ H23.1.14
195	屋敷跡II遺跡	北杜市明野町上字存堂上地内	323.78	集落跡	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H23.3.3 ~ H23.3.4
196	保久保遺跡	北杜市長瀬町中丸字保久保地内	394.52	散布地	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H23.3.9 ~ H23.3.31
197	甲ノ沢遺跡	北杜市大淵町西井出字大井地内	563.00	集落跡	縄文・平安	その他民家(新築)	北杜市教育委員会	H23.3.17 ~ H23.3.24
198	甲ノ沢遺跡	北杜市大淵町西井出字大井地内	2.00	集落跡	縄文・平安	方丈・電燈・電話・水道	北杜市教育委員会	H23.3.17 ~ H23.3.17
199	秋穂石家古墳群西支群	甲府市横田地内	100.00	古墳	古墳	農業基盤整備以外の農業関係事業	甲府市教育委員会	H23.3.17 ~ H23.3.23

No	遺 跡 名	所 在 地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
200	山形農業高校出遺跡	北北市長坂町藤川字久遠畑内	500.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	北北市教育委員会	H23.3.30 ~ H23.3.31
201	或田氏館跡	甲府市古府甲府地内	550.00	城下町	中世	遺跡整備	甲府市教育委員会	H22.8.2 ~ H23.3.31
202	包蔵地外	山梨市常合地内	20.00			その他建物(福祉施設)	山梨市教育委員会	H23.3.30 ~ H23.3.30
203	南出遺跡	山梨市牧正町春井地内	175.00	集落跡	縄文・古墳・平安	工場	山梨市教育委員会	H22.11.30 ~ H23.3.11
204	町野遺跡・米倉B 築堤	甲府市八代町家外地内	14.00	築堤跡	古墳～近世	道路	甲府市教育委員会	H23.1.17 ~ H23.3.20
205	茶久遺跡	甲府市千塚一丁目地内	1,000.00	集落跡・その他の跡	弥生～中世	学校建設	財団法人山梨文化財研究所	H22.4.26 ~ H22.7.10
206	藤原源遺跡	北北市明野町上神取地内	911.00	集落跡	縄文・平安	学術研究	財団法人山梨文化財研究所	H22.8.9 ~ H22.8.21
207	ニヶ所遺跡	山梨市三ヶ所地内	1,620.00	集落跡	平安～近世	道路	財団法人山梨文化財研究所	H22.7.7 ~ H22.9.30
208	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目地内	52.00	城下町	中世・近世	道路	財団法人山梨文化財研究所	H22.7.12 ~ H22.7.20
209	不毛園跡古墳	甲府市福新町、寄光寺町地内	100.00	古墳	古墳	学術研究	山梨学院大学考古学研究会	H22.8.9 ~ H22.9.17
210	F新兵器庫遺跡	甲府市八代町高畑内	77.00	城跡跡	奈良～中世	その他建物(ガソリンスタンド)	甲府潤滑株式会社	H22.9.27 ~ H22.10.18
211	楓樹B 遺跡	甲州市旗山郡野畑内	1,700.00	集落跡	古墳～平安	道路	財団法人山梨文化財研究所	H22.9.30 ~ H22.12.31
212	藤原家遺跡	山梨市牧正町置平、千野々家地内	189.32	集落跡	縄文	農業活動調査	財団法人山梨文化財研究所	H23.1.11 ~ H23.1.22
213	新府城跡	甲府市中野市中野上野地内	1,000.00	中世	城跡跡	遺跡整備	甲府市教育委員会	H22.5.21 ~ H23.3.31



●路線バスご利用

甲府-豊富（中道橋経由）考古博物館で下車

●高速バスのご利用（2時間）

新宿西口…南回り、甲府行（中道下車）徒歩5分

甲府南インター下車・徒歩10分

年 報 27

印刷日 2012年3月16日

発行日 2012年3月23日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
 山梨県甲府市下曾根町923
 TEL 055-266-3016・055-266-3881
 FAX 055-266-3882
 E-mail: maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 株式会社 少国民社
 山梨県甲府市丸の内2-7-24
 TEL 055-226-2125

